山形大学人文学部

研究年報

第 12 号

目　　次

論　　文

対人葛藤解決における間接方略の遍在性
……福　野　光　輝・土　橋　美　幸…… 1

ペテン歯医者と雄鶏合戦
——ハンス・ゼーバルト・ベーハム作《ケルミス大版画》のモティーフ分析——
……元　木　幸　一…… 21

制御理論を用いた在庫管理モデルの一解析——リードタイムが変動する場合
……西　平　直　史…… 43

無限に拡大する「民族性」
——ヒトラーとピブーン，２人の独裁者の言説をめぐって
……渡　辺　将　尚…… 53

鳶色の靄の彼方に—『その前夜』の翻訳と受容をめぐる試論
……相　沢　直　樹… 1 (170)

調査報告

三重県玉城町における地域公共交通システム——元気バスの調査報告——
……砂　田　洋　志…… 67

平成25年度研究・教育活動報告 …… 83

投稿規程 …… 148

平成 27 年 3 月

山形大学人文学部

Faculty of Literature & Social Sciences, Yamagata University Annual Research Report

Vol. 12

CONTENTS

Articles

Ubiquity of indirect strategies in interpersonal conflict management
..... Mitsuteru FUKUNO・Miyuki DOBASI..... 1

Swindler Dentist and Pole-Climbing for Rooster: An Analysis of Han Sebald Beham's *Large Kermis* Woodcut ..... Koichi MOTOKI..... 21

An Analysis of Inventory Management Models Using Control Theory
—a case when the lead time is varied ..... Naofumi NISHIHIRA..... 43

Das sich unendlich vergrößernde Volkstum
—Diskurse der zwei Diktatoren, Hitler und Phibun ..... Masanao WATANABE..... 53

Beyond the dark-brown hazy sky over Tokyo
—An essay on the history of Japanese translations and the reception of Turgenev's *On the Eve*
..... Naoki AIZAWA... 1 (170)

Investigation Report

An Investigation Report on Regional Public Transportation System of Tamaki Town in Mie Prefecture — An Investigation Report on Genki Bus — .....Hiroshi SUNADA... 67

2013 Academic Year Report on Reseach and Education 83

Requirements for Contributors 148

MARCH 2015

Faculty of Literature & Social Sciences

Yamagata University

山形大学人文学部研究年報　第12号（2015. 3）1－20

対人葛藤解決における間接方略の遍在性[1]

福　野　光　輝（山形大学人文学部）
土　橋　美　幸（北海学園大学経済学部）[2]

本研究は，暗黙の対人葛藤状況（葛藤が存在していることを互いに認識しつつも顕在化していない状態）において使用される暗示，不本意，沈黙といった間接方略の規定因とその帰結を検討した。具体的には，協調，対決，回避，間接のいずれかの方略をおもに用いた葛藤経験を回答者に１つ想起させ，各方略の使用頻度や方略使用による目標達成度を，日本人大学生156名（男性109名，女性47名）に評価させた。その結果，間接方略は，対決方略より頻繁に，協調方略および回避方略と同程度に使用されていた。また間接方略は，他人より恋人や友人といった親密な葛藤相手に使用されていた。さらに間接方略は資源獲得や集団内調和，同一性保護といった複数の目標達成と結びついていた。これらの結果から，葛藤当事者は，葛藤の初期段階，つまり葛藤が顕在化する前から，間接方略を使用して葛藤解決を試みている可能性が示唆された。

キーワード：暗黙の葛藤状況，間接方略，関係の親密さ，性差，目標達成

問　　題

暗黙の葛藤状況と間接方略

本研究の目的は，暗黙の葛藤状況において相手への影響を意図して使用される解決方略を間接方略と定義し，現実の対人葛藤において間接方略がどのような相手に対してどの程度使用され，どのような機能をもつかを検討することである。

対人葛藤の解決は，当事者がどのような行動をとるかに規定される。葛藤時に当事者がとる行動は解決方略とよばれ，日本人は葛藤の顕在化を避ける回避方略や，相手の言う通りに従う同調方略を用いやすい（e.g., Ohbuchi & Takahashi, 1994; Smith & Bond, 1999）。回避や同調は消極的な解決方略とされ（大渕 , 2005），協調（対話や説明，交渉など）や対決（主張，強制，攻撃など）といった積極的な方略に比べると，葛藤相手の行動におよぼす効果は弱い（福島・大渕 , 1997）[3]。

日本人において葛藤回避が典型的だとすると，現実場面で葛藤が顕在化する機会は確かに少な

1　本論文の執筆にあたり，二人の審査者から貴重な示唆をいただきました。記して感謝いたします。
2　所属は本研究実施当時のもの。
3　ただし，近年，日本人において，回避方略が集団内の調和を促進したり，周囲の人々に協調的な印象を与えるといった肯定的な側面も指摘されており（大渕・渥美 , 2002; Ohbuchi & Atsumi, 2010），消極的な解決方略の意義も強調されつつある。また，欧米人を対象にした研究においても，組織内の人間関係や価値観にまつわる葛藤に関しては，それに積極的に対処するより回避することが組織の有効性を高めるという報告もある（De Dreu & Van Vianen, 2001; Jehn, 1997; Murnighan & Conlon, 1991）。

いかもしれない（大渕 , 1997）。とくに，葛藤相手が初対面であったり，争点の重要性が低い場合にはそうであろう（中津川・吉田・高井 , 2012）。しかし対人葛藤がしばしば強い不快感情を伴うものであり，そうした感情的覚醒の高まりが，他者から見て識別可能な身体徴候をもたらすとすれば（Frank, 1988），葛藤の存在を完全に隠すような回避方略の使用は実際には困難だろう。多くの場合，双方の当事者は，表面化させないまでも，そこに葛藤が存在していることを認識しているのではないだろうか。その意味で，これまで葛藤が表面化していないという点から，葛藤の潜在化（否認）として一括りにされてきた葛藤事態のなかには，暗黙の葛藤状況というべき，潜在化と顕在化のいわば中間的な状態が少なからず含まれていたと考えられる。

対人葛藤の解決過程を理解するうえで，こうした区別が必要と考える理由の１つは，暗黙の葛藤状況が，葛藤の潜在時に使用されやすい回避方略とは異なる解決方略を促すと予想されることにある。暗黙の葛藤状況では，当事者は怒りや不満を解消したいと動機づけられながらも，葛藤を顕在化させることは避けようとする。そのため，対決や協調といった直接的な方略より，自分の意思や要求を暗に伝え，相手の行動変化を促すような間接的な方略を試みるのではないだろうか。婉曲に不満を伝達するような間接方略は，回避や同調と並んで，消極的な解決方略に位置づけられるが，相手への影響力行使を求めず葛藤を完全に潜在化させようとする回避や同調とは質的に異なると考えられるため，区別して検討することが必要であろう。

現実の対人葛藤において，葛藤の潜在化とは別に，暗黙の葛藤状況が遍在するとすれば，こうした間接方略の使用はむしろ一般的であるとともに有効であると考えられるが，実証的な検討はあまり進んでない。ひとつには，研究方法の問題が挙げられる。対人葛藤研究における代表的な手法の１つにエピソード法がある（e.g., Gelfand, Nishii, Dyer, Holcombe, Ohbuchi, & Fukuno, 2001; Ohbuchi & Tedeschi, 1997）。これは参加者に実際の葛藤経験を自由に想起してもらい，それについて評価させることで，解決過程を探ろうとするものである。葛藤経験の自由想起は，個人内の印象的な葛藤記憶を想起させやすく，また積極的な方略を用いた顕在化した葛藤事例が集まりやすい。そこで本研究では，「特定の方略をおもに用いた」という制約をつけたうえで実際の葛藤経験を想起させる方法を採用することで，間接方略が用いられるような暗黙の葛藤事例も一定数収集することに努めた[4]。

間接方略の理論的位置づけ

解決方略の分類において，間接方略を他の方略と区別して整理したものの１つに Falbo & Peplau（1980）がある（図１）。彼らは，解決方略を「双方向－一方向」および「直接－間接」の２次元からとらえた。「双方向－一方向」の次元は相手の願望や感情に配慮した行動をとるか，

4　使用方略を特定して葛藤経験を想起させることで，特定の方略が解決過程におよぼす効果を検討することは可能になるが，個人内でどの方略が相対的に使用されやすいかという点は検討が困難になる。本研究の着眼点は，後者より前者にあるため，このような手続きを採用した。ただし，方法部分で述べるように，本研究では，質問紙の最後で具体的な想起事例を離れた，当該方略の一般的な使用頻度について聞いており，間接的な検討は可能である。

相手の気持ちを考慮せず一方的に働きかけるかの違いであり，「直接－間接」は自分の要求や期待を明確に表現するか間接的に表現するかの違いを表す。このうち間接的な方略としては，肯定的感情（愛想を示したりなだめたりする），暗示（示唆やヒントを与える），否定的感情（怒りやいらだちを表す），沈黙（黙り込んだり口をきかない），無干渉（無視する）が挙げられている。

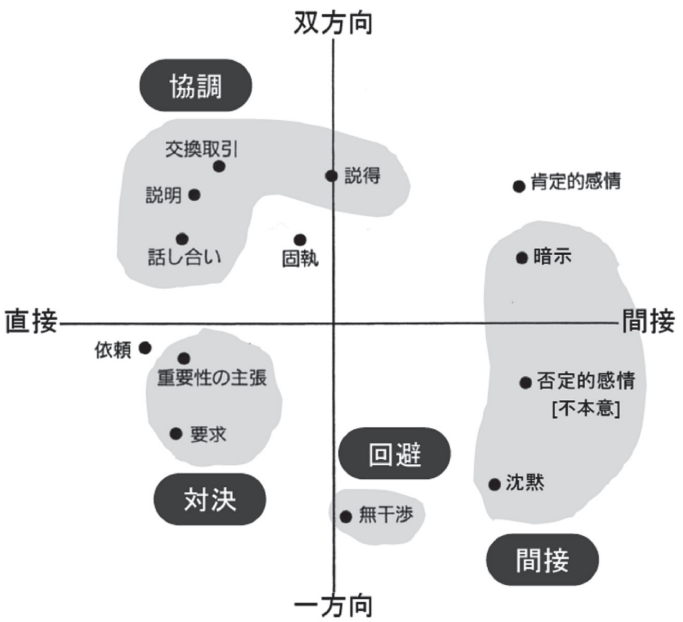


図１　解決方略の分類（Falbo & Peplau, 1980）

また，大渕（2005）は，Falbo & Peplau（1980）の方略分類を踏まえ，葛藤回避に関する議論を整理するなかで，拒否，服従，回避を消極的方略としてまとめた。このうち拒否は話し合いを拒否して頑なに自己利益を守ろうとしたり，相手を苦しめるために口をきかないことを意味し，Falbo & Peplau（1980）の沈黙や無干渉（無視）に近い。服従は相手に逆らわず，要求を受容して対立を解消しようとするもので，Falbo & Peplau（1980）の枠組みには含まれていないが，解決方略研究ではしばしば独立した方略タイプとしてとらえられる同調と同義である（e. g., 福島・大渕 , 1997）。さらに，中津川他（中津川・吉田・海原・高井 , 2010; 中津川他 , 2012）は，解決方略を「建設的－非建設的」と「潜在化－顕在化」の２次元から整理している。「建設的－非建設的」の次元は葛藤相手との関係維持の志向性に関わる軸で，「潜在化－顕在化」は葛藤に対する言語的表明の軸を表している。この２次元の組み合わせからなる４つの方略は次の通りである。まず，「建設的潜在化方略」は，葛藤相手に配慮しうまく自己内の葛藤を隠す行動であり，同調や回避に近いと考えられる。「建設的顕在化方略」は相手に配慮しながら自己内の葛藤を表明する行動で，双方向で直接的な協調方略に対応する。「非建設的潜在化方略」は，「言葉には出さないがむっとした表情をしてしまう」など，自己内の葛藤を隠そうとするがうまく隠しきれない行

動とされている。また，「非建設的顕在化方略」は一方向で直接的な対決方略と対応する。これら４方略のうち，「非建設的潜在化方略」は Falbo & Peplau（1980）の挙げた一方向的間接方略と概念的に対応していると考えられる。

このように, Falbo & Peplau（1980）以降も, 方略分類の試みにおいて間接方略の存在が指摘され, 概念的な位置づけも試みられてきた。ただ，いずれも葛藤を知覚しながらそれを顕在化させずに自分の不満や意思を間接的に伝達したり，相手の行動を変化させようと意図してとられる行動という共通点をもっており，結果的には Falbo & Peplau（1980）の枠組みは現在でも有効であるように思われる。そこで本研究では，Falbo & Peplau（1980）の分類に立脚し，間接方略の下位分類として暗示，否定的感情，沈黙を取りあげることとした。なお，肯定的感情と無干渉は，相手への意思表明もしくは伝達といった意味合いが弱く，回避に近いと考えられることから，本研究では検討の対象としない。

間接方略と関係の親密さ

間接方略が婉曲的な影響戦略であるとすれば，間接方略が使用されていることを少なくとも葛藤相手が認識することによって，その効果が発揮される。そのためには，葛藤相手が間接方略使用者の非言語手がかりに敏感であることが必要となる。２者関係において相手の非言語手がかりに注意を向け，それに反応しようとするかどうかを規定する要因の１つに，関係の親密さがある（Fiske, 1992）。友人や恋人関係においてみられる親密さは，相手の欲求や関心に対する高い応答性によって特徴づけられる（e.g., Reis & Clark, 2013）。このことは, 間接方略が被使用者にとって認識されやすいのは親密な関係においてであることを示唆する。また，親密な関係は必然的に長期的な相互作用を伴うため，それまでに蓄積された相手に関する知識や行動履歴を基準にして, 相手の非言語行動の微妙な変化を感知しやすくなると考えられる。このことは，方略使用者からすれば，間接方略によって自分の意思を伝達できるという期待を高めることにつながるだろう。一方で，家族も親密な相手ととらえることが可能であるが，いわば不随意的な関係であり，葛藤によって関係が解消される可能性は，随意的な関係である友人や恋人にくらべて低いため，間接方略より直接方略が志向されると考えられる。こうした議論から次のような仮説を立てた。間接方略をおもに用いた葛藤経験として想起された事例において，葛藤相手として挙げられるのは，友人や恋人が最も多いだろう（仮説１a）。同様に，葛藤事例を離れた一般的な葛藤状況においても，間接方略は他の相手より友人や恋人に対して多く使用されているだろう（仮説１b）。

間接方略による目標達成

解決方略は，対人葛藤への何らかの対処を目的としてとられる行動と考えられるので，解決方略の選択は目標志向的に行われる。対人葛藤は，個人の願望や期待が他者によって妨害された状態であるので，当事者は妨害された願望や期待の実現に動機づけられる。しかし対人葛藤は複雑

な状況であるため，当初の願望や期待に加えて，様々な別の目標が喚起されうる。葛藤解決において人々は複数の目標達成に動機づけられると仮定する多目標理論によれば（大渕・福島 , 1997; Ohbuchi & Tedeschi, 1997），葛藤時に喚起される目標は，資源的目標と社会的目標に大別される。前者は自分の要求を受容させたり，評判を得るといった個人的利益の獲得に関わるもので，後者は関係維持，集団内調和，支配，同一性などに関わるものである（大渕・渥美 , 2002）。社会的目標のうち，支配は相手を罰するなどの勢力の行使，同一性は自尊心を維持したり，他人の言いなりになる人だと思われずにすんだなど，望ましい自己イメージの伝達を意味する。

間接方略は，暗黙の葛藤状態という葛藤の潜在化と顕在化の中間的な状況で使用されやすいと仮定されるため，間接方略による目標達成は葛藤の潜在化および顕在化のそれぞれの利点を反映したものになると推察される。まず葛藤の潜在化は葛藤を回避することによってもたらされる。葛藤回避は葛藤相手との関係維持を実現させると考えられるため，間接方略においても，葛藤相手との関係維持が達成されやすくなると予想される。一方，葛藤の顕在化は社会的目標より資源的目標が重視されたときに生じやすいと考えられ，協調や対決といった積極的方略と関連する。本研究で取りあげる間接方略が，沈黙や暗示，否定的感情といった婉曲に不満を伝達する反応であることを考慮すると，その性質はどちらかといえば対決方略と共通する。対決方略は資源的目標の達成に貢献すると考えられることから，間接方略においても資源的目標，すなわち個人的利益や社会的評価の獲得を促すだろう。つまり，想起された葛藤事例において，間接方略は多目標理論で仮定される社会的目標と同程度に資源的目標の達成に寄与すると考えられる。具体的には，間接方略の使用は関係維持と資源獲得の両方に寄与するだろう（仮説２）。

間接方略と性差

解決方略の選択には性差があり，男性は主張的な方略を，女性は協調的な方略をとりやすいという報告がある（e.g., Kimmel, Pruitt, Magenau, Konar-Goldband, & Carnevale, 1980; Ohbuchi & Tedeschi, 1997）。また女性は，交渉や宥和といった積極的な方略と同程度に，同調や回避といった消極的方略を用いる傾向がある（大渕 , 2005）。こうした方略選択における性差は，部分的には，解決過程で喚起される目標の違いで説明され，男性は課題達成を，女性は関係維持を比較的重視しやすい（Bowles, Babcock, & McGinn, 2005; 大渕・福島 , 1997）。女性の方略選択が，消極性や関係維持目標の重視によって特徴づけられるとすると，間接方略は，男性より女性において選択されやすいと予想される（仮説３）。

方　　法

参加者

大学生156名（男性109名，女性47名，平均年齢18.8歳［18～22歳］）が質問紙調査に参加した。調査は授業の単位取得のための加点課題として，教室において集団で実施した。

手続き

参加者には，実際の対人葛藤経験を１つ想起させ，その内容を自由記述させた。葛藤経験を想起させる際，あらかじめ協調，対決，回避，間接のいずれかの解決方略をおもに用いた経験を想起するよう指示した[5]。協調方略を用いた経験を想起させる場合には，(a) あなたもしくは相手が不満や不快感を口にするなどして対立が表面化し，(b) その対立を解決するために穏やかに説得したり話し合いをするなど双方向的なやり方でおもに対応した経験を想起するよう指示した。同様に，対立方略を用いた経験の想起においては，(a) あなたもしくは相手が不満や不快感を口にするなどして対立が表面化し，(b) その対立を解決するために，自分の要求を強く主張したり，相手を責めるなど一方的なやり方で対応した経験を書かせた。回避方略を用いた経験の想起では，(a) あなたも相手も不満や不快感を表だって口にせず，対立が表面化しなかったとともに，(b) 対立がなかったかのように振る舞ったり，なるべく相手の言う通りにするという回避的なやり方で対応した事例を思い出させた。さらに，間接方略を用いた葛藤経験に関しては，(a) あなたも相手も不満や不快感を表だって口にすることはなく，対立が表面化することはなかったが，(b) その対立を解決するために，押し黙ったり，その後のノリが悪くなったりして間接的に不満を伝えるなどして，それとなく相手の対応を改めさせようとする間接的なやり方でおもに対応した経験を書かせた。このように，各参加者は，調査者によって指定された１つの解決方略をおもに用いた葛藤経験を想起した。

葛藤経験を記述した後，参加者は葛藤相手の性別と関係（友人，母親，恋人，初対面の人など，その他を含む１）を答えた[6]。次いで葛藤の深刻度として，「その対立はどのくらい深刻だったか」と「その対立はどのくらい心理的に負担だったか」について，「まったく深刻（負担）でない」（１）から「非常に深刻（負担）だった」（７）までの７段階で回答させ，この２項目の平均値を葛藤の深刻度とした（$r = .65, p < .01$）。さらに，参加者には，方略内の具体的な行動評価（表１）および方略使用による目標達成度（表２）を，「まったくない」（１）から「非常にある」（７）までの７段階で評価させた[7]。目標達成度の項目に関しては，大渕・渥美（2002）で使用された組

5　参加者数の内訳は，協調条件および対決条件が43名ずつ，回避条件および間接条件が35名ずつであった。

6　葛藤相手との関係を回答させる際は，父親，母親，兄弟姉妹，その他の家族，親戚や親類，先輩や目上の人，後輩や目下の人，先生，友人，親友，恋人，クラスメイト，同居人，知人，近所の人，顔見知り，初対面の人，その他といった18種類の選択肢を示し，いずれか１つを選択させた。

7　目標達成度項目（表２）には，「所属するグループ」の調和や課題達成，および「まわりの人」から望ましい印象を得るといった項目も含まれていたが（項目６～９，項目17～19），参加者によって想起された葛藤経験が２者間だけのものである場

表１　解決方略項目の内容と記述統計量，信頼性係数

		平均	*SD*	α
協調	なるべく穏やかに辛抱強くその相手を説得した。	4.49	1.98	0.72
	自分の要求を聞いてくれたら別のことでは相手の要求を聞くと申し出た。	2.77	1.85	
	お互いに自分の要求を下げることによって解決策を模索した。	2.91	1.78	
	相手の要求や事情を詳しく知ろうとした。	4.81	1.80	
	相手の要求を受け入れ，自分が譲歩することで話しをまとめようとした。	3.14	1.92	
	双方の利害を両立させるような解決策を話し合った。	3.72	2.07	
	相手の抵抗感を減らそうとつとめた。	4.65	1.80	
	あまり感情的になりすぎず理性的に行動しようとした。	4.79	1.90	
対決	その相手に対して怒りや不満をあらわにした。	5.16	1.86	0.72
	その相手を批判した。	4.72	1.98	
	その相手の非を責めた。	4.19	1.84	
	自分の主張や言い分を強く主張した。	5.28	1.55	
	相手になめられないようにふるまった。	3.70	2.13	
	自分の主張の正当性を説明しようとした。	5.21	1.70	
	相手の主張の正当性を否定しようとした。	4.19	1.79	
	相手の要求や言い分が多少理解できても，自分からは引き下がらないようにした。	4.12	1.99	
	その場を自分がコントロールしようとした。	4.09	1.60	
回避	自分が対立を感じていないかのようにふるまった。	5.23	1.72	0.69
	不満や不快感を顔に出さないようにつとめた。	5.51	1.63	
	別のことがきっかけであるふりをして，その場から離れた。	2.71	2.16	
	対立的な雰囲気を出さないように自分をおさえた。	5.37	1.61	
	相手に同調し，相手のいうとおりにした。	4.06	2.13	
	さりげなく話題を変えた。	3.23	2.06	
間接	無表情になり口数を減らした。	5.03	2.05	0.73
	対立を感じた後のノリを悪くした。	4.71	1.87	
	対立を感じた後，それとは無関係のことで話しかけられても反応のうすい返事をした。	4.31	1.94	
	具体的に主張したわけではないが，できるだけ論理的に話して自分の気持ちを知らせようとした。	2.89	1.97	
	言葉では同調したが，態度ではそれを手放しで受け入れているわけではないというそぶりを見せた。	3.17	1.95	
	表だって反対はしなかったが，相手の言っていることのネガティブな側面をさりげなく挙げた。	2.57	1.52	
	相手のいうことを受け入れたが，それにしたがうのは面倒だというようなそぶりを見せた。	3.51	1.98	

注）表中の平均と *SD* は，それぞれ左記項目の全体平均値と *SD* を表す。

織内葛藤に関する項目のうち19項目を対人葛藤場面に合わせた表現に変えて用いた。その後，葛藤結果への満足度（「対立がうまく解決されたにしろそうでなかったにしろ，全体としてその対

合には，これらの項目に対して「まったくない」（1）と回答させた。

表２　目標達成項目の内容と探索的因子分析結果

		因子１ 資源	因子２ 集団内調和	因子３ 関係維持	因子４ 支配	因子５ 同一性
1.	自分の要求を相手に受け入れさせることができた。	.792	−.069	−.046	.112	−.136
2.	自分の正しさを認めさせることができた。	.789	−.107	.062	.043	.004
3.	自分に対する扱いを改善させることができた。	.751	−.007	.116	.059	−.073
4.	自分の信用や評判を守ることができた。	.682	.170	−.049	−.181	.054
14.	公正な解決をはかることができた。	.507	.024	.390	−.077	−.049
5.	自分の自尊心やプライドを守ることができた。	.408	.028	−.194	.169	.278
18.	所属するグループ内の秩序を維持できた。	−.040	.885	.084	.034	−.011
17.	所属するグループ内の和をたもつことができた。	−.079	.853	.209	.124	−.082
19.	所属するグループ全体の業績に貢献できた。	.052	.731	−.102	−.026	.055
16.	その相手とよい関係を維持することができた。	−.053	.044	.893	−.009	−.021
15.	その相手とお互いによく理解し合うことができた。	.047	.067	.757	.060	.031
13.	その相手から公平に扱ってもらえた。	.300	.026	.443	−.057	.142
11.	その相手を打ち負かすことができた。	.123	.202	−.247	.756	−.024
10.	その相手を罰することができた。	−.132	.009	.079	.740	.081
12.	その相手に自分のいうことをきかせることができるようになった。	.077	−.108	.180	.617	−.017
7.	まわりの人から，自分の意見をしっかりもっている人間だと思われた。	−.017	−.126	.195	.114	.744
6.	まわりの人から，何でも人の言いなりになる人間だと思われずにすんだ。	−.101	−.069	−.045	.129	.731
9.	まわりの人から，我の強い人間だと思われずにすんだ。	−.090	.189	−.063	−.177	.525
8.	まわりの人から，協調的な人間だと思われた。	.143	.277	−.019	−.125	.422

因子間相関		集団内調和	関係維持	支配	同一性
	資源	.337	.506	.453	.272
	集団内調和		.447	.018	.427
	関係維持			−.004	.087
	支配				.202

立の結果にどのくらい満足しているか」;「非常に不満」（１）～「非常に満足」（７)），葛藤後の相手への評価（親しみ，信頼感，尊敬，愛情の４項目;「まったく感じなくなった」（１）～「非常に感じるようになった」（７)）を，それぞれ７段階で評価させた。

最後に，想起させた葛藤経験を離れ，日常生活一般において，参加者が対人葛藤の際に当該方略をどの程度用いるかを，「めったにもちいない」（１）から「よくもちいる」（７）までの７段

表３　想起された葛藤経験における葛藤相手

葛藤経験	家族	親友 / 恋人	友人 / 知人	先輩 / 目上	初対面	計
協調	8	11	20	2	1	42
対決	9	9	16	3	0	37
回避	3	5	19	4	2	33
間接	3	7	15	5	0	30
計	23 16.2%	32 22.5%	70 49.3%	14 9.9%	3 2.1%	142 100.0%

注）葛藤相手を５種類に整理する際，父親，母親，兄弟姉妹，その他の家族の４種類を「家族」に，親友，恋人を「親友 / 恋人」に，友人，クラスメイト，同居人，知人，近所の人，顔見知りの６種類を「友人 / 知人」に，先輩や目上の人，先生を「先輩 / 目上」に，初対面の人を「初対面」に分類した。

階で評価させた[8]。また，当該方略をどのような相手に用いるかを，家族，恋人，友人，知人，先輩や目上の人，後輩や目下の人，初対面それぞれについて，「めったにもちいない」（１）から「よくもちいる」（７）までの７段階で評価させた。

結　　果

想起された葛藤経験

葛藤相手　想起された葛藤経験のなかで葛藤相手としておもに挙げられたのは，最も多かったものから，友人（37.8%），恋人（12.2%），親友（8.3%），母親（6.4%），兄弟姉妹（6.4%），先輩や目上の人（6.4%），クラスメイト（5.8%）などであった。葛藤相手を，参加者との親密さの観点から，家族，親友 / 恋人，友人 / 知人，先輩 / 目上，初対面の５種類に整理し，想起された葛藤経験数を表３にまとめた。想起された対人葛藤は，友人 / 知人間で最も多く，次いで親友 / 恋人間，家族間で生じやすい傾向が示された。「間接方略は親密な相手に使用されやすい」という仮説１a を検討するため，得られた30の間接方略事例を対象に x^2 検定を行ったところ，有意差が認められた（x^2（４）= 21.33, p < .01）。期待度数６より残差が大きいのは，友人 / 知人と親友 / 恋人であり，仮説１a は支持された。

また，想起された葛藤経験の種類によって，葛藤相手に違いがみられるかどうか，葛藤相手（5: 家族・親友 / 恋人・友人 / 知人・先輩 / 目上・初対面の他者）×方略（4: 協調・対決・回避・間接）の x^2 検定を行ったが，有意差はみられなかった（x^2（12）= 12.00, *n.s.*）。友人 / 知人間で葛藤が生じやすいという傾向は，どのような方略を用いた葛藤経験を想起したかにかかわらず同様にみられた。

葛藤の深刻度　想起された葛藤経験の深刻度が，おもに使用された方略や葛藤相手によって異なるかどうか，方略（協調・対決・回避・間接）×葛藤相手（家族・親友 / 恋人・友人 / 知人・

8　例えば，回避方略をおもに用いた葛藤経験を想起させた参加者には，一般的な対人葛藤場面において回避方略をどの程度使用するかについて回答させた。

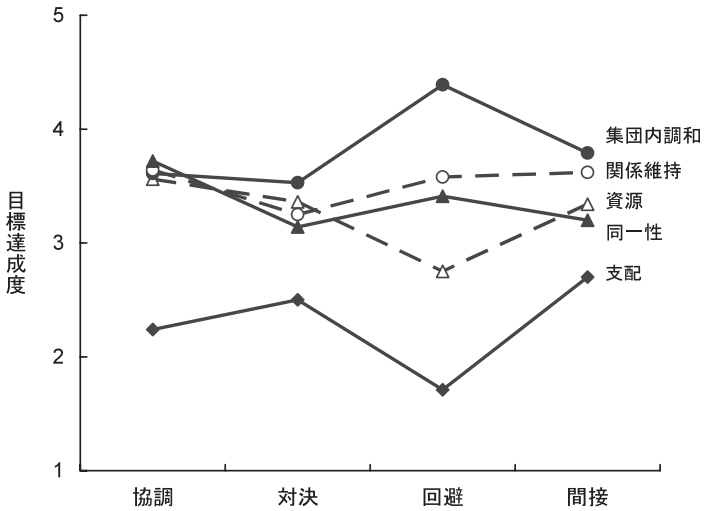


図２　想起された葛藤経験における使用方略ごとの目標達成度評価
注）各目標の達成度得点は因子ごとの項目平均値を用いた

先輩 / 目上）×参加者の性別の３要因分散分析を行った。その際，葛藤相手のカテゴリー分けは，表３をもとに報告事例の多かった相手を再構成して用いた。分析の結果，葛藤相手の主効果のみが有意となり（F（3, 109）= 3.02, p < .05），親友 / 恋人（M = 5.54, SD = .34）が相手のときの深刻度は，先輩 / 目上（M = 3.97, SD = .44）のそれより高く評価された（p < .05）。また，友人 / 知人（M = 4.78, SD = .20）と家族（M = 4.29, SD = .36）における深刻度は，他のいずれの葛藤相手とも差がみられなかった。

各方略使用による目標達成　目標項目への回答結果について探索的因子分析（重みづけのない最小自乗法，因子負荷量 .4以上，プロマックス回転）を行い，資源（要求を受容させたり，評判を得ることができたなど），集団内調和（所属集団の和を維持できた），関係維持（相手とよく理解し合うことができたなど），支配（相手を罰することができたなど），同一性（他人の言いなりになる人だと思われずにすんだなど）の５因子を得た（表２）。各因子に含まれる項目の平均値を，各目標の達成度得点とし，想起した葛藤経験で使用した方略によってどのような目標が達成されたか，方略（協調・対決・回避・間接）×目標（資源・集団内調和・関係維持・支配・同一性）×参加者の性別の３要因分散分析を行った。その結果，目標の主効果（F（4，592）= 28.63, p < .01; 資源 M = 3.25 *vs*. 集団内調和 M = 3.83 *vs*. 関係維持 M = 3.52 *vs*. 支配 M = 2.29 vs. 同一性 M = 3.37），性別の主効果（F（1，148）= 6.12, p < .05; 男性 M = 3.47 vs. 女性 M = 3.04），方略×目標の交互作用が有意となった（F（12，592）= 2.67, p < .01）。目標の主効果に関する多重比較の結果，支配目標の達成度は他の４つの目標のそれより，いずれも低く評価された（*ps* ≦ .01）。また，集団内調和の達成度は，資源および同一性の達成度より高く評価された（*ps* ≦ .05）。

表４　間接方略項目の探索的因子分析結果

	因子１ 沈黙	因子２ 不本意	因子３ 暗示
１．無表情になり口数を減らした。	.890	－.175	.060
２．対立を感じた後のノリを悪くした。	.709	.050	.169
３．対立を感じた後，それとは無関係のことで話しかけられても反応のうすい返事をした。	.601	.164	－.254
５．言葉では同調したが，態度ではそれを手放しで受け入れているわけではないというそぶりを見せた。	.024	.986	.030
７．相手のいうことを受け入れたが，それにしたがうのは面倒だというようなそぶりを見せた。	－.075	.778	.030
４．具体的に主張したわけではないが，できるだけ論理的に話して自分の気持ちを知らせようとした。	－.108	－.004	1.003
６．表だって反対はしなかったが，相手の言っていることのネガティブな側面をさりげなく挙げた。	.250	.099	.518
因子間相関		不本意	暗示
	沈黙	.461	－.001
	不本意		.155

表５　間接方略と性別が目標達成にあたえる効果（標準偏回帰係数）

	資源	集団内調和	関係維持	支配	同一性
沈黙	－.10	－.40*	－.16	.15	－.23
不本意	－.08	－.18	－.32	－.10	.03
暗示	.38*	.35*	.19	.16	.56**
性別	－.04	－.10	－.03	－.03	－.16
R^2	.15	.35	.17	.04	.39
Adjusted R^2	.03	.27	.06	－.09	.31

* $p < .05$, ** $p < .01$. 性別はダミー変数（男性 ＝ 0，女性 ＝ 1）とした。$n = 35$.

方略×目標の交互作用に関しては（図２），全体として，回避方略が他の方略より集団内調和を高め，資源獲得や支配の達成を低めることが確認されたが，間接方略が他の方略とくらべて何らかの目標達成を促進するという顕著な傾向は認められなかった。ただし，間接方略は回避方略より，支配の達成が高く評価された（$p < .05$）。また，間接方略において５つの目標間の比較を行ったところ，集団内調和の達成度が支配のそれより高く評価された（$p < .05$）。間接方略においては，集団内調和と支配との間以外に有意差は認められなかった。

間接方略と目標達成の関連　間接方略と目標達成の関連をより詳細に分析するとともに仮説２を検討するため，間接方略使用の想起事例のみを取りあげ，また間接方略の下位分類を使用して重回帰分析を行った。重回帰分析に先だって，間接方略の各行動７項目を因子分析した結果（重みづけのない最小自乗法，因子負荷量 .4以上，プロマックス回転），沈黙（口数を減らしたなど），

不本意（言葉では同調したが，態度では受容していないそぶりを見せたなど），暗示（論理的に話して自分の気持ちを知らせようとしたなど）の３因子が得られた（表４）。次に，各因子の項目平均値を用いて，間接方略の各行動と目標達成との関連を検討するため重回帰分析を行った。その結果，沈黙は集団内調和の達成を低め（$\beta = -.40, p < .05$），暗示は資源，集団内調和，同一性をそれぞれ高めることが示された（$\beta s \geqq .35, ps < .05$, 表５）。このことから，間接方略のなかでも暗示が，仮説２と一致して資源獲得を促進したが，関係維持の達成には寄与しなかった。

各方略使用による葛藤結果への満足度と葛藤後の相手への評価　想起された葛藤経験における各方略の使用が葛藤結果の満足度におよぼす効果を検討するために，方略（協調・対決・回避・間接）×葛藤相手（家族・親友 / 恋人・友人 / 知人・先輩 / 目上）×参加者の性別の３要因分散分析を行ったが，いずれの効果も有意とはならなかった。また，葛藤経験後の相手に対する評価（親しみ，信頼感，尊敬，愛情）が，使用した方略や葛藤相手によって異なるかどうか検討するために，まず４つの評価項目の因子構造を確認した。探索的因子分析（（重みづけのない最小自乗法，因子負荷量 ．４以上，プロマックス回転））の結果，１因子構造が確認されたため，項目平均値を用いて，満足度と同様の３要因分散分析を行った。その結果，葛藤相手の主効果が有意になったとともに（$F(3, 109) = 3.54, p < .05$; 家族 $M = 3.49$ *vs*．親友 / 恋人 $M = 4.42$ *vs*．友人 / 知人 $M = 2.95$ *vs*．先輩 / 目上 $M = 2.55$），方略×性別の交互作用に傾向差がみられた（$F(3, 109) = 2.61, p = .06$）。葛藤相手の主効果に関する多重比較の結果，親友 / 恋人への評価が友人 / 知人（$p < .05$）および先輩 / 目上（$p = .05$）への評価より高いことが示された。また，この傾向は，方略×性別の交互作用の下位検定から女性参加者にのみ認められることが示唆された。

解決方略の一般的な使用頻度と使用相手

解決方略の一般的な使用頻度　想起された葛藤事例でおもに使用された解決方略が，日常的にどの程度一般的に使用されているかを検討するため，解決方略の一般的使用頻度に関して方略×参加者の性別の２要因分散分析を行った。その結果，方略の主効果（$F(3, 148) = 5.29, p < .01$; 協調 $M = 4.44$ *vs*．対決 $M = 3.00$ *vs*．回避 $M = 4.42$ *vs*．間接 $M = 4.14$），性別の主効果（$F(1, 148) = 5.94, p < .05$; 男性 $M = 3.63$ *vs*．女性 $M = 4.38$），方略×性別の交互作用が有意となった（$F(3, 148) = 2.78, p < .05$, 図３）。方略の主効果に関する下位検定の結果，対決方略は協調方略および回避方略より一般的な使用頻度が低かった（$ps \leqq .01$）。対決方略と間接方略も同様の傾向がみられたが，その差は傾向差であった（$p = .06$）。方略×性別の交互作用に関する下位検定の結果，男性においては，間接方略の一般的使用頻度は協調方略および回避方略より低くなる傾向がみられたが，いずれも傾向差であった（$ps \leqq .10$）。また，対決方略の一般的使用頻度も，協調方略（$p = .06$）や回避方略（$p < .05$）より低かった。女性においては，間接方略の一般的使用頻度が対決方略のそれより低かった（$p < .05$）。さらに，「間接方略は男性より女性において選択されやすい」という仮説３を検討するために，方略ごとに性差を検討したと

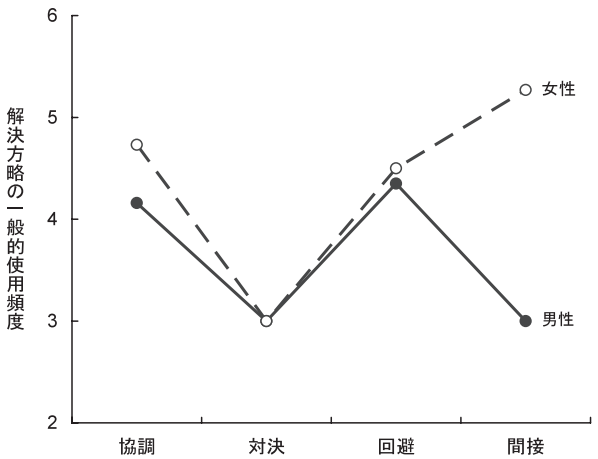


図３　参加者の性別が解決方略の一般的な使用頻度におよぼす効果

ころ，間接方略の一般的使用頻度に関してのみ，女性は男性より高かった（$p < .01$）。このことから仮説３は支持された。

解決方略の使用相手　さらに，解決方略の一般的使用において，それがどのような葛藤相手に使用されているかを検討するために，方略×葛藤相手（家族・恋人・友人・知人・先輩／目上・後輩／目下・初対面）×参加者の性別の３要因分散分析を行った。葛藤相手に関しては，各参加者に７種類の相手それぞれについて，どの程度使用するか評価させたため，参加者内要因であった[9]。分析の結果，方略（F（3，148）= 16.71, $p < .01$），葛藤相手（F（6，888）= 7.80, $p < .01$），性別の主効果（F（1，148）= 3.93, $p < .05$），方略×葛藤相手の交互作用（F（18，888）= 8.43, $p < .01$），方略×葛藤相手×性別の交互作用（F（18，888）= 1.83, $p < .05$）がそれぞれ有意となった（図４）。また，方略×性別の交互作用に傾向差がみられた（F（3，148）= 2.45, $p = .07$）。間接方略が他の相手より恋人や友人に対して多く使用されると予測した仮説１b の検討のため，方略×葛藤相手の交互作用について下位検定を行ったところ，間接方略は，先輩／目上や初対面の相手より友人に対して多く使用されていた（$p < .01$）。ただ，恋人に対する間接方略の使用は，友人に対するそれより低く，仮説１b とは完全には一致しなかった。

さらに高次の方略×葛藤相手×性別の交互作用に関して，とくに間接方略に関連する部分についての下位検定の結果，男性参加者においては葛藤相手によって使用頻度に差がみられなかった。一方，女性参加者は，友人への使用頻度が，初対面の相手より有意に高かった（$p < .05$）。また女性参加者における間接方略の友人への使用頻度は，先輩／目上の相手よりも高い傾向があった

9　例えば，回避方略をおもに用いた葛藤経験を想起させた参加者には，一般的な対人葛藤場面において，回避方略をどのような相手に対してよく用いるかとたずねた。質問紙には，家族から初対面の人まで７種類の相手を示し，それぞれの相手について，「めったにもちいない」（１）から「よくもちいる」（７）までの７段階で評価させた。そのため，想起させた葛藤経験のなかでその葛藤相手を回答させた場合と異なり，各参加者は７種類の相手すべてに対して，解決方略の一般的使用の程度を回答した。それゆえ，ここでの分析に用いた葛藤相手のカテゴリー数（７）は，表３に示した葛藤経験における葛藤相手の分析に用いた葛藤相手カテゴリー数（５）とは異なっている。

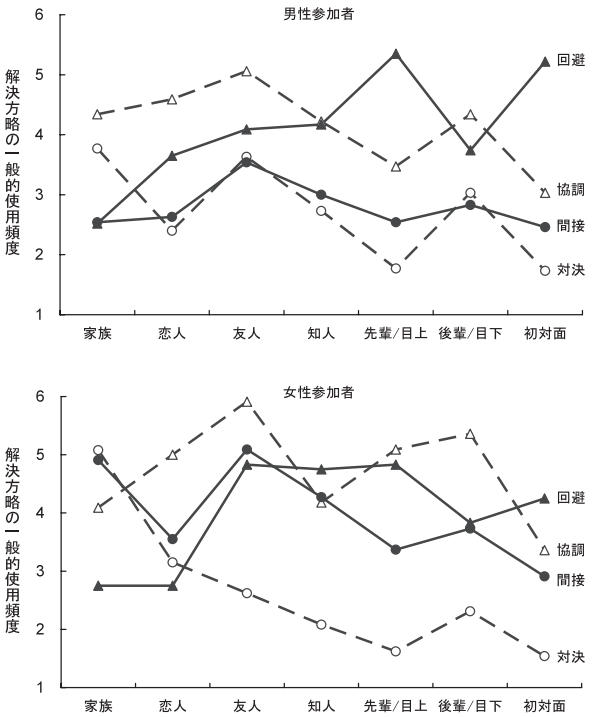


図４　参加者の性別と葛藤相手の違いが解決方略の一般的な使用頻度におよぼす効果

（p = .09）。このことから，仮説１b が予測する傾向は，女性参加者においてのみあてはまることが示唆された。

考　　察

本研究の目的は，暗黙の葛藤状況において，相手への影響を意図して使用される間接方略がどのような相手に対してどの程度使用され，どのような機能をもつかを検討することであった。仮説１a および仮説１b では，想起された特定の葛藤事例であれ，一般的な葛藤状況であれ，間接方略は親密度の低い相手より高い相手に使用されると予想した。分析の結果，想起された葛藤経験の分析からは仮説１a を支持する結果が得られたが（表３），一般的な方略使用においては，仮説１b とは完全には一致しなかった（図４）。すなわち間接方略は，先輩 / 目上や初対面の相手より友人に対して多く使用されていたが，本研究で親密な相手と仮定した恋人に対しては，友人ほど使用されていなかった。

仮説２では，間接方略が関係維持目標と資源目標の達成に同時に寄与すると予測した。間接方略と目標達成に関する重回帰分析の結果，間接方略のうちの暗示が，集団内調和，同一性，資源の達成をそれぞれ促進することが示されたが（表５），関係維持目標への寄与は認められず，仮

説２は部分的に支持されるにとどまった。

仮説３では，間接方略が男性より女性において選択されやすいと予測した。解決方略の一般的使用頻度に関する分析から（図３），仮説３は支持された。

間接方略と関係の親密さ，性差

想起された葛藤経験において，間接方略は友人／知人および親友／恋人に対して多く使用された。ただし，一般的な使用頻度に関する分析からは（図４），親密な相手との葛藤において，間接方略の使用頻度が他の方略のそれより必ずしも高いというわけではなく，また性差がみられた。男性参加者においては，そもそも間接方略の一般的使用頻度は低く，そのためか葛藤相手による使用頻度の違いに差はみられなかった。男性は女性と比較して，非言語行動の表出スキルが低いという指摘があり（DePaulo & Friedman, 1998; Hall, 1984），それにもとづくと，男性におけるスキルの相対的な低さが間接方略の有効性に対する認知を低め，結果的に間接方略の使用自体が抑制されたと，部分的には解釈できるかもしれない。一方，女性参加者は，友人や家族に対しては，間接方略を比較的高頻度で使用していたが，恋人や親密でない相手に対しては使用が少なかった。女性参加者における間接方略の使用頻度において，友人と恋人で差がみられたことは，恋人より友人に対して回避方略が使用されやすかったことから理解できるかもしれない。回避方略の使用傾向から，女性参加者は恋人との葛藤を回避することが少ないことがうかがえ，これは恋人に対して間接的に振る舞おうとする動機が弱いことを意味するのではないだろうか。恋人と友人は，いずれも随意的かつ親密な関係であることから，間接方略の一般的使用頻度も同程度に高いと予測したが，女性は友人に対してほど，恋人に随意性を知覚していないのかもしれない。さらに，この点も予想外であったが，女性参加者は家族に対して間接方略をよく使用すると回答していた。家族に対しては，回避方略は少なく，対決方略は多いという傾向を合わせて考えると，女性参加者は間接方略のもつ主張的な機能を利用していたのかもしれない。女性参加者において，友人および家族に対する間接方略の一般的使用頻度は同程度に高かったが，これは女性にとって友人と家族は質的に同じ親密さの側面をもっているせいなのか，間接方略の回避的機能と主張的機能の使い分けによるものなのかは，本研究の結果からは解釈が困難であり，男女の標本サイズを揃えることも考慮したうえで，今後検討すべき課題の１つである。

仮説３で予想した間接方略の一般的使用頻度においてみられた性差は（図３），間接方略に対するとらえ方の違いを反映しているのかもしれない。例えば，友人に対する各方略の一般的使用をみると，男女の参加者いずれにおいても，最も使用頻度が高いのは協調方略であり，最も使用頻度が低いのは対決方略だった。これらの方略のいずれかと対応するように，間接方略の一般的使用頻度は，男性参加者においては対決方略のそれに，女性参加者においては協調方略もしくは回避方略のそれに近い。この違いは，男性にとって間接方略は主張的で相手の変化を強く促すととらえられているのに対し，女性にとっては双方向的で相手の変化を穏やかに促すものと考えら

れているからではないだろうか。友人との葛藤解決においては，男女とも関係維持目標の達成は重視されると考えられるが，そのためにどの方略が有効かに関しては男女で異なる知覚がなされている可能性がある。

間接方略と目標達成

間接方略と目標達成との関連については，暗示が資源獲得，集団内調和，同一性保護といった目標達成と結びついていることが確認され，間接方略の多機能性が示された（表５）。ただし，仮説２とは完全に一致せず，間接方略のいずれの行動も関係維持目標の達成を促進しなかった。分析の結果からは，間接方略のもつ回避的側面は，葛藤相手とよい関係を維持したり，互いをよく理解したりすることに役立つというよりは，葛藤当事者の周囲にいる人々に気まずい思いをさせないという意味合いが強いことが示唆された。このことは，間接方略が回避的側面と同時に対決的側面をもつと考えられることとも整合的である。自分を一方的に主張したり，相手の変化を求める対決方略は，葛藤相手との良好な関係を直接促すことはむずかしい。間接方略がこうした側面をもつとすれば，やはり当事者同士の関係維持に直接寄与する可能性は低いと解釈できるかもしれない。

また，間接方略の下位行動である沈黙や不本意は，暗示ほど多機能性を示さなかった。むしろ沈黙は集団内調和を低める傾向がみられた。暗示と比べて，口数を減らす沈黙や，非同調の素振りをみせる不本意は，相手に対する何らかの不満を暗に伝えてはいるものの，具体的な自己の主張や相手への要求が明確でない，消極性の高い方略ととらえられる。それゆえ，これらの行動が何らかの目標達成を実現するには，これらの行動を示された側の関係維持目標の喚起が必要かもしれない。そのためには，被使用者が沈黙や不本意を葛藤反応として解読し，同調的に対処しようと動機づけられなければならないだろう。そのうえで，被使用者が譲歩や妥協を選択すれば，結果的に，沈黙や不本意を使用した側の目標達成をもたらす可能性はある。しかし目標達成がその方略を受けた側の反応に大きく依存するならば，沈黙や不本意の使用が即時に目標達成に結びつくことは少ないのかもしれない。このように考えるならば，葛藤解決において目標達成が実現するには，一方の当事者に喚起された目標が方略選択を通して意図通りに他方に伝わり，他方が相手の期待に沿った反応を返す必要がある。本研究において間接方略が必ずしも目標達成に結びつかなかった背景には，(a) 一方の方略選択の意図が他方に正しく伝わらなかったことや，(b) 正しく伝わったとしても，他方が，一方の期待に沿った行動をとることを拒否したなどのいくつかの可能性が考えられる。さらに，人間の情報処理が熟慮過程と衝動過程からなるとする２過程理論を想定すれば（Smith & DeCoster, 2000; Strack & Deutsch, 2004），解決方略の選択においても，目標達成をそもそも意図しない衝動的もしくは自動的な過程が存在する可能性も否定できない。

方略選択における目標達成の期待と結果の不一致は，従来あまり焦点が当てられてこなかったように思われるが，こうした不一致が葛藤を激化させたり，長期化させたりする可能性をはらん

ており，今後さらに検討すべき課題といえるだろう。その意味で，暗黙の葛藤状態や間接方略に注目することは，こうした課題を検討する有効な場の１つになり得ると考えられる。

本研究の課題

本研究では，現実の対人葛藤において間接方略がどのような相手にどの程度使用されているかの検討を目的としていたため，エピソード法による質問紙調査を行ったが，実際の経験を想起させる手法には限界もある。第１に，特定の解決方略を使用した葛藤経験を想起させた場合，その経験が時間的に近接しているとは限らず，容易に想起できない可能性がある。とくに暗黙の葛藤状況に関しては，その経験頻度は比較的高いかもしれないが，葛藤が顕在化するわけではないため，印象的な経験として記憶されにくい可能性もある。また，教示の指示する方向へ記憶内容が再構成され，想起内容が実際の出来事と乖離してしまうこともあるだろう。第２に，本研究では，解決方略の一般的な使用頻度を回答させているものの，態度と行動が必ずしも一致しないように，使用頻度に関する認知と実際の使用にもずれがあるかもしれない。第３に，本研究では，１人の参加者は調査者によって指定された１つの解決方略をおもに用いた葛藤経験を想起させる調査デザインを採用したため，個人内で間接方略が他の方略と比べて相対的にどの程度使用されていたかを検討することができなかった。葛藤解決が長期におよぶ場合，その過程で複数の解決方略が使用されやすく，単一の方略使用にとどまるとは考えにくい。とくに，間接方略が葛藤の初期段階に使用されるとすれば，その後，対立が顕在化し，対立や協調といった直接方略に推移することもあるだろう。また，葛藤解決が長引く際には，解決過程の一時点においても，間接方略と直接方略が共存して用いられる可能性もある。方略使用の時系列的変化や方略の同時使用が葛藤解決や目標達成にどのような影響をおよぼすかについては，今後検討を要する重要な研究関心であると考えられる。こうした点を明らかにするためには，実験室実験やフィールド調査など実際の行動観察や，葛藤経験のより詳細な内容分析による接近が必要である。

これまで対人葛藤研究は，潜在化と顕在化の観点から２分され，顕在的葛藤においては協調方略や主張方略を，潜在的葛藤では回避方略や同調方略を結びつけて検討することが一般的であった（大渕 , 1991; 大渕 , 2005）。そのため，葛藤が顕在化するまでの間にとられる解決方略に十分な注意が向けられてこなかった。しかし本研究で示されたように，人々は葛藤の初期段階から，つまり葛藤が顕在化する前から，間接方略の使用をはじめとした葛藤解決を暗黙裡に試みていると考えられる。

引用文献

Bowles, H. R., Babcock, L., & McGinn, K. L.（2005）. Constraints and triggers: Situational mechanics of gender in negotiation. *Journal of Personality and Social Psychology*, *89*, 951–965.

De Dreu, C. K. W., & Van Vianen, A. E. M. (2001). Managing relationship conflict and the effectiveness of organizational teams. *Journal of Organizational Behavior*, *22*, 309-328.

DePaulo, B. M., & Friedman, H. S. (1998). Nonverbal communication. In D. T. Gilbert, S. T. Fiske, & G. Lndzey (Eds.), *Handbook of social psychology* (4th ed., Vol. 2). New York: McGraw-Hill, pp. 3-40.

Falbo, T., & Peplau, L. A. (1980). Power strategies in intimate relationships. *Journal of Personality and Social Psychology*, *38*, 618-628.

Fiske, A. P. (1992). The four elementary forms of sociality: Framework for a unified theory of social relations. *Psychological Review*, *99*, 689-723.

Frank, H. R. (1988). *Passions within reason: The strategic role of emotions*. New York: W. W. Norton.

福島治・大渕憲一 (1997). 紛争解決の方略　大渕憲一 (編著) 紛争解決の社会心理学　ナカニシヤ出版　pp. 32-58.

Gelfand, M. J., Nishii, L. H., Holcombe, K. M., Dyer, N., Ohbuchi, K. I., & Fukuno, M. (2001). Cultural influences on cognitive representations of conflict: interpretations of conflict episodes in the United States and Japan. *Journal of Applied Psychology*, *86*, 1059-1074.

Hall, J. A. (1984). *Nonverbal sex difference: Communication accuracy and expressive style*. Baltimore: Johns Hopkins University Press.

Jehn, K. (1997) Affective and cognitive conflict in work groups: Increasing performance through value-based intragroup conflict. In C. K. W. DeDreu E. Van de Vliert (Eds.), *Using conflict in organizations* (pp. 87-100). London, UK: Sage.

Kimmel, M. J., Pruitt, D. G., Magenau, J. M., Konar-Goldband, E., & Carnevale, P. J. (1980). Effects of trust, aspiration, and gender on negotiation tactics. *Journal of Personality and Social Psychology*, *38*, 9 -22.

Murnighan, J. K., & Conlon, D. E. (1991). The dynamics of intense work groups: A study of British string quartets. *Administrative Science Quarterly*, *36*, 165-186.

中津川智美・吉田琢哉・海原有紀子・高井次郎 (2010). 潜在性と建設性２次元による対人葛藤対処方略尺度作成の試み　日本社会心理学会第51回大会発表論文集 , 360-361.

中津川智美・吉田琢哉・高井次郎 (2012). 対人葛藤における建設的潜在化方略選好の規定因　名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (心理発達科学), *58*, 47-55.

大渕憲一 (1991). 対人葛藤と日本人　高橋順一・中山治・御堂岡潔・渡辺文夫 (編著) 異文化へのストラテジー　川嶋書店 pp. 161-180.

大渕憲一 (1997). 紛争解決の文化的スタイル　大渕憲一 (編著) 紛争解決の社会心理学　ナカニシヤ出版　pp. 343-367.

大渕憲一 (2005). 対人葛藤における消極的解決方略：新しい対人葛藤スタイル尺度の開発に向けて　東北大学文学研究科研究年報 , *55*, 78-92.

大渕憲一・渥美恵美（2002）. 目標達成の観点から見た組織内葛藤解決方略の効果：特に葛藤回避の効果を巡って　東北大学文学研究科研究年報 , 52, 88-102.

Ohbuchi, K., & Atsumi, E.（2010）. Avoidance brings Japanese employees what they care about in conflict management: Its functionality and “good member” image. *Negotiation and Conflict Management Reserch*, *3*, 117-129.

大渕憲一・福島治（1997）. 葛藤解決における多目標：その規定因と方略選択に対する効果　心理学研究 , *68*, 155-162.

Ohbuchi, K., & Takahashi, Y.（1994）. Cultural styles of conflict management in Japanese and Americans: Passivity, covertness, and effectiveness of strategies. J*ournal of Applied Social Psychology*, *24*, 1345-1366.

Ohbuchi, K., & Tedeschi, J. T.（1997）. Multiple goals and tactical behavior in social conflicts. *Journal of Applied Social Psychology*, *27*, 2177-2199.

Reis, H. T., & Clark, M. S.（2013）. Responsiveness. In J. A. Simpson & L. Campbell（Eds.）, *The Oxford handbook of close relationships*（pp. 400-423）. New York: Oxford University Press.

Smith , P. B. & Bond, M. H.（1999）. *Social psychology across cultures*（2nd ed.）. Boston: Allyn and Bacon.

Smith, E. R., & DeCoster, J.（2000）. Dual-process models in social and cognitive psychology: Conceptual integration and links to underlying memory systems. *Personality and Social Psychology Review*, *4*, 108-131.

Strack, F., & Deutsch, R.（2004）. Reflective and impulsive determinants of social behavior. *Personality and Social Psychology Review*, *8*, 220-247.

Ubiquity of indirect strategies in interpersonal conflict management

Mitsuteru FUKUNO
Faculty of Literature and Social Sciences, Yamagata University
Miyuki DOBASHI
Faculty of Economics, Hokkai Gakuen University

The present study investigated the antecedents and consequences of indirect strategies such as suggested talking, negative affect, and withdrawal in implicit interpersonal conflict situations, in which the parties involved acknowledged the conflict, but did not explicitly or openly do so. We asked 156 Japanese undergraduate students（47 women and 109 men）to recall an experience of conflict during which they coped using an integrative, distributive, avoidant, or indirect strategy. They were then asked to rate the extent to which a strategy was employed and goals were achieved. The results were almost consistent with our hypotheses. First, participants used indirect strategies more frequently than distributive ones and as much as both integrative and avoidant ones. Second, participants were more likely to employ indirect strategies against a partner in an intimate relationship, such as a romantic partner or a close friend, than against a stranger. Finally, the use of indirect strategies led to the simultaneous attainment of goals such as personal interests, group harmony, and identity protection. These results suggest that the parties involved began to manage and resolve their conflict using indirect strategies in the initial phases of the conflict or before the conflict became explicit.

Keywords: implicit conflict situation, indirect strategies, relationship closeness,
gender difference, goal achievement

山形大学人文学部研究年報　第12号（2015. 3）21－41

ペテン歯医者と雄鶏合戦

―ハンス・ゼーバルト・ベーハム作《ケルミス大版画》のモティーフ分析―

元　木　幸　一

16世紀前半に活躍したドイツの版画家ハンス・ゼーバルト・ベーハムが1535年に制作した大判木版画《ケルミス大版画》（図１）は，ケルミスと呼ばれる農村の教会開基祭を描いているが，横長画面一杯にきわめて多彩なモティーフが配されている。それら一見バラバラなモティーフの個々の典拠や意味の解析を進め，最後にそれらの関係を明らかにし，この大判木版画の全体像を明らかにしたいというのが，本版画研究の目的である。

（図１）ハンス・ゼーバルト・ベーハム《ケルミス大版画》1535年，木版画，363×1142㎜

この作品を考察する上で参考になるのが，同時代のドイツ人人文主義者ヨハンネス・ボイムスが農民の生活について記した記録である（1520年）。その中で祝日の様子を描写した箇所を引用しよう。

「祝日には，午前中，そろって教会に行き，ミサにあずかり司祭から神の言葉を聞く。午後になると菩提樹の下かその他の公的な場所で，自分たちの問題を話し合う。その後，若者たちは笛吹きの音楽に合わせて踊り，老人たちは居酒屋に行きワインを飲む。どの男も外出するときは，いつも武器を持って出かける。彼らはどのような場合でも剣を構える。[1]」

教会，話し合う農民たち，楽隊，踊り，居酒屋，武器を持つ男たち，この記録に出てくる民衆の姿や営みは，《ケルミス大版画》に多数見られる。つまり，この大版画は，現実の農民祝日とほぼ一致するのである。とすると，この大版画は当時の農民祝日を忠実に描写したものなのだろうか。

1　Günter Franz（ed.）, *Quellen zur Geschichte des deutschen Bauerstandes in der Neuzeit*, Darmstadt, 1963, pp.125-176; C. メクゼーバー，E. シュラウト共編『ドイツ中世の日常生活　騎士・農民・都市民』瀬原義生監訳，刀水書房，1995年，50頁。

筆者は，これまで，本作品の中央部に見られる居酒屋モティーフ，飲酒モティーフなどを順次分析してきた[2]。

本論文では，左側中景の歯医者の場面を分析し，さらに右側中景の，頂上に雄鶏を載く柱のモティーフ，つまり雄鶏合戦の意味を探究したい。

第１章　ペテン歯医者の表象

居酒屋の左手前景（図２）には，羊らしき獣を背負っている人など，会話をする４人の農民グループと，その左にベンチに腰を下ろし，顔を寄せながら真剣に議論をしている４人のグループ，さらにその左には日よけの屋根で覆われた大きな樽，そしてその樽からビールかワインをジョッキに注いでいる一人が描かれている。議論光景は，ボイムスの記録にある「午後になると菩提樹の下かその他の公的な場所で，自分たちの問題を話し合う」場面に相当するだろう。

（図２）ハンス・ゼーバルト・ベーハム《ケルミス大版画》部分

その後ろの列に，われわれが注目するグループがいる（図３）。まん中に座す農民と思われる患者が口をあけている。その右手には治療をしている歯医者が立ち，左手には歯科助手の若い女性がいる。が，彼女の右手は不穏な動作をしている。どうやら，患者の腰に付けている財布から密かに盗んでいるようである。歯医者の右には医療器具が並んだ机が置かれ，その右端に女性が顔を押さえながら，かがみ込んでいる。歯痛をこらえきれずにいるようである。順番待ちをしている次の患者なのであろう。

2　以下の拙論を参照されたい。「宗教改革期ニュルンベルクの農民祝祭版画の研究――デューラーとその弟子たち」『鹿島美術研究』28号，2011年，21-30頁；「酒宴の表象―ゼーバルト・ベーハム『ケルミス大版画』の分析―」『世界の感覚と生の気分』（栗原隆編）ナカニシヤ出版，2012年，202-222頁。
　また本論文作成に当たっては，主に以下の著書を参照した。Keith Moxey, *Peasants, Warriors, and Wives. Popular Imagery in the Reformation,* Chicago, 1989; Alison G. Stewart, *Before Bruegel. Sebald Beham and the Origins of Peasant Festival Imagery*, Hampshire, 2008；Wolf Seiter, “Bauern und Bauernkrieg,” J. Müller und Th. Schauerte（Hrsg.）, *Die gottlosen Maler von Nürnberg, Konvention und Subversion in der Druckgrafik der Beham-Brüder*, Nürnberg, 2011, pp.115-125.

（図３）ハンス・ゼーバルト・ベーハム《ケルミス大版画》部分

さらに左方には，男女のカップルが腰をかけて抱き合っているが，女性の左手は，右方の歯医者グループを指差し，二人の顔もそちらを向いて，注視している。二人は，歯医者グループの掏摸行為を見つけて教えようとしているのである。

ちなみに，この男の股間には刀が見える。それは，さきほど例に挙げたボイムスの記録にある「どの男も外出するときは，いつも武器を持って出かける」を示すモティーフであるが，例えば「ESの画家」の作品（図４）にしばしば見られるように[3]，男根を象徴し，二人の性的な関係を暗示もしているのだろう。この二人の両脇には，ジョッキとグラスが置かれ，ビールやワインを飲んでいる。アルコールは性の刺激剤ともなるのである。

（図４）ESの画家《愛の園小版画》銅版画

そのカップルのさらに後方には，市（いち）の出店が描かれている。商品が多数ぶら下げられているが，大半は財布である。ここでの財布は，歯医者の掏摸行為と関係づけられるのではあるまいか。歯

3　《愛の園小版画》《チェスをする愛の園》など。*Meister E. S. Ein oberrheinischer Kupferstecher der Spätgotik*, München, 1987, pp.184–185, Kat.Nr. 95–97; Janez Höfler, *Der Meister E. S.*, Regensburg, 2007, fig. 207, 214; Ch. グレシンジャー『女を描く』元木幸一・青野純子訳，三元社，2004年，171–174頁。

医者グループ左方の樽の覆い（屋根）が形成する斜線を延長すると，その出店に行き着く。つまり樽の覆いの斜線は，掏摸行為の対象物を指示しているということになる。現実の市の出店で売られているのが，財布だけということはなかろうから，意図的に財布を指示していると見て良かろう。とすると屋根の斜線は，構図的に歯医者＝掏摸とその獲物である財布を結びつけているということになる。ペテン歯医者であることを一層強調するための構図ということになるのではないだろうか。

また，この出店右端には輪がぶら下がっている。それはワイン販売を指す印なのだが，ワイン樽には店の親方が腰を下ろし，ワインを販売している様子は見られない。樽の上に座す男は，衣装からランツクネヒト（傭兵）と思われる。彼は，画面中央部居酒屋の左端に立っている男と衣装，帽子ともよく似ている。つまり，ワイン販売の印やランツクネヒトは，この場面を中央部の居酒屋と結びつけるモティーフで，この作品が異時同図的な表現であることを示しているのだろう。

では，農民祝祭版画に歯医者が描かれるのは，普通なのであろうか。ゼーバルト・ベーハム周辺の祝祭場面を描いた作品に歯医者モティーフを探索してみよう。

ゼーバルト･ベーハム作《ケルミス》（エアランゲン）[4]，《ケルミス》（オックスフォード，ゴータ）[5]，ベーハムとエアハルト･シェーン作《メーゲルドルフのケルミス》[6]，ゼーバルト･ベーハム作《鼻の踊り》[7]などは，居酒屋，農民踊り，雄鶏合戦，教会，九柱戯など多数のモティーフを共有するにもかかわらず，歯医者モティーフはまったく見られない。つまりベーハム周辺では，歯医者モティーフはきわめて特殊なのである。

モクシーとスチュアートは，本作品以前の歯医者モティーフを探索し，図像源泉としてルーカス・ファン・レイデンの銅版画《歯医者》を指摘している[8]。

⑴　ルーカス・ファン・レイデンの《歯医者》

ルーカス・ファン・レイデン《歯医者》（図５）では，立っている患者を左側の歯医者が治療し，右側に立つ女性の歯科助手が患者の腰にぶら下がった巾着を左の指先で探っている[9]。右上部には1523の年記とＬのモノグラムが記されている。農民は，膝に穴のあいたズボンを履き，いかにも貧しそうな風体をしている。それに対し，歯医者は，帽子といい，衿の大きな衣装といい，裕福そうな姿をしている。歯医者と患者の対照が際立っている。

4　Max Geisberg, *The German Single-Leaf Woodcut 1500–1550*, reissued by Walter L. Strauss, Vol. 1 , New York, 1974, G. 255; Alison G. Stewart, *Before Bruegel. Sebald Beham and the Origins of Peasant Festival Imagery*, Hampshire, 2008, pp.138, 316, fig. 3．1．
5　Stewart, op.cit., pp.140–141,142–143, 316, fig. 3．2，3．3．
6　Geisberg, op.cit., G. 144– 9 , G. 172; Stewart, op.sit., pp.150–151, fig. 3．4．
7　Geisberg, op.cit., G.262; Stewart, op.cit., p.166, fig. 4．1．
8　Keith Moxey, op. cit., p.52; Stewart, op.cit., p.102.
9　Ch. Vogelaar, J. P. F. Kok, H. Leeflang, and I. M. Veldman, *Lucas van Leyden en de Renaissance*, Leiden, 2011, pp. 144, 260; Michael Matile, *Die Druckgraphik Lucas van Leydens und seiner Zeitgenossen*, Basel, 2000, p.150, fig. 129; Jacques Lavalleye, *Lucas van Leyden Pieter Bruegel d. Ä., Das gesamte graphische Werk*, Wien-München, o. J., fig.150, p.19.

この版画は，ルーカス・ファン・レイデンでも殊に有名な作品だったのだろう。カーレル・ファン・マンデルの『北方画家列伝』には，次のように記載されている。

「ヴァザーリがその著述で称賛した小さな版画では，農夫はやぶ医者が抜こうとしている歯があまりに痛いので，女が彼のカバンを奪い取ろうとしていることに気づいていないようである。[10]」

これは，「特徴をとらえた描写の点できわめて秀でていた」作品の例として挙げられている[11]。そして「抜こうとしている歯があまりに痛いので」掏摸に気づかないと記述するのである。農民の目を見開いた表情，右足を後ろに引いて耐えている姿勢，思わず左手を挙げて医者の手を押さえそうになっている仕草などが，苦痛を描写するリアルな表現というわけである。

では，ファン･マンデルが依拠したことが明らかなジョルジョ･ヴァザーリ（第二版1568年）は，どのように記しているのだろうか。ヴァザーリの『芸術家列伝』では，デューラーなど北方の優れた版画家に関しては，マルカントニオ・ライモンディ伝で記述されている。この作品について彼は，このように記す。

「ひじょうに素晴らしいのは，歯を抜かれている農民である。あまりの苦痛に女が彼の財布を空っぽにしているのに気づかないでいる[12]。」

抜歯の苦痛に女助手が掏摸をしていることに気づかないという点で，ファン･マンデルはヴァザーリと同内容である。オランダのファン・マンデルが，よりにもよってネーデルラントの芸術家の作品について，イタリアのヴァザーリの記述からすっかりそのまま借用したことが判明する。ヴァザーリが『芸術家列伝』を書いていた16世紀半ば頃，ルーカス・ファン・レイデンのこの版画はイタリアにも知られていたのである。とすると，ゼーバルト・ベーハムが活動していたドイツ，ことに交流の盛んな大商業都市

（図５）ルーカス・ファン・レイデン《歯医者》銅版画，1523年

10　カーレル・ファン・マンデル『「北方画家列伝」注解』尾崎彰宏・幸福輝・廣川暁生・深谷訓子編訳，中央公論美術出版，2014年，86頁。なお，同書掲載論文で，廣川暁生はこの作品を《農夫とやぶ医者》と呼んでいる。「「北方画家列伝」に登場する作品のリスト」同書，597頁。
　なお，以下も参照。幸福輝「カーレル・ファン・マンデル『北方画家伝』における〈版画〉」，『西洋近世版画史の一次史料調査』（平成22-24年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究報告書　代表者渡辺晋輔），2013年，17-26頁。
11　ファン・マンデル，同書，86頁。
12　G Vasari, *Lives of the Painters, Sculptors and Architects*, tr. by A.B. Hind, London-New York, 1963, vol. 4 , p.73.

であるニュルンベルクやフランクフルト・アム・マインに知られていたのは当然であろう。

さて，このファン・レイデン版画と《ケルミス大版画》の歯医者モティーフを比較すると，ほとんど左右逆であることに気づく。患者を中心にして，ベーハム作品では医者が右に，女助手が左であるのに，ファン・レイデン版画では医者が左で女が右である。さらに治療具や薬が載っている机の位置も左右逆であり，ベーハム版画では机の端で歯痛ゆえに頬を押さえている女患者が次の順番を待っている。

この歯医者群像は，背後が教会前の広い空間を示すように，白い地のままで，特別何も描写されていないので，画面左側の群像表現の中でとりわけ目立っている。つまりこの群像は，農民たちの多彩な営みの中でも格別に重視されているモティーフの一つだといえる。

その上，三人の関係に着目してファン・レイデンと《ケルミス大版画》を比較すると，ゼーバルト・ベーハム作品の特徴が一層際立つ。

まずは農民の描写だが，ファン・レイデンの農民患者がぼろの衣装を身に着け，顔の表現においても，愚かそうな人物像として表されているのに対し，《ケルミス大版画》では，同じく掏摸に遇いながら，衣装もそれほど貧相ではなく，顔の表情もそれほど愚かには見えない。加えて，苦痛の表現は，農民患者よりも，待っている女性患者の方により明確に現れている。つまりここでは，ファン・レイデン版画に関しヴァザーリやファン・マンデルが称賛しながら叙述したほど痛そうには描かれていないのである。

さらに左側の指差しているカップルを加えることで，このインチキ歯医者たちの悪行は，画中の他の登場人物にも，そして絵を見る人にも，あからさまになっているのである。歯医者たちの犯罪は，白日の下に曝されるのである。

つまり重要なのは，ルーカス・ファン・レイデン作品と違って，ゼーバルト・ベーハムの歯医者では，農民への揶揄・嘲弄の度合いが弱いということではなかろうか。かならずしも農民を愚かな存在としてだけ描いているわけではないのである。

そのことは，歯医者を描いた同時代の版画と比較することでよりはっきりするだろう。

（図６）レオンハルト・ベック《歯医者》1521年頃，木版画

⑵　スカトロジカルな《歯医者》図

ほぼ同時代にアウクスブルクで活躍した版画家レオンハルト･ベックの木版画《歯医者》（図

6）[13]は，これら二つよりはるかに戯画的である。男の歯医者は，左手に抜いたばかりの歯を高く挙げて持ち，右手は人差し指を曲げて患者である老婆の口内に突っ込んでいる。歯医者の仕草は，抜歯の成功を，絵を見る人に対して誇っているかのようである。そして老婆は，情けない顔をして視線をやはり観者に向けている。

後ろの旗は宣伝用で，ファン・レイデンやゼーバルト・ベーハムの例では，歯医者であることを証明する鑑札となっているが，ここでは斜め後ろ向きに腰から下を見せて排便行為の真最中の図で，かなり露骨な表現である。ただし，この排出物が大便なのかは，判断に困る[14]。というのは，当時の歯医者は，しばしば寄生虫退治の駆虫草を販売していたからである。歯医者の広告というよりは，寄生虫退治薬（虫下し）の広告なのかもしれない。

とはいえ，この版画がスカトロジー的な歯医者像であることに間違いはない。

もう１点，同様な作品を見てみよう。16世紀初めの作者不明のカリカチュア的な木版画《歯医者》（図７）[15]は，より露骨である。中央左手後方で，歯医者は，机の前に座す患者の歯を後ろからやっとこ状の抜歯鉗子で抜こうとしている。ところが医師の頭上には犬が乗り，排便している。そして大きな机上の中央部には，大便が載っており，そこから寄生虫がはい出している。また，右手で臀部を見せている人物は，やはりお尻から寄生虫を排出している。その点から考えて，机の下や机上に見える様々な薬はやはり寄生虫退治薬などであろう。

（図７）作者不明《歯医者》16世紀初期，木版画

13　Geisberg, op.cit., G.139; Moxey, op.cit., p.53; Stewart, op.cit., pp. 102-103.
14　藤代幸一は，「歯医者に抱いていたいかがわしいイメージを嘲笑的に描いたもの」と述べている。藤代幸一『謝肉祭の世界』高科書店，1995年，26-28頁。
15　Stewart, op.cit., pp. 102-104, fig. 2 .21.

ベック以上に露骨なスカトロジー的表現なのである。

こうして見ると，歯医者の表現には，スカトロジー的表現と，掏摸をはたらくペテン師的表現があるということが分かる。では，スカトロジー・タイプとペテン師タイプは意味的にどのように異なるのだろう。スカトロジー・タイプは明らかに歯医者を揶揄する表現であるのに対し，ペテン師タイプはだまされる農民への軽蔑を示した表現といえるのではあるまいか。そしてゼーバルト・ベーハムは，直接的には，ファン・レイデンにならってペテン師タイプを選択したのである。

ところが，《ケルミス大版画》全体を見渡すと，必ずしもそれだけではないことに気づく。視線をずっと右へ移動しよう（図２）。居酒屋の左，壁のすぐ脇，車輪の手前にとぐろを巻いた大便が見えるではないか。

以前，この大便に関しては，典型的な祝祭的モティーフと論じた[16]。日常から祝祭へと転換するためのスイッチのようなモティーフなのである。この大便の位置は，居酒屋と左方人物群の中間である。したがって，その大便モティーフは，意味的に両者にまたがるということになろう。

つまり，歯医者の表現にあるスカトロジカルな要素が，やや遠くではあるが，ここで提示されていると見なすこともできよう。

とするとゼーバルト・ベーハムの《ケルミス大版画》における歯医者は，ルーカス・ファン・レイデンに依存するペテン師歯医者と，スカトロジー的な歯医者とが融合したものといえるのではあるまいか。しかも農民への揶揄もスカトロジー的要素も弱められて。

（図８）ヨースト・アマン「歯医者」『職業の書』1568年，木版画-

(3) 市（いち）の歯医者

では，当時の歯医者の実態とはいかなるもので，民衆からどのように見られていたのだろうか。当時の書物，文学，演劇などから探究することにしよう。

16世紀半ばにスイスに生まれ，ニュルンベルクで活躍したヨースト・アマンによる版画入り本には，わが国で言えば『職人尽くし』のような『職業の書』（1568年フランクフルト・アム・マイン）があり，そこでは剣を腰に下げた患者を治療している歯医者の姿が描かれている（図８）。この版画集には，同時代ニュルンベルク

16　前掲拙論「酒宴の表象―ゼーバルト・ベーハム『ケルミス大版画』の分析―」『世界の感覚と生の気分』（栗原隆編），215,219頁。

で活躍した詩人・劇作家ハンス・ザックスによる説明的な詩がついているのだが，歯医者ではこのように書いてある。

「歯医者
歯の悪い方はいらっしゃれ
子供を産むほどの痛みもなしに
わしはすぐ抜いてあげる
そればかりか，このわしは
石油もあれば虫下しも
万能の練り薬から蚊とりのくすり
のみやしらみによくきく軟膏
鼠や二十日鼠取りまで，持っている[17]」。

この文からも歯医者が単なる歯を治すだけでなく，様々なくすりを調合する職業でもあったことが分かる。虫下し，万能の練り薬，虫除け薬，軟膏，そして猫いらずなど実に多彩な（あやしげな）薬が売られているのである。そういえば，この挿絵の机上に見える紐のようなものは，ベックの版画などにも登場した，虫下しで出てきた寄生虫ではなかろうか。

絵の後方に描かれた文書は歯医者の鑑札であるから，当時の歯医者はよほど信用できない職種だったに違いない。もっとも，この鑑札だって，いんちきかもしれないのだ。看板のような四コマの絵は，歯のみならず，他の様々な治療もできるとの広告なのだろう。また糸に歯をつないで掛けているのは抜歯の成果であり，これまた広告でもあるのだ。

市には，歯医者だけでなく，接骨医，にせ医者，万能薬といわれたテリアカ売り，尿で病気を言い当てる尿預言者などといったペテン医者も登場し，それらは香具師，曲芸師，軽業師などと同類の人々と見なされていた[18]。わが国で言えば，蝦蟇の油売りのような大道芸人的な人々（傀儡子）といえる。だから，「歯の悪い方はいらっしゃれ」と大きな声で呼び寄せねばならないのだ。

これらの怪しげな人々は，旅する放浪者である。彼らは，現代の香具師と同様に，祭りを求めて各地を旅したのである。そしてそれぞれの仕事は，時に応じて次々と変わる。インチキ医者が定住できないのは当然であろう。

時代はやや下るが，18世紀の資料では次のように言われている。

「（ある放浪者は）しばらく操り人形師とともにあちこちをぶらついて，農民たちの部屋に絵を描いたが，その後しばらくは猟師をした。そしてその後ある時は歯医者として，またある時は

17　ヨースト・アマン版　ハンス・ザックス詩『西洋職人づくし』（解題：小野忠重）岩崎美術社，1970年。
18　R. v. デュルメン『近世の文化と日常生活　2　村と都市―16世紀から18世紀まで』佐藤正樹訳，鳥影社，1995年，200頁。

時計職人となって再び各地を転々とした。[19]」

人形遣い，画家，猟師，歯医者，時計職人と変貌しては，放浪した。そして，その怪しげな人々の中に，確実に歯医者がいたのである。

また先述の詩人ハンス・ザックスは，謝肉祭劇中の道化に次のように言わせている。

「道化イエッケル
殿ちゃん，大広間で何をわめいてござ候や，
呼び込みのいかさま歯医者か
いけ図々しい　いかけ屋よろしくの体で[20]」

市に出没するのは，やはり呼び込みをする「いかさま歯医者」なのであり，それはいかけ屋と同類の階層と見なされていたというわけだ。いかけ屋は鍋釜などの穴をふさぐ商売であるから，ともに故障を直す人である。故障しているのが人なのか物なのかの違いに過ぎない。

とはいえ，旅の歯医者がかならずしもインチキとは限らない。歯医者は一般に旅をしながら治療することが多かったらしい。

というのは，中世の人々は塩，ミョウバン，白亜粉などで歯を磨いたので，歯のエナメル質が傷つき，そのうえパンにも石臼で挽く際の小石が混ざっていることが多かったので，歯が痛みやすかったのである。したがって歯の健康を維持するのは大変困難で，逆にいえば，歯の治療は大層稼ぎの良い仕事だったのである。市から市へと移動しながら，抜歯の技術を駆使して稼いだのである[21]。

中世末期バーゼルで出版された諷刺文学，セバスティアン・ブラント著『阿呆船』（1494年）では，薬売りを次のように揶揄している。歯医者が薬売りも兼ねていたというところからすれば，同業者と見てよかろう。

「55　　阿呆薬のこと
瀕死の人の尿を見て，
「書物で調べてあげるから，
ちょっとまっていなさい。」と，
阿呆と連れ立ち大いそぎ，
帰って行く間に，病人は

19　ベルント・レック『歴史のアウトサイダー』中谷博幸・山中淑江訳，昭和堂，2001年，99頁。
20　藤代幸一，前掲書，15頁。
21　ハンス・フリードリヒ・ローゼンフェルト＆ヘルムート・ローゼンフェルト『中世後期のドイツ文化』鎌野多美子訳，三修社，1999年，269頁。

冥途の旅に出てしまう。
薬ならば，と引き受けて
自分じゃ何もできはせぬ。
占い婆にたずねたり，
薬草本と首っ引き。
老若男女の区別なく，
熱があろうとなかろうと，
傷は乾こうと水気があろと，
どんな病気であろうとも，
何にでもきく薬がござる。
アラバスターの軟膏は
床屋も薬によくつかい，
腫瘍，切傷，骨折も
どんな傷でもすぐ治る。
そういう薬草もあるそうで，
馬鹿先生は手放さぬ。
何も受けずに洗眼し，
赤い目，霞み目，ただれ目も
何でも膏薬一辺倒，
藪の迷医と申そうか。
弁護もろくにしてやれぬ
弁護士とやらもまた同じ
重い軽いのさまざまの
罪に応じた処置もなく，
熱粥にこり，膾吹く
用心深いが売り物の
聴罪司祭もまた同じ。
阿呆の言うこときいてたら，
知らないうちに冥途行き。[22]」

途中までは，「藪の迷医」と，やぶ医者をからかっているが，最後には，弁護士も司祭も信用ならんと，世の中のエリートと見なされている職業を揶揄する社会諷刺の典型的なパターンに

22　セバスティアン・ブラント『阿呆船』上，尾崎盛景訳，現代思潮社，1968年，191-193頁。

なっていく。

15世紀後半の大都市では，実際的な医療従事者には，ある程度きちんとした修業が課せられるようになったらしい[23]。ちなみにサレルノ大学に代表されるような医学は，直接的な医療業務にはほとんど関わらなかった。町医者は，職人と同様なシステムで修業したのである。

たとえば，ケルンでは，医者になるために，４年の修業期間が必要とされ，15世紀末期には８年に変更された。床屋などが，腕や脚の切断手術を施すような時には，同業組合の親方の立ち会いが必要だった。

ただし，このような規制は徐々に緩くなったらしい。たとえば，1595年５月10日にケルンに到着した「眼医者兼歯医者」のヤーコプ・ゾルダン・クルンベには一般試験後すぐに営業を認めたという記録が残っている。彼は「歯痛」に対する特別な治療法をもっていると自慢していたらしい。そこで，必要な医学上の試験を受けるよう要求せずに，６週間の滞在と営業を認めたのである[24]。

もちろん，《ケルミス大版画》に描かれた歯医者は掏摸であるから，インチキ歯医者であるに違いない。一般に，医者，弁護士，司祭などに浴びせられた類いの揶揄とは異なるだろう。

いずれにせよ，このインチキ歯医者は，後方の出店と並んで，市の出物という特徴をわれわれに示すモティーフだろう。このケルミスには市が開かれているのである。

第２章　雄鶏合戦の表象

視線を，居酒屋から右に移動しよう（図９）。居酒屋に近いところには，ラッパとバグパイプを吹く帽子を被った男二人がいる。彼らは右手前景の踊りの伴奏をしている楽隊だろう。祝祭に音楽はつきものである。ヨハンネス・ボエムスのいうように「（農民の）祝日には……若者たちは笛吹きの音楽にあわせて踊[25]」るのである。楽隊の右手やや奥には柱が立っている。これは五月柱（メイポール）である。頂上には雄鶏が置かれている。その柱で，ケルミスにはつきものの「雄鶏目指して棹のぼり」と称される遊戯（雄鶏合戦）が行われる。柱の中途まで木登りをし，上を見ている男は雄鶏を手に入れようとしている。雄鶏は合戦の賞品なのである。

（図９）ハンス・ゼーバルト・ベーハム《ケルミス大版画》部分

23　F. イージーグラー，A. ラゾッタ『中世のアウトサイダーたち』藤代幸一訳，白水社，1992年，132-133頁。
24　同書，139頁。
25　註１参照。

下方で繰り広げられている合戦は，激しい戦いである。柱の右側では刀を振り上げて，戦っている男たちがおり，すでに倒れている男がいるだけでなく，その手前には切り落とされた左手が落ちている。男ばかりか，女もいるが，女は男を押さえようとしているように見える。おそらく興奮して切り掛かっている夫を抑えようとしている妻なのだろう。その集団の一番右では，九柱戯のピンをもった女性が男の頭髪を引っ張って打ち据えようとしている。男は，左手で髪を握った彼女の左手をはずそうとしているが，なかなか難しそうだ。右手に握った刀は後ろに引いているが，まさか刺そうというのではないだろう。

柱の周りに立っている人々は，槍の他に，殻竿，堆肥用フォークなど農具をもっている男が多く，彼らが農民であることを示す。版画を見た当時の人々ならば，数年前にドイツ中を席巻した農民戦争の様を思い起こしたことだろう。

⑴　雄鶏合戦とキリスト受難

それだけでなく，W. ザイターは，この柱の周りの武器を持つ人々というイメージがキリスト磔刑を思わせると指摘する[26]。例えば，柱の左で左手を上げている男は百卒長を指すと言うのだ。

興味深いことに，キリストの受難具との関連も考えられる。例えば，〈聖グレゴリウスのミサ〉図などに受難具の一つとして，十字架上の雄鶏が現れる。これは，ペテロの否認を示す雄鶏である。『マタイによる福音書』第26章34節に書かれている，キリストが逮捕される前の予言「はっきり言っておく。あなたは今夜，鶏が鳴く前に，三度わたしのことを知らないというだろう」における雄鶏なのである[27]。森田安一は，デューラーの木版画《聖グレゴリウスのミサ》（図10）を例として挙げている。そこでは十字架の上に雄鶏が載っているのである。してみると，雄鶏合戦はキリスト受難とも関連する行事ということになるかもしれない。ただし森田はゼーバルト・ベーハム《ケルミス大版画》のような雄鶏合戦について述べているわけではない。森田説では，雄鶏は受難物語の一

（図10）アルブレヒト・デューラー《聖グレゴリウスのミサ》木版画，1511年

26　W.Seiter, op.cit., p.121.
27　森田安一『木版画を読む　占星術・「死の舞踏」そして宗教改革』山川出版社，2013年，195-196頁。

場面を示唆するにすぎない。

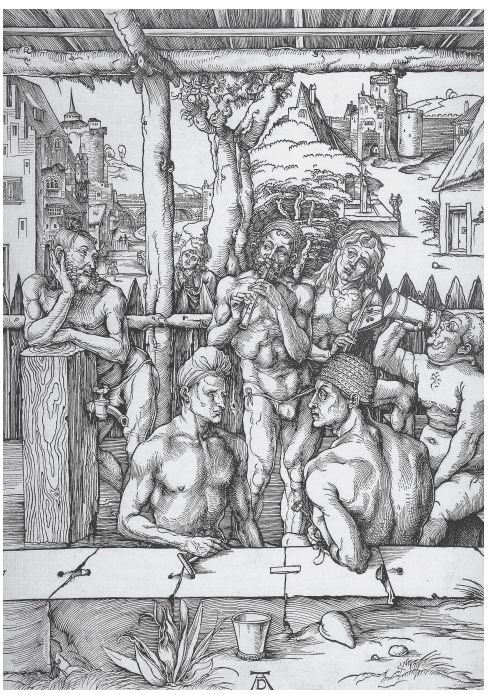
受難と関係するとはいっても，《ケルミス大版画》における雄鶏の意味は，より明確にしなければならないだろう。

ザイター説では，キリストを「神の子」と認識した百卒長を示唆するのに対し，森田説ではキリストへの裏切りを示すものとしての雄鶏なのである。一見すると，この両説は，あまりに掛け離れているように見える。だが，ペテロの否認は，人間の弱さとそれゆえの悔恨を示すものであり，悔恨により救済が約束され，処刑後にキリストが神の子であることを認識した百卒長とそれほど違うわけではない。悔恨という点で共通しているのである。

とはいえ，このケルミス祭に受難や悔恨の意味は，あまり相応しいとはいえないのではなかろうか。

⑵ 雄鶏と掛詞

雄鶏と関連するデューラー作品をもう一つ挙げよう。初期の木版画《男性浴図》(1496-97年)（図11）である[28]。これはE. ヴィントの論文によって，四性論に基づく解釈で有名になった作品である[29]。左側の水道の傍にいる男が憂鬱質，手前左の男が胆汁質，右が多血質，右端でビールを飲んでいる老人が粘液質を示すというのである。そればかりか，左側から聴覚，触覚，嗅覚，味覚，そして中央奥で覗いている若者が視覚というように五感をも示すという。これはヴァールブルク研究所で推進されたイコノロジー研究のもっとも代表的な論文の一つである。



（図11）アルブレヒト・デューラー《男性浴図》木版画，1496－97年

ところが，ヴィントは実は，もう一つ重要な指摘をしている。それは憂鬱質の男の下腹部に用いられている「絵による掛詞」である（図12）。そこには水道の蛇口と水栓が位置し，栓は雄鶏の形をしている。男根はドイツ語で der Hahn，水栓も der Hahn，そして雄鶏も der Hahn なのである。つ

28 R. Schoch, M. Mende, und A. Scherbaum, *Albrecht Dürer Das druckgraphische Werk*, Bd.II, München-Berlin-London-New York, 2002, pp.52-55, fig. 107.

29 Edgar Wind, “Dürer’s >Männerbad<: a Dionysian Mystery”, *Journal of the Warburg Institute*, vol. 2, 1938/39, pp. 269-271.

まりドイツ語 der Hahn の３つの意味を絵柄で示し，きわめて近接した場所に描いている。ここは「絵による掛詞」を形成しているのである。さらに蛇口は，あたかも男根を想起させるような形であり，位置的にもそのような連想を引き起こし，ダブルイメージのような図柄となっている。

この作品は安価で入手しやすい木版画である。したがって，人々はこの木版画を手に取り，絵に込められた意味を様々に解釈し，披露し合ったのではあるまいか。デューラーの友人のインテリたちなら，四性論や五感など，イタリア・ルネサンスなどと共通の「深淵な」解釈を提示したかもしれない。ところが，あの男の陰部に気づいた時，人々はその仕掛けに思わず喝采をあげるだろう。デューラーが画像に隠した一番の秘密を探り当てたような気持ちになったのではあるまいか。そしてデューラー自身の前でその謎を解いたとしたら，カードゲームでこの大画家に勝利したかのような気分にすらなったかもしれない。あるいは，そのような場面を想像しながら，デューラーはこの仕掛けを作り出したのだろう。

（図12）デューラー《男性浴図》部分

ただし，このような掛詞が当時のドイツ市民に馴染みのものでなかったとしたら，このデューラーの仕掛けも空振りに終わるだろう。特に雄鶏＝男根（蛇口の形）＝水栓という関連は重要である。この連想からすれば，雄鶏という言葉には，どこか卑猥な，あるいは下品な響きが込められていたのではないかと思う。このような世俗的な意味合いは，農民祝祭に，したがって農民祝祭版画にも，より一層馴染むものではあるまいか。つまり知的な掛詞のテクニックだけではなく，より世俗的・大衆的な意味合いが，この版画に，知的な遊びに終わらない市民生活の体臭を付着させるのである。

その点で，このデューラー版画の der Hahn は，《ケルミス大版画》の雄鶏合戦へと繋がる。《ケルミス大版画》の雄鶏も卑猥な体臭を帯びているのである。

⑶　雄鶏と祝祭

さて，次に祝祭と雄鶏の関係をふたたび劇作家・詩人ハンス・ザックスの謝肉祭劇に探ってみよう。

ハンス・ザックスの謝肉祭劇に《盗まれた謝肉祭劇の鶏》がある[30]。これは隣家の雄鶏をひそ

30　ハンス・ザックス『謝肉祭劇全集』藤代幸一／田中道夫訳，高科書店，1994年，229-239頁。

かに食べてしまった夫婦が，どうにかして隣家夫婦の追及をかわすという滑稽劇である。この劇は，最後に次のような台詞で幕を閉じる。

「皆々さま，お願いします。
　只今ののののしり合い，
　悪口雑言の応酬，
　罪のなすり合い
　よしなにご容赦のほど，
　されど，いちばんひどい言葉はさし控えました。
　それはわれらの名誉を汚さぬため，
　また鶏のことは忘れて
　謝肉祭を愉びと楽しみと茶番で
　飲み食いするため，
　かつはまた，この一件からさらに喧嘩が生じないためです。
　皆さまおやすみなさいと申すはハンス・ザックスでござい。[31]」

鶏と祝祭がどのような関係なのか，実は，ストーリーからは分からない。最後にやっと，引用文のような台詞に「謝肉祭」という言葉が登場して判明するのである。つまり，このような茶番劇は，謝肉祭の楽しみなのだというわけである。そして「ひどい言葉は差し控え」「名誉を汚さぬため」と断り，鶏のことは忘れるべきだというのである。

ここで，鶏という言葉（ザックスは hon と記す）が，忘れるべき「ひどい言葉」で，「名誉を汚す」かもしれない言葉であると言っていることに注意しよう。つまり，前節で紹介した der Hahn の掛詞的な意味の重複と関連する可能性がある。雄鶏は性を連想させるのである。

ドイツの民俗的慣習では，雄鶏は「穀物霊」として麦束に入れられるなど，収穫祭や結婚式の風習に使われたという。その意味から推測すると，雄鶏は成長や豊穣のシンボルだったのである[32]。例えば，マールブルク近郊では，収穫の最後の荷を降ろしてから，成長力の象徴として，木で作られた雄鶏を納屋の戸口へとりつけるという。また，ボヘミアでは，村の収穫祭で一人の娘が「雄鶏嫁」に選ばれ，バーデン地方では「鶏踊り」が舞われるのだという。いずれも収穫祭の行事なのである[33]。実際，私も，ヴュルツブルクのワイン収穫祭で，柱の頂上に雄鶏飾りが付けられているのを見たことがある（図13）。

この《ケルミス大版画》では後景に結婚式が見える。結婚式と収穫祭が生命の誕生と生育とい

31　同上，238-239頁。
32　谷口幸雄・福嶋正純・福居和彦『図説　ドイツ民俗学小辞典』同学社，1986年，65頁。
33　H. レーマン『ドイツの民俗』川端豊彦訳，岩崎美術社，1970年，143頁。

う点で意味的には類似していることからすれば，この雄鶏は豊穣のシンボルであり，その雄鶏を獲得しようと競い合う雄鶏合戦は，まさしく結婚式，収穫祭に相応しい行事と言うことになるだろう。ここでもまた性の連想が意味を持つ。

（図13）ヴュルツブルク・ワイン収穫祭（2009年９月）

また楠戸一彦の中世末ドイツの射撃大会に関する研究によれば，五月祭や聖霊降臨祭では，柱の上に鶏をぶら下げて，それを的にした射撃大会が催されたという[34]。その時には，都市郊外の野原に高い柱を立て，上から生きた鳥，あるいは彫刻の鳥を吊り下げ，的とした。聖霊降臨祭では聖霊を象徴する鳩を的としたらしい。そしてこのような鳥射撃は，中世後期から近世にかけて，ドイツのほとんどの都市で開催されたという。

⑷　農民祝祭版画における雄鶏合戦

ケルミスを主題とする版画のもっとも早い例は，1528年頃にゼーバルト・ベーハムとエアハルト・シェーンが制作した横長の木版画《メーゲルドルフのケルミス》（図14）[35]だが，ここでは左端に居酒屋があり，そこから何組ものカップルが右方向へ向かって次から次へと踊り出しているが，雄鶏合戦モティーフは現れていない。

さらに1535年頃の《ケルミス》（エアランゲン）（図15）[36]では，中央の柱の頂上に雄鶏はいない。

（図14）ゼーバルト・ベーハムとエアハルト・シェーン《メーゲルドルフのケルミス》木版画，1528年頃，部分

34　楠戸一彦『ドイツ中世後期のスポーツ―アウグスブルクにおける「公開射撃大会」―』不昧堂出版，1998年，27-28，139-140頁。
35　Moxey, op.cit., pp.43-45; Stewart, op.cit., pp.149-159.
36　Stewart, op.cit., pp.137-149, fig. 3．1．

（図15）《ケルミス版画》木版画，エアランゲン，1535年頃

1535年頃以降ゼーバルト･ベーハム原作に基づいて制作されたと推定される《ケルミス》（オックスフォード）（図16）[37]では，左には，《ケルミス》（エアランゲン）ときわめて良く似た雄鶏のいない柱があり，右には上部に雄鶏のいる鳥かごが据えられた柱が立っている。この作品は，左半分が《ケルミス》（エアランゲン）を模倣した版画と見られる。そうしてみると，右半分も現在は失われたゼーバルト・ベーハムの《ケルミス》原作に基づいていると推測される。ほぼ同図柄の作品は，オックスフォードの他にゴータ[38]などにもあることからして，その原作はかなり流布していたと思われる。その約400×1095ミリほどの比較的大判の木版画には，踊り，五月柱，

（図16）ベーハムに基づく《ケルミス版画》木版画，オックスフォード，1535年頃以降，部分

37　idem., pp. 140-141, fig. 3．2．
38　idem., pp. 142-143, fig. 3．3．

居酒屋，雄鶏合戦，喧嘩，九柱戯，刃渡り，女性の徒競走など，《ケルミス大版画》と共通の諸モティーフが描かれている。

これら農民祝祭版画の中で，雄鶏モティーフを解釈するために，もっとも参考になる作例は，同じゼーバルト・ベーハム作の《鼻踊り》（図17）[39]（1534年頃）ではなかろうか。そこには中央やや左に柱が立っているが，その頂上には雄鶏は存在していない。その頂部にぶら下がっているのは，右側に鼻マスクと花冠，左側に男の下帯である。それらは，大きな鼻の男にその夜，授与されることになる。最も大きな鼻の持ち主が，この踊りの王として花冠を戴いて表彰される。第２位には鼻マスクが，第３位に下帯が贈呈される。つまり，柱上に下げられているのは，鼻の大きさを競うコンクールの賞品なのである。だが，鼻の大きさを競うコンクールの賞品に下帯とは，どのようなことなのだろう。当時まで伝わった民間伝承によると，男の鼻の大きさは男根の大きさを示すという。下帯は，したがってその民間伝承を示す賞品なのである。

（図17）ハンス・ゼーバルト・ベーハム《鼻踊り》木版画，1534年頃

雄鶏がいるのは，その右手後方の柱である。ここでも柱の周りを男女のカップルが踊りながら廻っている。平面上では，雄鶏の位置と手前の賞品の位置は，ほぼ同列に並んでいる。そこから考えると，この二つの柱とその頂上の品物は何らかの関係があるといえそうである。それらは鼻の大きさを競うコンクールの賞品であり，裏の意味としては男根の大きさを競うコンクールの賞品であった。わが国の陽物競べを描いた《勝絵絵巻》（三井記念美術館）[40]が思い出される。洋の東西を問わず，男根は競われる。そして雄鶏（der Hahn）の別の意味は男根である。しかも柱は，男根とのダブルイメージになる。再び性との関連が明らかになる。

ここでも，あまり露骨ではない表現で登場する祝祭空間の典型的な例が見られる。

39　Moxey, op.cit., pp.44-46; Stewart, op.cit., pp.164-188; A. Stewart, “Large Noses and Changing Meanings in Sixteenth-century German Prints,” *Print Quarterly*, XII, 1995, pp, 343-360.

40　『鳥獣戯画がやってきた！―国宝「鳥獣人物戯画絵巻」の全貌』サントリー美術館，2007年，122-127頁。註２参照。

おわりに

ここで取り上げた二つのモティーフは，一方が市と，もう一方は性と関連することが示された。筆者は以前の二つの論文で，この作品が制作された時期のニュルンベルクの状況と表現内容の関連について，一つの仮説を提示した[41]。ニュルンベルクが1525年にルター派の都市になることを決定した後で，都市周辺部のケルミスが原則として禁止されたが，市の開催は容認された。つまり市を口実にしてケルミスが開催され続けたのである。この二つのモティーフでも市とケルミス祝祭との関係が示されているのである。**

41　註２参照。

＊＊本論文は，科学研究費学術助成基金助成金・基盤研究(C)「宗教改革期のニュルンベルクにおける農民祝祭版画の総合的研究」（課題番号 24520136）の研究成果の一部である。

山形大学人文学部研究年報　第12号（2015. 3）21－41

Swindler Dentist and Pole-Climbing for Rooster: An Analysis of Hans Sebald Beham's *Large Kermis* Woodcut

Koichi MOTOKI

We have searched for meanings of motifs of the tavern and the drunken persons. In this paper we will consider the meanings of the swindle dentist and pole-climbing for rooster.

1. Image of Swindler Dentist

According to K. Moxey and A.G. Stewart, the source of the dentist image seems to be the engraving *Dentist* by Lucas van Leyden. The image of dentist in *Large Kermis* is, however, different from the van Leyden's engraving. In contrast to the engraving, the peasant does not appear to be so stupid in *Large Kermis*.

The dentist has also scatological meaning, because there is shit near the tavern.

Medieval dentists wander from a fair to a fair. So the presence of a dentist suggests that a fair is taken place in the kermis.

2. Image of Pole-Climbing for Rooster

There is a rooster on the pole of the right side. The climbing man will be given the rooster as a prize. What does the race of pole-climbing for rooster symbolize?

There is a hint in Dürer's woodcut *the Men's Bath*. The man, who is resting upon his elbow, seems to be a key to solve the symbol. The cock（"der Hahn" in Germany）means a penis, rooster, and water tap. So this spot shows three meanings, so-called pun. Thus the rooster is related to penis, sex, luxuriance, and harvest.

Eventually the motifs of dentist and the pole-climbing for rooster show the kermis, and harvest fair.

山形大学人文学部研究年報　第12号（2015. 3）43－51

制御理論を用いた在庫管理モデルの一解析
―リードタイムが変動する場合*

西　平　直　史

1　はじめに

経営の分野において在庫管理は避けては通れない問題であり，これまで多数の研究がなされてきた．そのうち，制御理論を用いて在庫管理を解析または設計する方法が提案されている [1, 2, 3, 4]．これらの方法は，在庫管理モデルをむだ時間を持つ動的システムとして定式化し，むだ時間システムに対する制御理論の結果を援用することで解析や設計を行っている．

ところで，在庫管理には一般的にリードタイムが存在しこのリードタイムがモデルの取り扱いを困難にしている．リードタイムとは，簡単に言うと生産活動に要する時間や輸送に要する時間などの合計であり，供給が必要になった時点と実際に供給が行われる時点との差である．参考文献 [1] では古典制御理論を用いて解析しているため，リードタイムは定数なものでなければならないし，参考文献 [2, 3, 4] では，現代制御理論を用いて解析しているためリードタイムが変動するものに拡張することができるが，その変動が事前にわかる必要があるというような制約があった．実際の在庫管理モデルにおいては，リードタイムは変動するものであるしその変動の要因が機械の故障や交通渋滞などによる場合，事前にはわからない．

そこで，本稿ではリードタイムが変動する場合の在庫管理モデルを対象として，その内部安定性を解析する．リードタイムの変動については，その変動を関数として表現する必要はなく，変動の上界と下界のみがわかれば良いものとする．[1] まず，リードタイムが 1 から 3 まで変動する場合を考え，切り替えシステムとして定式化を行う．次に，システムを一般化し，切り替えシステムの内部安定性の解析を同時安定化の手法を用いて行う．最後に，シミュレーションにより提案手法の有効性と課題を確認する．

2　問題の定式化

本稿では，参考文献 [2] と同じ在庫管理モデルを考える．

$$x(k+1) = x(k) + w(k) - d(k) \tag{1}$$

*2014 年 12 月 1 日受理

[1] ここでは，上界と下界がわかる状況を考えることになる．変動の上界と下界が事前にわからなくても余裕をもって設定することによってこの手法を活用できる．ただし，上界と下界の設定に余裕がありすぎると条件は保守的なものになる．

ここで，$x(k)$ は時刻 k における在庫量，$w(k)$ は入庫量，$d(k)$ は出庫量である．発注してから実際に入庫するまでにかかる時間をリードタイムと呼び，これを L で表すと，時刻 k での発注量 $u(k)$ と実際の入庫量の関係は

$$w(k) = u(k-L) \tag{2}$$

が成り立つ．(2) 式を (1) 式に適用した在庫管理モデル

$$x(k+1) = x(k) + u(k-L) - d(k) \tag{3}$$

を本稿では対象として考察する．[2]

このモデルに対して，参考文献 [2] と同じようにメモリーレスフィードバック

$$u(k) = Kx(k) \tag{4}$$

を施すことを考えてみよう．この (4) 式は現在の在庫量の定数倍を発注することに相当する．これによりできた閉ループ系は

$$x(k+1) = x(k) + Kx(k-L) - d(k) \tag{5}$$

となる．

本稿では，参考文献 [2] と違いリードタイム L が変動する場合を考える．L の下界を $L_m > 0$ とし，上界を L_M とする．つまり，$0 < L_m \leq L \leq L_M$ が成り立つものとする．ここで，L については下界と上界がわかっているものとだけ仮定している．すなわち，L の挙動がすべてわかっていなくても良い状況を考えている．現実のシステムにおいてリードタイムの変動は事前にわからない要素が原因となることが多く，実際的な設定である．

さて，以下ではシステム (5) の内部安定性を考えるため，内部安定性に影響を与えない外生信号 $d(k) = 0$ としておく．問題の定式化を一般化する前に，$L_m = 1$, $L_M = 3$ の場合を考えてみよう．$L = 1$ のとき，

$$x(k+1) = x(k) + Kx(k-1) \tag{6}$$

となり，これを拡大系を使って表すと

$$\begin{bmatrix} x(k+1) \\ x(k) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & K \\ 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x(x) \\ x(k-1) \end{bmatrix} \tag{7}$$

となる．同様に $L = 2, 3$ のときは

$$\begin{bmatrix} x(k+1) \\ x(k) \\ x(k-1) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 0 & K \\ 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x(x) \\ x(k-1) \\ x(k-2) \end{bmatrix} \tag{8}$$

$$\begin{bmatrix} x(k+1) \\ x(k) \\ x(k-1) \\ x(k-2) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 & K \\ 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x(x) \\ x(k-1) \\ x(k-2) \\ x(k-3) \end{bmatrix} \tag{9}$$

[2] ここでは平衡点を $x(k) = 0$ としているため，在庫数が負の値をとるように見えるが，システム (3) は線形システムであるため平衡点が 0 ではなくても適当な変数変換を行うことで平衡点が 0 のシステムとして表すことができる．したがって，安全在庫を見込んでその在庫数を平衡点としておけば非負制約を置かなくても一般性を失うことがないことに注意しておく．

が得られる．(7) 式から (9) 式はシステムの次数が異なるため取扱いが困難に見えるが，以下のように $L_M = 3$ のときの次数にあわせることができる．

$$\begin{bmatrix} x(k+1) \\ x(k) \\ x(k-1) \\ x(k-2) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & K & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x(x) \\ x(k-1) \\ x(k-2) \\ x(k-3) \end{bmatrix} \tag{10}$$

$$\begin{bmatrix} x(k+1) \\ x(k) \\ x(k-1) \\ x(k-2) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 0 & K & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x(x) \\ x(k-1) \\ x(k-2) \\ x(k-3) \end{bmatrix} \tag{11}$$

$$\begin{bmatrix} x(k+1) \\ x(k) \\ x(k-1) \\ x(k-2) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 & K \\ 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x(x) \\ x(k-1) \\ x(k-2) \\ x(k-3) \end{bmatrix} \tag{12}$$

すなわち，リードタイムが変動するときのシステムは (10) 式から (12) 式で表される切り替えシステムとして表現することができる．

この議論を一般化してみよう．$L = i$ （ただし $L_m \leq i \leq L_M$）の時，

$$\xi(k) = \begin{bmatrix} x(k) \\ x(k-1) \\ \vdots \\ x(k-i+1) \\ x(k-i) \\ x(k-i-1) \\ \vdots \\ x(k-L_M) \end{bmatrix}$$

とおくと，システム (5) は

$$\xi(k+1) = A_i \xi(k) \qquad (i = L_m \cdots L_M) \tag{13}$$

と表すことができる．ただし，

$$A_i = \begin{bmatrix} 1 & 0 & \cdots & 0 & K & 0 & \cdots & 0 \\ 1 & 0 & \cdots & \cdots & \cdots & \cdots & \cdots & 0 \\ 0 & \ddots & \ddots & & & & & \vdots \\ \vdots & \ddots & \ddots & \ddots & & & & \vdots \\ \vdots & & \ddots & \ddots & \ddots & & & \vdots \\ \vdots & & & \ddots & \ddots & \ddots & & \vdots \\ \vdots & & & & \ddots & \ddots & \ddots & \vdots \\ 0 & \cdots & \cdots & \cdots & \cdots & 0 & 1 & 0 \end{bmatrix}$$

である．

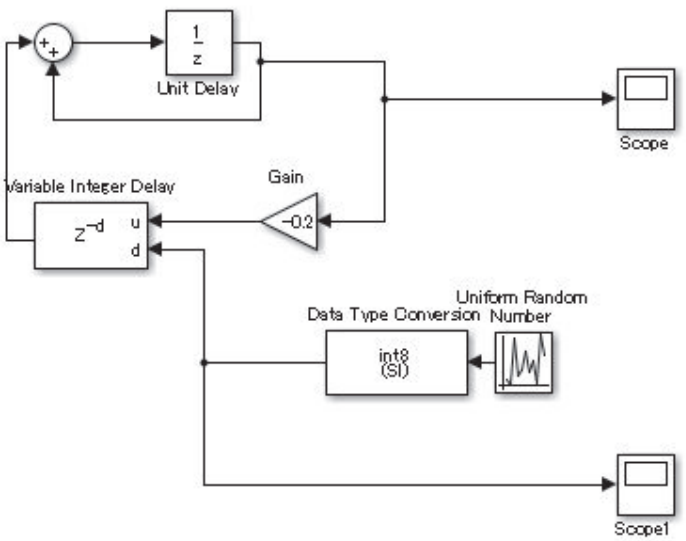


図 1: シミュレーションで用いたブロック図

3　解析とシミュレーションによる検討

本節では，システム (13) の内部安定性の解析を行う．システム (13) は切り替えシステムであるが，ここではリードタイムの変動は事前にわからないため切り替え則はわからない．それで，同時安定化 [5] の考え方で安定性を解析する．すなわち，(13) 式の全ての i において共通の Lyapunov 関数による安定解析を行う．

離散時間システムの安定性問題に関する定理 [6] を使うと次の結果が導かれる．

定理　与えられた K に対して，以下の線形行列不等式（以下，LMI と呼ぶ）を満たす正定対称行列 P が存在するならば切り替えシステム (13) は内部安定である．

$$A_i^T P A_i - P < 0 \tag{14}$$

証明は参考文献 [5, 6] から自明であるので省略する．

さて，切り替えシステムの安定性については参考文献 [7, 8] で条件が導出されている．参考文献 [7] では A_i に交換則が仮定されているし，参考文献 [8] では同時上三角化可能なものに限られている．本稿で対象としているシステムはこれらの仮定を満たさないため同時安定化の手法によって安定解析を行った．

次に，この結果をシミュレーションで検討してみよう．シミュレーションは Matlab のシミュレーション環境である simulink を用いて実施した．図 1 にシミュレーションで用いたブロック図を示した．リードタイムを表現するために図 1 の”Variable Integer Delay” を用いたが，リードタイムがランダムに決まるように乱数を発生させ，それを 1 から 3 の整数になるようにしている．実際に発生させた乱数を図 2 に示した．以下に示すシミュレー

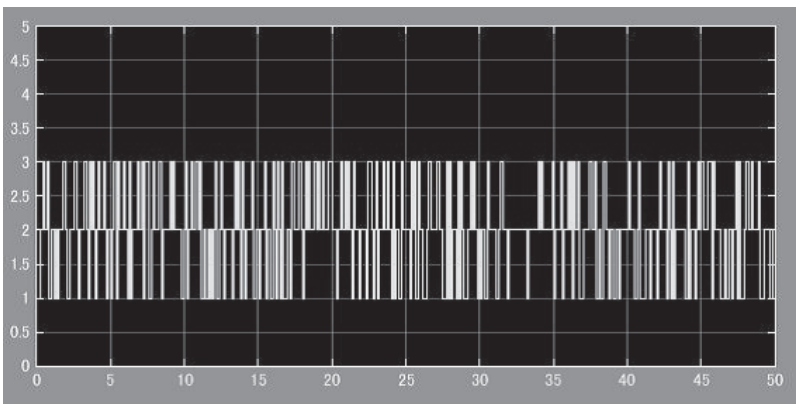


図 2: シミュレーションで用いた乱数 (Scpoe1)

ションはいずれも図 2 の同じ乱数を用いている．[3] また，初期値は 5 としてシミュレーションを実施した．

まず，$K = -1$ の場合のシミュレーション結果を図 3 に示す．$K = -1$ は理想在庫からのずれを発注数にする状況で，サプライチェーンマネジメントにおけるいわゆるプッシュ方式に相当する．[4] この時，在庫は −5 から 5 の範囲で変動している．実際，(14) 式の LMI は同時に解くことはできず，3 つの LMI を別々に解いても可解ではない．したがって，この場合リードタイムが 1 から 3 のどの長さになっても内部安定ではなく，切り替えシステム全体として内部安定性が失われていると言える．また，この状況で外生信号すなわち出庫 $w(k)$ が発生するとシステムの状態が平衡点（$x(k) = 0$）に収束していくことは難しいと言える．

次に，$K = -0.2$ の場合のシミュレーション結果を図 4 に示す．$K = -0.2$ のとき，(14) 式の LMI は可解で，Matlab の Robust Control Toolbox の feasp（LMI を解く関数）を用いると

$$P = \begin{bmatrix} 1.7034 & -0.8918 & -0.3141 & -0.0859 \\ -0.8918 & 1.3909 & -0.2840 & -0.0701 \\ -0.3141 & -0.2840 & 0.8966 & -0.1522 \\ -0.0859 & -0.0701 & -0.1522 & 0.4598 \end{bmatrix} > 0$$

と求まる．この場合はシステム全体の同時安定性を保証できるためリードタイムが変動してもシステムの状態が平衡点に収束している様子が伺える．

[3]実際のシステムにおいては，遅延が同一の原因による場合には同じリードタイムの長さが数期間にわたって連続して起こる場合が多い．ここでは，リードタイムの変動は毎期独立に一様分布に従うとしてシミュレーションを行っているが，リードタイムが一様分布に従わない場合にも同じ結果を得ることができる．

[4]ここでは，$K = -1$ を考えているので在庫量の発注量が正の時の発注量が負になることになる．しかし，脚注 2 に示した通り，平衡点を安全在庫として設定しておけば発注量は設定した安全在庫数から余剰分を減じた発注量となるため，実際には正となることに注意しておく．なお，安全在庫を厳しく設定した場合には安全在庫数に発注数を加えて負になる場合もあり得る．このような場合には非負制約を考慮する必要があり，今後の課題である．

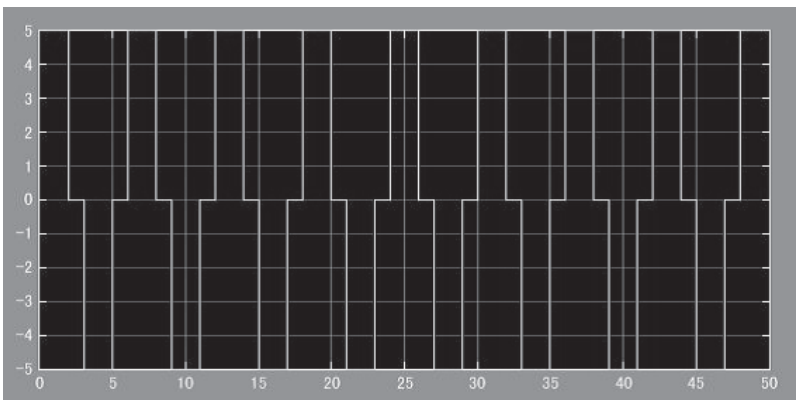


図 3: $K = -1$ の場合のシミュレーション結果 (Scope)

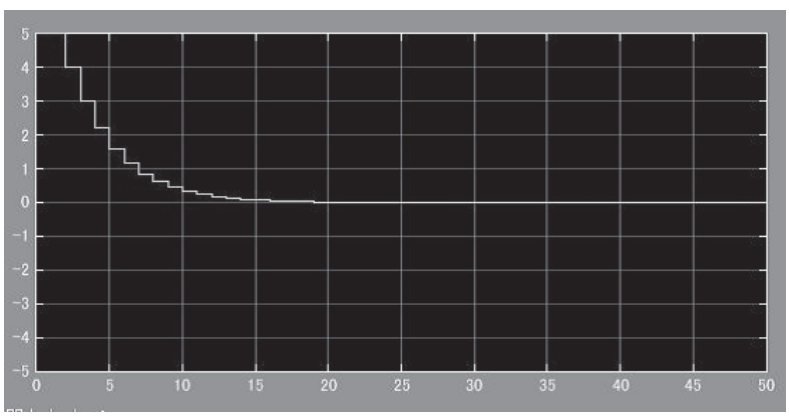


図 4: $K = -0.2$ の場合のシミュレーション結果 (Scope)

最後に $K = -0.5$ の場合のシミュレーション結果を図 5 に示す．$K = -0.5$ の場合，(14) 式の LMI を満たす P は求まらない．そのため同時安定性は保証できない．しかし，図 5 を見るとアンダーシュートは発生しているもののシステムの状態は平衡点に収束している．リードタイム別に安定性を確認すると，$L = 1$ と $L = 2$ は内部安定であり，$L = 3$ の時のみ内部安定ではない．参考文献 [8] に示されているように，切り替えシステムは不安定なサブシステムが含まれていてもシステム全体としては安定になる場合があり，この場合はそのようなケースに含まれると考えられる．また，同時安定化による安定条件は十分条件であり保守的なものであることも確認できた．

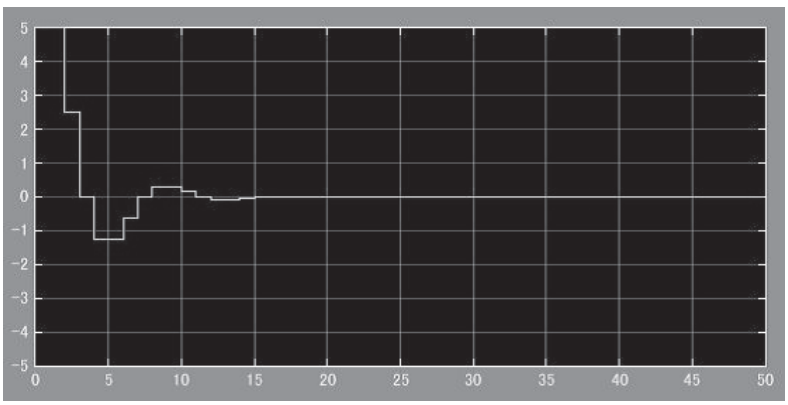


図 5: $K = -0.5$ の場合のシミュレーション結果 (Scope)

4　おわりに

本稿では，在庫管理モデルを対象としてリードタイムが変動する場合の内部安定性を同時安定化の観点から解析した．解析した結果は，リードタイムの変動の上界と下界の情報のみを必要としておりリードタイムの変動すべてがわからなくても良いもので，現実に使いやすいものとなっている．また，シミュレーションによってこの手法の有効性を確認した．加えて，同時安定性が保証できない場合にも安定となる場合があり，この条件は保守的であることも示した．

今後の課題として，外生信号も含めたサーボ系を考えること，複数のシステムによるサプライチェーン全体を考えることがあげられる．また，非負制約を加えた場合の解析を行うこともあげられる．

参考文献

[1] 伊藤利昭・橋本芳宏・石原大司，最適制御理論を用いたブルウィップ効果を防止する在庫補充方式の提案，日本オペレーションズ・リサーチ学会 2006 年春季研究発表会，pp. 66–67 (2006)

[2] 西平直史，サプライチェーンにおける Bullwhip 効果を抑制するための一手法－むだ時間システムとメモリーレスフィードバックを用いた解析－，山形大学人文学部研究年報，5, pp. 205–214 (2008)

[3] 西平直史，むだ時間システムとしてとらえたサプライチェーンについての一考察—リードタイムが既知の場合—，山形大学人文学部研究年報，6, pp. 157–162 (2009)

[4] 西平直史，サプライチェーンに対して構成したサーボ系の解釈とその応用，山形大学大学院社会文化システム研究科紀要，7, pp. 105–109 (2010)

[5] 平田健太郎，ネットワーク化制御に関連した安定化問題の漸近的性質についての考察．システム制御情報学会論文誌，Vol. 23, No. 10, pp. 243–245 (2010)

[6] 萩原朋道，ディジタル制御入門，コロナ社，(1999)

[7] G. Zhai, B. Hu, 安田一則，A. M. Michel, 離散時間切り替えシステムの安定性と L_2 ゲイン解析，システム制御情報学会論文誌，Vol. 15, No. 3, pp. 117-125 (2002)

[8] 藤澤大亮，村松鋭一，切り替えシステムの安定性—固有値よ動作時間による安定条件，システム制御情報学会論文誌，Vol. 15, No. 5, pp. 232-237 (2002)

山形大学人文学部研究年報　第12号（2015. 3）43－51

An Analysis of Inventory Management Models Using Control Theory
— a Case when the lead time is varied

Naofumi NISHIHIRA

This paper considers the problem of an analysis of inventory management models when the lead time is varied. We formulate the inventory management models as switching dynamical systems. We have shown that the stability of the entire switching systems can be reduced to simultaneously stability. Moreover, We confirmed the validity and limitations of the proposed method by some simulations.

山形大学人文学部研究年報　第12号（2015. 3）53－65

無限に拡大する「民族性」
――ヒトラーとピブーン，２人の独裁者の言説をめぐって

渡　辺　将　尚

1

第２次大戦前から戦中にかけてドイツを独裁体制下においたアドルフ・ヒトラー（Adolf Hitler, 1889～1945，首相在任[1]1933～1945）は，その初期から，優生思想に基づくユダヤ人等の排除とならんで，東部地域へと領土を拡大する大国化の野望を抱いていた。

1939 年９月１日，すでにソ連との間に独ソ不可侵条約を結んでいたドイツは，ポーランドへと侵攻を開始する。第２次世界大戦の始まりである。この時点でのヒトラーの目標は「少なくとも1914 年の状態を回復すること」[2]だった。「1914 年の状態を回復する」とは，ヴェルサイユ条約によって奪われた西プロイセンやアルザス・ロレーヌなどを再び取り戻すということである。ドイツ軍は破竹の勢いで進軍し，早くも同年末にはポーランドをソ連と分割するに至る。その結果，ドイツは，奪還した西プロイセンを南北２つの「ガウ（「大管区」）」として帝国に併合し，さらにそれ以東のポーランドは「総督府」として厳密にはドイツ領ではないが，実質的にドイツの管理下に置く。つまり，ポーランド侵攻によってドイツは，ヴェルサイユ条約で奪われた「失地」を回復するどころか，それ以上の領土を獲得したことになる。

1940 年６月 22 日，パリを含むフランスの５分の３を占領し，残りを中立地帯とすることで「西部戦線」に決着をつけたヒトラーは，いよいよ「東方への転換」[3]を打ち出し，東部へ向けてさらなる領土拡大を目論む。この東方政策は，1942 年８月から翌年２月にかけてのスターリングラードの戦いにおける敗北により，まったく実現することはなかったが，計画自体は，ヴォルガ川までをドイツの勢力圏内とする実に壮大なものであった[4]。新たに占領したソ連地域は，西プロイセンから排除され「総督府」に追いやられたポーランド人やユダヤ人をさらに移住させたり，ドイツ人を入植させるなど，土地ごとに個別の目的を設定し利用する計画だった。利用目的の設定の際には，「ゲルマン化」しやすい土地であるか，あるいはそうではない「ユダヤ的・アジア的・

1　1934 年８月のフォン・ヒンデンブルク大統領の死後は，大統領を兼ね「総統」と称した。
2　永岑三千輝『ドイツ第三帝国のソ連占領政策と民衆1941-1942』同文舘，1994 年，29頁。
3　同91頁。
4　「1940 年11 月５日に陸軍指導部がヒトラーに対ソ作戦計画を開陳したとき，ヒトラーは『ロシア軍はひとたび打撃が与えられれば，40 年のフランスよりももっと大規模な崩壊に遭遇するだろう』とし，ヴォルガまで軍を進めて終戦にしたのち，４つの緩衝国（ウクライナ，白ロシア，リトアニア，ラトヴィア）をソ連領土に樹立する構想を示した。」（同92頁。（　）は原文のまま。）

ボルシェヴィズム的」（驚くべきことに，この３つはヒトラーにとっては同義語である）であるかが大きな役割を果たしており，あまりにも後者の色が強すぎる場合，利用しないという選択肢もあった。たとえば，全バルト諸国はドイツ領とする[5]，レニングラードは打倒後しかるべき時期にフィンランドに与える[6]，ウクライナはユダヤ人をシベリアに追放した後にドイツと同盟した独立国家とする，共産主義という害悪をまき散らしている大本であるモスクワおよび周辺の住民は餓死させる[7]，などである。

こうした大国化への野心の発端を，ヒトラーが少年時代から抱いていた反ユダヤ主義や大ドイツ主義，あるいは実科学校退学や「ウィーン美術アカデミー」入学試験の２度にわたる不合格など，彼の実人生に結びつけるのは非常に容易である。しかしそれだけでは，戦時下における上記のような東方政策を説明することはできない。なぜなら，それらは前述のように開戦当初の目標である「1914 年の状態」，さらには「大ドイツ」の範疇をもはるかに超えているからである。たしかに，1927 年に出版された『わが闘争』第２巻には，東方植民地を思わせる記述がある。しかしそこでは「獲得した新領土」あるいは「辺境植民地」[8]と言われているだけで，具体的地名はない。つまり，東方政策は，ヒトラーの念頭に当初からありつつも，第２次大戦を戦う中で具体化されていったものと言うことができる。

ただし，この「具体化」は作戦・戦術の明確化あるいは発展，成熟を意味しない。本稿で注目したいのは，むしろ，当初の思考があいまいであるからこそ，後に適用される段階で，その時々の状況に応じていかようにも変形され得る，あるいは場合によっては残虐化し得るという点である。

以下では，同時期に独裁者として大国化をめざしたタイの首相ピブーンのケースを対置することで，どのような条件下において上記のような論理転換が生じるのかについて考察したい[9]。

2

周知のように，ヒトラーは，大衆にとって聞き心地のよい巧みな演説術によってナショナリズムを鼓舞し，人心を掌握していくが，『わが闘争』に述べられているのは，逆に，大衆をも含めた当時のドイツに対する徹底した批判であった。まず議会は，解散をくり返しては政権が変わり，何ら責任感も決断力もない。また，一般大衆も，新聞に書いてあることをそのまま信じ込み，思

5　同127頁。
6　同128頁。
7　同117頁。
8　Adolf Hitler; Mein Kampf. München（Franz Eher Nachfolger G.m.b.H.）1927. Bd. 2 . S.38.
9　この目的を達するためには，同時期にファシズムの風が吹き荒れたヨーロッパ内の国々は，比較対象として不可能とは言わないまでも，不十分である。国の成り立ちや，それ以前の政治的背景が異なり，なおかつ互いに影響を与えうる同盟関係にない国で同一の事象が生じていることを確認することこそが重要である。また，比較対象は，自国の舵取りが自らでき，さらに隣接する他国との力の差が歴然としている（ないしはそう認識している）国でなければならない。なぜなら，植民地支配を受けつつ，あるいは内政上の課題に振り回されつつ大国化を夢見ることはおよそ不可能なことだからである。以上のような意味で，東南アジア唯一の独立国であるタイは，格好の比較対象であると言える。

考を停止している（ヒトラーは，これを病気（Erkrankungen）[10]と呼ぶ）。しかも，そのような「単細胞の群れ」[11]は国民の「最大多数グループ」[12]であり，彼らの投票行動によって国家のあらゆることが決まっていく。しかし，『わが闘争』におけるヒトラーは，これら病気の「単細胞の群れ」を啓蒙することを諦めている。代わりに彼が目指すのは，まだ頭のやわらかい青少年のうちに，意志と決断力を涵養する教育を行うことだった。とはいえ，彼の言う「意志と決断力」の教育とは，毎日２時間体育の時間を作り，そこで体操やあらゆるスポーツをさせるなど，それほど大層なものではない。また，彼の設定する到達目標は，現体制および大衆への痛烈な批判に比して，驚くほど低い，単純なものであった。

「当然，ある民族が隅々にいたるまで心身ともに健康である（gesund）時にはじめて，そこに所属しているという喜びが，一人ひとりの中で，我々が国民的誇りと呼ぶ，あの崇高な感情まで高まることができる。しかし，このもっとも崇高な誇りは，まさに自民族の偉大さを知っている（kennen; *英 know*）者だけが感じることができるものなのだ。」[13]

この引用は，要約してしまえば，最低条件として自民族の偉大さを知り心身ともに健康であれば，後のことは自ずから成ると読める。しかし，この「健康」ということが，ヒトラーにとっては大きな意味を持つ。そのことを，ヒトラーが1927 年 12 月 10 日ハンブルクで農民を前に行った演説で確認しておこう。

「健康な民族はその数を増やしていく。その構成要素としての人間は，つぎの世代を生み出すことによって自己を保存するという汲みつくし得ない衝動を持っているからだ。これは，地上に生きとし生けるものすべてがもっている衝動なのだ。」[14]

「存在は，人口と土地との正しい関係に基づいており，また，その栄養源は自らの土地にあるという認識を，ある民族がもつ限り，その民族は土地を拡大し，（その拡大した土地に）住まうことになろう。土地の拡大とはまさに人間がもって生まれた権利であり……」[15]

後者の引用の冒頭で言われている，民族の「人口」と「土地」が「正しい関係に」あるとは，

10　Adolf Hitler; Mein Kampf. München（Franz Eher Nachfolger G.m.b.H.）1925. Bd. 1 . S.245.
11　ibid. Bd. 1 . S.255.
12　ibid.
13　ibid. Bd. 2 . S.63. なお，日本語の「知る」に対応するドイツ語には wissen と kennen の２つがあるが，間接の知識として知ることを表す wissen に対して，kennen は直接の体験・経験等を通じて知ることを指す。自民族の偉大さは，学ぶのではなく，体験されるものと捉えられていることが分かる。
14　Hitler. Reden, Schriften, Anordnungen; Februar 1925 bis Januar 1933. München（K. G. Saur）1992. Bd.II.（Vom Weimarer Parteitag bis zur Reichstagswahl.）Hrsg. und kommentiert von Bärbel Dusik. S.574f.
15　ibid. S.575.（　）内は，引用者が説明のために付け加えたもの。特に断りのない限り，以下の注釈でも同じ。

人口に見合う広さの土地を手にする，ということである。一方，前者の引用では，「健康な民族」は自然とその人口を増やしていく，とある。したがって，この２つの引用で示されているのは，人口が増えれば，それに見合う領土を求めて周辺国に侵攻していくことは当然の権利だという論理である。もちろん「健康」が条件であるから，ヒトラーが憎悪する現在の大人たち，つまり病気にかかった「単細胞の群れ」にはこの権利はない。新しく獲得した領土には，若く優秀な者を植民させる計画だった。このことについては，後にもう一度振り返るが，いずれにせよ，前章で示した第２次世界大戦での東方への侵攻は，こうした考えを実行に移したものであった。

3

この到達目標の単純さと領土拡大の野心は，一見すると相容れないものであり，これらが容易に結びついてしまうところに，ヒトラー特有の詭弁を見いだすことができるようにも思われる。なぜなら，領土を拡大するためには，通常，戦闘行為が必要であるが，低い理想のもとに育成された人間たちで軍を組織し，なおかつ平民に戦時下の生活を耐えさせることは非常に困難なことだと想像されるからである。しかし，他の独裁者の中にも同じ論理を見いだす時，こうした論理の飛躍は，一定の条件を満たせば他の人物にも容易に起こり得るものであることが理解されるであろう。以下ではいよいよピブーンのケースを見ていくことにしよう。

プレーク・ピブーン・ソンクラーム（Pleak Phibun Songkhram, 1897～1964，首相在任1938～1944, 1948～1957）は，もともと平民の出であったが，12歳で小学校を卒業すると，陸軍士官学校への進学を希望する。ここから，彼の軍人としての経歴が始まる。1921 年に入学した「陸軍参謀学校」では見事成績第一位で卒業し，官費によるフランス留学の機会を手に入れる。当時のタイは，チャクリー王朝による絶対王制が存続しており，ピブーンに限らず，ヨーロッパに留学したタイ人留学生たちは，母国における「民主主義」と「強国」の必要性を切に感じ取っていた。

1927 年２月，ピブーンを含め，革命の志を同じくする７名がカルチェ・ラタンの一角に集まり，「人民党」の結成大会が開かれた。この時に決定された，全国民の平等，自由，教育の普及といった「革命六原則」は，実際に彼らがクーデタを成功させた1932 年６月 24 日，人民党宣言の中で発表されることになる。この後，第１回人民代表議会により初代首相が任命されるが，新政府は王制を廃止せず，立憲君主制を敷く[16]。

ピブーンは，初めは年長者に首相の座をゆずるが，クーデタから６年半ほどが経過した1938 年12 月 16 日，陸海軍の支持を得てついに首相に任命される。首相の他，さらに国防・内務大臣をも兼務した彼は，さっそく反対派の大弾圧に乗り出す。結果，51名を起訴し，18名に死刑，25名に終身刑を下した。

このように独裁体制を固める中で，第２次大戦への反応は早かった。ドイツがポーランドに

16　この王制は現在も続いており，クーデタ時の王がラーマ７世，現在の国王はラーマ９世である。

侵攻した４日後の1939年９月５日，タイはまず中立を宣言する。しかし，1940年６月，フランスがドイツに敗れると，状況は一変する。1893年の仏泰戦争で失った領土を回復するどころか，それ以上のものを獲得できる機会が生じたのである。1940年９月５日，ピブーンは，仏領インドシナのタイ族だけでなく，ラオス・カンボジアなどの住民の入国税および入国手続きを免除すると発表し，さらに同９月11日，フランス・ヴィシー政権に対し，メコン川を国境とし，西岸をすべてタイに返還するよう要求する。これらの要求の根底にあるのは，ラオス人もカンボジア人（クメール人）もタイと同一種族であるという主張であるが，実際，広い意味でのタイ族に入れられるのはラオ族のみで，クメール人は全く別系統の民族である[17]。

結局，この要求はフランス側に受け入れられず，タイ･仏印戦争が始まるが，日本の調停によって，タイは，ラオス・カンボジアまでを含むかつての最大領土を回復することはできなかったとはいえ，一部の失地回復には成功する。

*

ピブーンが，国民を１つにまとめ上げ，タイ（首相就任当初はまだ「シャム」）を強国化するために用いた方法は，実にユニークなものだった。彼は1939年６月24日に，「ラッタニヨム第１号」なるものを発布する。内容は，国名を「シャム」から「タイ」に変更するというものであるが，「ラッタニヨム第２号」以下では，タイ国民が遵守すべき生活・行動の指針を定めており，1942年１月までに計12号が出された。玉田芳史氏によれば，全12の「ラッタニヨム」の内容は以下の通りである。

「第２号（39年７月３日）:「チャートは最も重要なものである」がゆえに，その利益を損ねる行動を厳に慎まなければならない。第３号（39年８月２日）: 国家が不可分であるにもかかわらず，その住民をエスニシティなどに応じて分け隔てするのは適切ではなく，皆「タイ人」と呼ぶべきである。第４号（39年９月８日）: 国歌，国旗，国王賛歌に敬意を払わねばならない。第５号（39年11月１日）: 国産品を愛用して国内産業を支援しなければならない。第６号（39年12月10日）: 国歌の歌詞の変更。第７号（40年３月23日）: 自己建設や家族建設に努めてチャート建設に貢献しなければならない。第８号（40年４月26日）: 国王賛歌の歌詞の変更。第９号（40年６月24日）: タイ語に誇りを持ち，その習得に努めねばならない。第10号（41年１月15日）: 市域内では洋服か伝統的な衣装を着用し，きちんとした身なりをしなければならない。第11号

17　タイ族はもと中国南東部，長江以南に居住していた民族で，漢民族からの圧迫により，西進・南進をくり返して現在の位置に移動してきたと考えられている。一方，それより以前に現在のタイ領内に居住していたのがクメール族を含むモン・クメール系の民族であり，1240年頃，スコータイのクメール太守を駆逐してその地に都を建設したのが，タイ民族による最初の王朝（スコータイ王朝）の始まりであるとされている。（柿崎一郎：『物語　タイの歴史』中公新書，2007年。タイ民族の出自に関しては15～16頁。クメール帝国については29～31頁。スコータイ王朝の始まりについは36頁を参照。）

（41 年 9 月 8 日）：時間を有意義に活用し，規則正しい生活を送って健康を保たねばならない。第12号（42 年 1 月 28 日）：文化的な人間は子ども，老人，身体不自由者を助けなければならない。」[18]

先に，「ラッタニヨム」は「生活・行動の指針」だと言ったが，特に第10号以降を見ると，実に初歩的で基本的なものであることが分かる。これは，西はビルマ，東はラオス・カンボジアまで英仏に制圧されている状況下で，それら西洋列強に対して，タイ人が文化的にふるまえることを示し，独立を守り抜くためのものであった。周知のように，「文化的レベルの低さ」あるいは「野蛮さ」は，「統治能力のなさ」と結びつけられ，しばしば植民地化の格好の口実となった。

しかし，「ラッタニヨム」の目的はそれだけではない。ここでは，「ラッタニヨム」のもう一つの側面について，引用中に下線を引いた第３号と第９号を見ていきたい。

いわゆる西洋的な意味での近代化がタイで本格的に着手されたのは，1880 年代からである。時の王ラーマ５世は，これまで地方の平民たちを支配していた領主たちに代わり，バンコクから官吏を派遣して，中央集権化を図り，さらに徴兵制の導入や鉄道の建設を行っていく。当時まだ北部チェンマイを首都とした独立国であったラーンナータイ王国への影響力を急激に強め始めたのも，この時期である[19]。このラーンナータイ王国は，立憲革命の1932 年にシャムの一部となり，600 年以上にもおよぶその歴史を閉じるが，革命後，政府はさらなる統合政策を進めていくことになる。こうした文脈の中で「ラッタニヨム」第３号と第９号を読めば，その意図がはっきりと浮かび上がってくる。つまり，タイ国内に居住している以上，それは民族に関わらず「タイ人」なのであり，しかも「タイ語」（これはバンコク周辺で話されている標準タイ語を指す）[20]を話さなければならないというわけである。

4

我々が掲げていた課題は，到達目標の単純さと領土拡大の野心という，一見すると相容れない２つの思考がいとも簡単に結びついてしまうということが，ヒトラー特有の詭弁や論理の飛躍の結果ではなく，一定の条件を満たせば容易に起こり得るものであることを示すことであった。

18　玉田芳史：「タイのナショナリズムと国民形成」〔「東南アジア研究」34巻１号，1996 年，138頁。〕一部省略，および表現を改めた箇所があるが，（　）の年月日は原文のまま。また，下線は引用者が付したもの。引用文内に使用されている「チャート」という言葉は，英語の nation に対応するタイ語で，「民族，国民，国家の３つの意味を渾然一体と備えて」（同130頁）いる。

19　18世紀末，それまで約２世紀の間ビルマの属国であったラーンナータイは，ビルマ勢力を一掃するためにシャムと同盟を結ぶことを選択する。（Iijima Akiko: Preliminary Notes on “the Cultural Region of Tham Script Manuscripts,” Senri Ethnological Studies（National Museum of Ethnology）74. 2009. p.16.）それ以降，ラーンナータイはシャムの勢力下に入るが，1894 年，シャムがビルマを支配するイギリスと国境策定を行った際，シャン州から西をイギリス，ラーンナータイから東をシャムと定める。（Murakami Tadayoshi: Buddhism on the Border: Siam Buddhism and Transborder Migration in Northern Thailand. Southeast Asian Studies（Center for Southeast Asian Studies Kyoto University）1（３）. 2012. p.370）そこからシャムはラーンナータイへの影響力をさらに強めていくことになる。

20　「ラッタニヨム第９号には……中央平原で話されているタイ語を，王国内のいかなる地域でも用いられる国語としようとする意図があった。」（Kobkua Suwannathat-Pian: Thailand’s Durable Premier. Phibun through three decades 1932–1957. New York（Oxford university press）1995. p.122.

では，上に述べた「ラッタニヨム」に代表されるピブーンの政策が，なぜ大国化主義へとつながっていくのだろうか。実際のところ，「ラッタニヨム」やそれに付随する法令等で定めた条件をすべて満たす「タイ人」――たとえば，外国のものを使わず，きれいな「標準タイ語」を話し，たえず国王に敬意を払い，身なりに気を遣い，健康である「タイ人」――は，未だ実在するはずのない，理想の存在である。しかし，未だ存在しないということが，逆説的に，無限の増殖への可能性を開く。なぜなら，誰も「タイ人」ではないということは，誰でも「タイ人」になれるということを意味するからである。先に，「クメール人はタイ人とは別系統である」と言ったが，このクメール人さえ「タイ人」になることができるのである。現に，「ラッタニヨム第３号」では，民族は関係ないと謳われている。

ここで，ヒトラー，ピブーン，両者の共通点は明らかである。ヒトラーも，彼が定義するところの理想の「ドイツ人」は存在しないという認識から出発する。そして，これから教育を施すことで，「ドイツ人」を作っていこうとする。その際，彼が設定した目標は，ピブーン同様，非常に単純なものだった。

この「単純性」こそが，論理の転換を促す重要な要素である。「単純性」ゆえに，タイの場合，「タイ人」の定義はどこまでも拡大することができた。ドイツの場合も，ヒトラーが構想したような教育を受ければ，どのような者でも，自民族の偉大さを知り，意志と決断力を持ち，心身ともに健康である「一個の完全なドイツ人（ein ganzer Deutscher）」[21]となることができるのである。

しかしここで一つの疑問が湧いてくる――青少年を教育し，彼らが大人になり国を背負えるようになるまで待つ必要があるだろうか。新たに獲得した地にも「意志と決断力を持ち，心身ともに健康」な人間は確実にいるはずであり，そのような人間たちを仲間に引き入れることを考えた方が，手っ取り早いのではないか。その際，もし彼らの中に「自民族こそが偉大だ」という信条がくすぶっていたとしても，それは大きな問題とはならないであろう。なぜなら，徹底した「ゲルマン化」によって，「ドイツ民族の偉大さ」に置き換えればよいからである。つまり，ここで考察したいのは，上述の「単純性」を媒介とした論理転換――「誰も一個の完全なドイツ人でない」から「誰でも一個の完全なドイツ人になれる」――が他民族にも適用されうるのかどうか，またそれが可能なのだとすれば，いかなる条件によるのか，ということである。

前述のように，ヒトラーの東方政策――占領地の利用法――は，第２次大戦を戦う中で具体化されていったものであった。したがって，この問いに答えるためには，東方政策が決断されていくその場に立ち会い，そこで何が語られていたのかを検証する必要がある。以下では，戦時中のヒトラーの言行録である『ヒトラーのテーブルトーク 1941-1944』[22]を参照しながら，この点につ

21　Adolf Hitler; Mein Kampf. Bd. ２. S.62.

22　“Hitler’s Table Talk 1941-1944.” Trans. Norman Cameron and R.H. Stevens. London（Weidenfeld and Nicolson）. 3rd ed. 2000. 本稿で用いたのは Enigma Books Inc.（New York）から出版された同書のアメリカ合衆国流通版。本書は，1941 年５月からヒトラーの秘書を務めたマルティン・ボルマンの指揮の下編纂された，「ボルマン覚書（Bormann-Vermerke）」と呼ばれる「公式記録」（ibid. p.vii. “Preface to third edition by H.R. Trevor-Roper”）である。なお，この

いて考えていくことにしよう。

まず1941 年 10 月 13 日の夕食時，ヒトラーは以下のような言葉を発したとある。

「デンマーク，ノルウェー，オランダ，ベルギー，スウェーデン，フィンランド。彼らに今目の前に開けている将来の展望を示してやろう。彼らの大多数は，我々の前に計り知れない土地が広がっていることに気づいていない。しかし，彼らは，自分の国のために何かしなければならないと前向きに考えている人間たちなのだ！有り余る人口を掃き出せるその受け皿がロシアに見つかることや，そうすれば必要なものはすべて手に入るといったことが分かれば，彼らが諸手を挙げて我々の陣営に加わってくれるというのも，不可能なことではないように思う。」[23]

冒頭に挙げられている６カ国のうち，この時点でドイツは，デンマーク，ノルウェー，オランダ，ベルギーをすでに支配下に置いている。スウェーデンは中立国，フィンランドは６月 22 日ソ連に対し宣戦布告を行ったばかりである。つまり，ここに挙げられているのは，無条件に仲間であると認められるゲルマン系諸国，および「敵の敵」という否定的な論理とはいえ，自らの陣営に引き入れられる可能性を持つ国である。これらの国には，「自分たちの国のために何かしなければならないと前向きに考えている人間たち」がいる。しかし，このことはヒトラーにとって否定的な要素ではない。彼らもまた，「何かしなければならない」という「意志」を持っており，ヒトラーによって自分たちの可能性に目が開かれさえすれば，すぐに行動に移そうとする「決断力」をも兼ね備えているからである。しかも彼らは目を開いてくれたことに感謝し，自ら喜んでドイツ帝国の一員となる。つまり，人々が持つ「自国のため」という感情も，容易に「ドイツのため」に変容させることができるのである。

完全にゲルマン系ではないが，「スラヴ人と比べてよりゲルマン的である」[24]民族もいる。クロアチア人である。クロアチアでは，1941 年４月，枢軸国軍の侵攻でユーゴスラヴィアが降伏した後，ナチス・ドイツの傀儡国家が樹立されている。ヒトラーは，クロアチア人の「誓いを破らない」意志の強さを高く評価する。以下の引用は，1941 年10 月 29 日，夕食時の会話である。

「クロアチア人たちが帝国の一員となれば，総統直属の忠実な外人部隊として，湿地帯の警備に当たらせよう。……クロアチア人は誇り高い人々である。……彼らは完全に信頼できる。クヴァテルニクを黙ってその場に立たせてみればよい。そうすれば，揺らぐことのない友情，永久に破られない誓いといった，私がこれまでずっと接してきたクロアチア人の典型を目にすることがで

英語版の初版出版（1953 年）からはるかに遅れて，1980 年にようやくドイツ語版が出されたが，1942 年３月 12 日から９月１日までの記録が欠落している。したがって，本稿では，欠落時期に該当するしないを問わず，一貫して英語版を用いるものとする。

23　ibid. p.53.

24　ibid. p. 8 .

きることだろう。」[25]

あくまで「外人部隊」の地位に留まるとはいえ，その意志力の強さゆえ，クロアチア人たちもドイツ帝国に参加することができるのである。

ここでヒトラーの思考の特徴が浮かび上がってくる。ドイツ軍が占領あるいは支配下に置いた（あるいはこれから置く可能性のある）地域の人々を，「ゲルマン的」ないしは彼の目指す「意志と決断力」を持ち合わせた民族と定義することで，その地域の占領行為や支配行為が正当化されるのである。その傾向は，戦局が進展し，東部へと深く侵入していくにつれて，ますます強くなっていく。つぎの引用は，1942 年 1 月 22 日，昼食時の会話である。

「我々の200 年にわたる統治が終わるまでには，国籍の問題解決に成功することも不可能ではない。……

（19世紀，オーストリア帝国で普通選挙が導入されたことにより，ドイツ人の優越は崩壊し，選挙制度上は劣等民族と同等となりはしたが，それでも）チェコ人はハンガリー人，ルーマニア人，ポーランド人よりましだった。チェコ人の中には，勤勉でまじめで，分をわきまえた小ブルジョアジーが成長していたのだ。今日，彼らは以前と同じように，憤慨と感服が入り交じった気持ちで再び我々に頭を下げるようになるだろう。……

他を統治することが日常になれば，人はうまく命令することができるようになるものだ。チェコ人たちが，同じようにハプスブルク帝国の周辺部にいる他民族よりも自分たちの方が優れていることが分かれば，もしかしたら彼らの劣等感も克服できるかもしれない。」[26]

ハンガリーとルーマニアは，1941 年 4 月，ドイツ軍がユーゴスラヴィア，ギリシアなどに相次いで侵攻する中で，枢軸国側に加わった国々である。なお，第 1 次大戦後成立したチェコ・スロバキアのうち，チェコはドイツに併合（1939 年 3 月），スロバキアは独立しドイツの保護国となっている。この引用での中心的話題は，そのチェコ人である。ヒトラーの見るところ，現在のチェコ人は他の東欧諸国よりは勝るものの，未だ劣等感を克服できていない。しかし，その劣等感さえ払拭できれば，東欧諸国の最上位の民族として受け入れられる可能性があると読むことができる。もちろん「我々に頭を下げる」とあるように，あくまでドイツ人による支配の下ではある。しかし，曲がりなりにも支配民族の仲間に加わることができるのである。

こうしてヒトラーの思考は，東欧の最果てブルガリアにまで及ぶことになる。つぎの引用は 1942 年 4 月 10 日のものであるが，時間帯は示されていない。

25　ibid. p.95.「クヴァテルニク」はクロアチアの軍人の名。
26　ibid. pp.228-229.

「ドイツでエンジニアリングを学んだり，学位を取ったブルガリア人はたくさんいる。外国人が我が国の大学で学位を取ることを助成するというのは，よい政策であろう。こうした助成を受けて（我が国で）青春時代の一時期を過ごした人々は，（我々の）生涯の友人となってくれることだろう。」[27]

ブルガリアも，前出のハンガリー，ルーマニア同様，1941 年，ドイツと軍事同盟を締結し，枢軸国側に入った国である。ブルガリア人だけでなく，青年期にドイツで勉学に励んだ外国人たちは，ドイツにとって生涯の友となるのだという。ここでは，「意志」「決断力」「健康」といった個人の資質は，もはやまったく問題とされていない。ただ一時期，ドイツで学んだ経験があればよいのである。

それから約一月後の1942 年 5 月 12 日夕食時の会話では，我々は『わが闘争』からは想像もつかない驚愕の記述に出くわすことになる。

「ある特定の民族のゲルマン化の問題は，抽象的な理念や理論で判断してはいけない。一人ひとり個別に審査しなければならない。審査のポイントはただ１つ，どの民族の人間でも，ドイツ民族とうまくやれ，ドイツ民族の価値を高めることができるか，あるいはその反対に（ユダヤの血がドイツの血と混ざった時のように）悪い結果しかもたらさないのかを，確認することである。」[28]

「ゲルマン化」可能かどうかは，一人ひとり検証が必要であり，民族単位で一律に決めつけることはできないのだという。しかし『わが闘争』第二巻においてヒトラーは，つぎのように述べていた。

「大ドイツ主義者の間でも，当時（＝ヒトラーの少年時代），政府の手助けによって，オーストリアに住むスラヴ民族を完全にゲルマン化できると主張する人がいた。そういう人々は，ゲルマン化が土地だけに可能であって，人間に関しては決してできないことをまったく分かっていなかったのだ。」[29]

スラヴ民族やユダヤ民族を「ゲルマン化」することはできない。唯一可能なのは，彼らを追放した後にドイツ人を植民し，ドイツ人たちがその土地で農業をすることによって，土地を「ゲルマン化」することだけである。すでに見たように，ヒトラーは，新しく獲得した領土には，若く優秀な者を植民させる計画だった。彼らが「単細胞の群れ」から引き離され，新領土に定住し，

27　ibid. p.421.
28　ibid. p.473.
29　Adolf Hitler; Mein Kampf. Bd. 2. S.18f.

子孫を残すようになれば，自ずから優秀な者だけが住む理想的な土地が出来上がるということであった。

「こうしてだんだんと，人種的にもっとも純粋で有能な者たちだけが住む辺境植民地を形作っていくことができるのである。」[30]

5

『ヒトラーのテーブルトーク』において，ヒトラーは，ドイツ周辺のゲルマン諸国から言及し始め，次第にその視線を東へと移していく。たしかに，それはドイツが支配下に置いた順序とは一致しない。たとえば，前章で挙げられた国々のうち，もっとも早くドイツに併合されたのはチェコであり（1939 年 3 月），デンマーク，ノルウェー，オランダ，ベルギーの占領と，ハンガリー，ルーマニア，ブルガリアの枢軸国入りは同時期である（1940 年 4 月～5 月）。しかし，ゲルマン諸国から始まり，東部地域の住民たちを西から順に自分たちの仲間であると認識していく過程は，ソ連領内へと深く進軍していく戦局の動きと見事に一致している。つまり，前線での勝利を重ねていくごとに，逆に，ヒトラーの理想とするところは，「一個の完全なドイツ人」から，「ゲルマン民族」，「意志と決断力」を備えた人間，「規則の習慣」を身につけた人間，そして最終的には「青年期の一時期」をドイツで過ごした人間，というように，徐々にレベルを下げていくのである。もちろん，レベルが下がるとは，適用範囲が広がることに等しい。ここにおいて我々は，「誰もヒトラーが理想とするドイツ人でない」が，「誰でも――しかも，他民族であっても――ヒトラーが理想とするドイツ人になれる」に反転するロジックに立ち会っていることになる。

とはいえ，これはヒトラーの思想の突然変異ではない。実は先に見た『わが闘争』の中にその萌芽は確実に存在していた。以下は，すでに引用した文であるが，新たにドイツ語を付した部分に注目されたい。

「健康な民族（Ein Volk, das gesund ist）はその数を増やしていく。その構成要素としての人間は，つぎの世代を生み出すことによって自己を保存するという汲みつくし得ない衝動を持っているからだ。これは，地上に生きとし生けるものすべてがもっている衝動なのだ。」

「存在は，人口と土地との正しい関係に基づいており，また，その栄養源は自らの土地にあるという認識を，ある民族（ein Volk）がもつ限り，その民族（ein Volk）は土地を拡大し，（その拡大した土地に）住まうことになろう。土地の拡大とはまさに人間がもって生まれた権利であり……」

30　ibid. Bd. 2 . S.38.

ヒトラーの優生思想を念頭に置いてこの部分を読めば，たしかにここで言われている「民族」とはドイツ民族を指すとも解釈できるが，文法的には不定冠詞 ein（＝英 *a*）が付いていることから分かる通り，ここに述べられているのは，どの民族にも当てはまる，どの民族にも可能な一般論である[31]。つまり，「健康で」「自民族の偉大さ」（前述のように，これは容易に「ドイツ民族の偉大さ」に変えることができる）を知っている民族なら，どの民族でも領土拡大に参画することができるのである[32]。冒頭に言った，後に適用される段階でいかようにも変形され得るあいまいさがここにある。

*

ヒトラーおよびピブーンの大国化主義を下支えする論理の共通点はすでに明らかである。しかし明確な相違点も存在する。残虐性である。ピブーンも，たしかに，自らの地位を確立するため，政敵に対しては厳しい態度を取った。だが，他民族に対しては，ラオス人，カンボジア人の入国手続きを免除するなど，これを寛容と呼べるかどうかは議論の余地があるとしても，ヒトラーが子孫を残すべきでないと考えた人々――ユダヤ人，共産主義者，精神病者など――へ向けたような残虐性は持ち合わせてはいなかった。この点についても，両者の言説を詳細に分析した慎重な議論がいずれ必要である。しかし，現時点で可能性のみを指摘すれば，以下のようになろう。極端な優生思想を含んだ攻撃的な大国化主義に対して，周囲が西洋列強に支配されていく中で，自国をその危機から守ろうとする防御的な大国化主義もまた同様に存在しうる，ということである。

31　この引用の前の部分で，ヒトラーは，小さな政党が乱立し，政権を取るためには連立するしかなく，さらに各政党も公約を守らない現行のヴァイマール体制に対して痛烈な批判を浴びせているが，その部分には „Deutsche“（「ドイツ人」）„Deutschland“（「ドイツ」）„dieser Staat“（「この国」）„die jetzige Zeit“（「今の時代」）等の言葉が頻繁に登場する。

32　ただし，『わが闘争』では何度もユダヤ人に対して憎悪の言葉が投げつけられており，この著作に優生思想が存在しないことを主張するものではない。

山形大学人文学部研究年報　第12号（2015. 3）53－65

Das sich unendlich vergrößernde Volkstum —Diskurse der zwei Diktatoren, Hitler und Phibun

Masanao WATANABE

Adolf Hitler（1889-1945）schrieb schon in „Mein Kampf“（Bd. 1. 1925, Bd. 2. 1927）, dass das deutsche Herrschaftsgebiet für die immer größer werdende Einwohnerzahl zu klein sei und Deutschland sein Gebiet erweitern solle, um ein neues Land mit tüchtigen jungen Leuten zu besiedeln. Dazu, behauptet Hitler, brauche man eine Erneuerung der Erziehung.

Aber da zwängt sich die Frage auf: Was er durch die neue Erziehung beabsichtigt, ist im Vergleich mit seinem großen militärischen Ehrgeiz etwas ganz Einfaches: Ein starker Wille und Entscheidungskraft. Wie lässt sich dieses Ungleichgewicht erklären?

Um darüber nachzudenken, ist der Fall des ehemaligen thailändischen Ministerpräsidenten Pleak Phibun Songkhram（1897-1964）sehr hilfreich, weil dieser auch zur selben Zeit diktatorisch regierte und auf die Erweiterung des Herrschaftsgebiets zielte. Wozu er dabei die Leute zwang, ist auch auf eine einfache Formel zu bringen: Inlandsprodukte zu konsumieren, das in Bangkok und in den benachbarten Ortschaften gesprochene „schöne Thailändisch“ zu sprechen, sowie sich immer ordentlich zu kleiden usw.

Was man im Fall Phibun betrachten kann, ist das Folgende: Sein festgesetzes Ziel ist zwar ganz einfach, aber es gab damals noch niemand, der das Ziel perfekt erfüllen konnte. Dieses „noch niemand“ sorgt aber auch für neue Möglichkeiten der Interpretation: Dass noch niemand ordentlicher Thai ist, bedeutet, dass jeder ein ordentlicher Thai sein kann: Auch benachbarte Völker wie die Lao und die Khmer haben diese Möglichkeit.

Dasselbe kann man auch für Hitler sagen: Für ihn gab es noch keine ordentlichen Deutschen. Alle damaligen Deutschen, so Hitler, hätten keinen starken Willen und keine Entscheidungskraft. Darum wollte er junge Leute auf eine neue Weise erziehen.

Jetzt sind die Gemeinsamkeiten der Argumentation und der Zielsetzung der beiden Diktatoren klar geworden: „Noch niemand ist A“ , aber „jeder kann A sein“.

山形大学人文学部研究年報　第12号（2015. 3）67－82

三重県玉城町における地域公共交通システム[1, 2]

―元気バスの調査報告―

砂　田　洋　志

1．はじめに

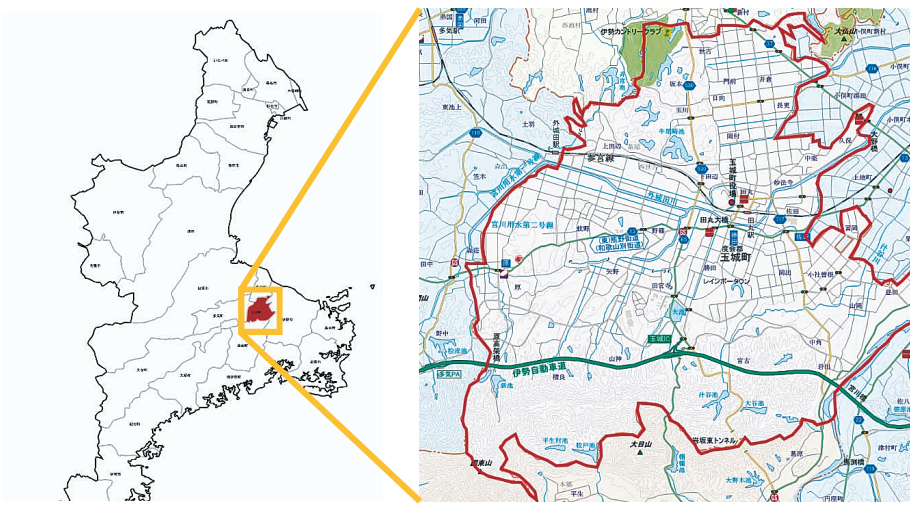
本稿は三重県玉城町の地域公共交通システムの中心であるデマンドバスを紹介し，その特徴を明らかにすることが目的である。同町で運行されている“元気バス”という名前のデマンドバスは幾つかの特徴を有している。利用者の立場から見ると，運賃が無料である点や，完全デマンド型でありながら，自宅の玄関先ではなく，町内各地に稠密に設けられたバス停で乗降車する点などである。また，運行主体の立場からすると，社会福祉協議会が運行主体である点が挙げられる。そして，予約受付運行のシステムとして有名なNTT東日本製を採用していない点である。同町では，東京大学大学院で開発されたアルゴリズムを，順風路（じゅんぷうじ）株式会社が商品化したシステムを本格的に採用している。さらに，高齢者の安心・元気な町づくりのために購入した機器をデマンドバスの運行にも活用している点も挙げられる。こうした点が他の多くの自治体のデマンドバスと比べて珍しい点であり，興味深い。そこで玉城町で運行されているデマンドバスを本稿で紹介する。

玉城町は昭和30年４月に田丸町，東外城田村，有田村（湯田・妻ヶ広を除く）が合併して誕生した町であり，三重県度会郡に属する。さらに昭和31年９月に下外城田村を編入する一方で，昭和32年４月には粟野区域を伊勢市へ境界変更した。その後，平成の大合併と呼ばれる合併ブームが生じた際には，合併協議会に参加したものの，合併に参加せず，現在に至っている。

玉城町は三重県中部にあり，東を伊勢市に，西を多気町に，北を明和町に接している。玉城町は伊勢平野の南部にあり，南部は丘陵地帯であるが，多くは平野である。この地形は完全デマンド型のデマンドバスを運行するのに適した地形である。図１に玉城町の地図を載せてある。町は農業振興地帯であるが，電機メーカーのパナソニック電工，鍵の美和ロック，そして京セラの関連会社などもある。こういった会社へ通勤する従業員のため，朝夕は道路が混雑する。

町の中心であり，JR参宮線の田丸駅のある田丸は，古来より陸上交通の要地である。大和を結ぶ初瀬街道と熊野街道がここで合流した後，伊勢に通じていた。現在も県道13号線（熊野街道）

1　三重県玉城町を2013年12月に視察した際には，玉城町社会福祉協議会の西野公啓事務局長に大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。
2　本研究は山形大学人文学部の平成25年プロジェクト研究支援（研究課題：運行システムからみたデマンドバスの調査と研究，研究代表者：砂田洋志）を受けている。



出所：三重県玉城町社会福祉協議会の視察用パワーポイント資料
図１　玉城町の地図

が町の中央部を横断し，最終的に松阪市と鳥羽市を結ぶ県道37号線と合流して伊勢市とつながっている。田丸町の南部を伊勢自動車道が横断しており，玉城 IC により町内と接続している。伊勢自動車道は松阪市，県庁所在地である津市と連絡するほか，東名阪自動車道を通じて中京地区を代表する名古屋市，新名神高速道を通じて京都市とも連絡している。

町の面積は約41㎢であり，平成25年10月末現在，人口は15,593人，世帯数は5,555世帯である。平成12年の人口が14,284人であるから，地方にありながらも人口が減少しない町である。平成22年度の高齢化率は22.7％と発表されている。全国平均が23.0なのでほぼ同じくらいと言えよう。町の広報誌によれば，平成25年度の一般会計予算は約62億円，特別会計は約31億円，企業会計は約34億円である。平成24年度の財政力指数は0.58である。

以後，第２節でデマンドバス導入前の状況，第３節で導入の経緯，そして第４節でデマンドバスの仕組みを説明する。第５節で利用状況，第６節で安心・元気な町づくり事業との連携について紹介する。最後の第７節を結びとする。

２．デマンドバス導入以前の状況

⑴　路線バスの運行状況

地元のバス会社である三重交通の運行する路線バスにより，伊勢市と玉城町内は結ばれていた。伊勢市内からは県道37号線と県道13号線を経由して玉城町内に乗り入れていたが，乗車率が低下したため，平成８年３月末日に三重交通の路線バスの一部（野中線）が廃止された。

⑵　福祉バスの運行状況

玉城町では，バス路線の一部が廃止された後，平成９年から病院や買い物へ行く高齢者のために“福祉バス”という無料の路線バスの運行を始めた。町が所有する29人乗りのマイクロバスを２台利用して，３路線（外城田方面，田丸・下外城田方面，有田方面，バス停数は53箇所）を運行させていた。運行便数は１日19便であり，平成21年度には年間約27,000人が利用していた。事前登録などは不要なものの，53箇所のバス停を順番に経由するので長時間の乗車となり，１便あたりの平均乗客数は4.5人と少なかった。そのため，“からバス”，あるいは“空気バス”と呼ばれ，住民からの評判が悪かった。しかし，この事業には１年間に約1,000万円（燃料代と人件費）が支出されていた。

平成21年11月以降，福祉バスに加えて，デマンドバス１台を運行させた。平成22年８月にデマンドバスを２台運行させるのに伴い，田丸・下外城田方面の福祉バスを廃止して，１日10便にしたところ，利用者は３割減少した。最終的に平成23年１月からは保険福祉会館と伊勢市小俣図書館を結ぶ路線のみを残して他の路線を廃止して，デマンドバスに切り替えた。

３．デマンドバス（元気バス）の導入とその効用

⑴　デマンドバスの導入の経緯

前述したとおり，路線バスの一部路線が廃止された後に導入された福祉バスは使い勝手が悪くて乗客は少なかったため，平成21年11月以降は福祉バスに加えて，元気バスという名前のデマンドバス１台を運行させることにした。ここからデマンドバスの運行が開始された。平日の午前９時から午後５時まで運行され，バス停は83箇所であった。乗車可能なのは町民のうち，65歳以上または身体障害者と定められた。しかし，平成22年４月には年齢制限を撤廃した上，バス停を115箇所に増やした。そしてインターネットや携帯電話からの予約も可能にした。平成22年８月以降，福祉バスの路線を１つ減らしたのに伴い，バス停を127箇所に増やした上で，デマンドバスを２台運行させることにした。そして一部地域で土日も運行させ始めた。同年11月以降，デマンドバスを３台体制にするとともに，全域で土日も運行させることにした。平成23年１月以降，福祉バスは一部路線を残して，デマンドバスへ移行した。町内の公共交通は福祉バスからスタートして，使い勝手を良くするように改良されてきた。その最終形が，元気バスという名のデマンドバスを中心とした地域公共交通システムである。

玉城町は福祉バスの乗車率が低いことを問題視していたが，その解決のためにデマンドバスを導入することに当初は消極的であった。というのもデマンドバスは運行管理が難しいと考えたからである。オペレータによって運行経路が作成される場合，オペレータに土地勘や高度な経路生成能力が要求される。これらが満たされないと時間遅れのトラブルが発生することや，オペレータによる運行管理の上手さに差のあることが分かっていたからである。こうした時期に東京大学大学院で予約受付運行システムが研究されていること，さらに滋賀県守山市で既に実証実験をし

ていたことを知り，福祉バスからデマンド型交通への移行調査分析に協力してもらうことになった。この予約受付運行システムではコンピュータを用いて運行経路を考案するため，人間と違って常に同じ水準の運行経路を提案してくれる。ただし，定時性を優先するため，利用者を自宅まで迎えに行かずに，自宅や目的地の近くのバス停で乗り降りさせなくてはならない。このシステムを採用した玉城町のデマンドバスは，タクシーと差別化されているので，地元のタクシー会社である田丸タクシーと住み分けることができているようである。

⑵　デマンドバスが生み出した交通サービス

玉城町と伊勢市の間を結ぶ路線バスの減便を契機に，町内の移動手段として平成９年から福祉バスを導入した。さらに，交通サービスの一層の向上を目指して，平成21年11月から福祉バスに加えてデマンドバスを導入し，さらに平成23年１月からデマンドバスに一本化した。

減便された路線バスが提供してきたのは，町内から伊勢市までの交通サービスであり，デマンドバスによって代替できるのは町内を運行する部分だけである。しかし，減便直後に導入された福祉バスと比較すれば，デマンドバスによって新たに大きな交通サービスが提供されるようになった。つまり，利用者の希望する時間に町の全域を移動できる交通サービスが全町民に無料で提供されるようになった。しかし，デマンドバスを運行するには，福祉バスに支出されてきた1,000万円よりも高額な運行費用（約2,000万円）が支出されている。なお，運行費用については後で評価する。

４．デマンドバスの仕組み

４．１　運行形態

⑴　運行範囲と運行時間

玉城町の全域を運行範囲とするが，前述したとおり稠密に設けられたバス停（現在は157箇所）で乗り降りする。福祉バスのバス停が53箇所であったのに対して，デマンドバスのバス停は３倍近くに増加している上，町内に68区ある全ての自治区を網羅している。多くのデマンドバスのように，自宅の玄関口まで来るのでは，時間が不正確となる場合が起こりうるので，自宅ではなくてバス停での乗り降りにしている。福祉バスは全ての停留所を経由して目的地に向かうが，デマンドバスは利用者のいる停留所しか経由しないので，乗車時間が短くて済むのである。

運行日は年始年末を除く毎日である。運行時間は午前９時から午後５時までである。

⑵　運転手と車両

現在，ワゴン車３台をリース契約で調達してデマンドバスを運行している。デマンドバスを撮影した写真が図２である。車両を購入する自治体も多いが，玉城町の場合は利用した補助金の性格上，物品の購入が認められなかったためリース契約で車両を調達している。車載器は賃借であ

図２　元気バスに使用されるワゴン車

る。水曜日は２台体制，月・火・木・金は３台体制，土日は１台体制で運行している。玉城町ではこのほかに研修バスとスマイルバスが運行されている。スマイルバスとは，高齢者向けのバスである。研修バスとは，社会福祉協議会の事業及び行政からの依頼に対して運行するバスである。デマンドバスで利用する車両はマイクロバスでなく，ワゴン車であるため，道幅の狭い道路も円滑に運行可能である。また環境に対する負荷もマイクロバスと比べて小さい。

７人の運転手を社会福祉協議会の臨時雇い職員として雇用している。７人の中の３人がデマンドバスの運転を担当している。地元のバス会社の定年退職者を中心に採用している。

⑶　事業主体

全国的には，自治体，商工会，社会福祉協議会の何れかがデマンドバスの事業主体となっている場合が多い。安曇野市では社会福祉の一つとしてデマンドバスを捉えているため，社会福祉協議会が事業主体となっている。また，デマンドバスで有名な旧小高町では，デマンドバスを導入する目的の一つに中心市街地の活性化も掲げていたこともあり，商工会が事業主体となっていた。玉城町では高齢者の移動支援を福祉政策の一つと考えて，町（担当は生活福祉課）が事業主体，そして社会福祉協議会が運行主体となってデマンドバスを運行している。予約受付センターは社会福祉協議会が入居している玉城町保健福祉会館内にある。

運行経費の財源として，民主党政権時代の平成21年から同23年度の間は「三重県ふるさと雇用再生特別基金事業市町等補助金」を利用していた。この補助金は緊急雇用対策を目的とする補助金のため，基本的に備品の購入が認められていなかった。そのため，車両をリースで調達している。ちなみに補助金が終了した平成24年度以降，運行経費は町の一般財源から支出されている。

図３　健康福祉会館内部にある予約受付センター

４．２　利用方法

デマンドバスは事前に会員登録した者が利用できる。登録は無料で，会員登録票に氏名，住所，電話番号，暗証番号といった必要事項を記入して，予約受付センターへ提出するだけである。予約受付センターの内部の様子を写した写真が図３である。利用料金であるが，福祉バスと同様に無料である。多くのデマンドバスの利用料金は300円前後の有料であることを考えると，これは珍しい。

デマンドバスを利用する場合，利用者は利用する日時の２週間前から30分前までの間に，以下に示す４通りの方法の何れかで予約する。第１の方法は予約センターへ電話を掛け，オペレータと話しながら予約する（土日祝日を除く）方法である。PC が不慣れな利用者の代わりにオペレータが情報を予約受付運行システムに入力する。第２の方法はインターネットを利用して予約する方法である。第３の方法は独自アプリを使ってスマートフォンから予約する方法である。予約画面を図４に示してある。第４の方法は，町内43箇所に設置されているタッチパネル型簡易予約端末から予約する方法である。デマンドバスの専用カードをセンサー上において個人認証をした後，タッチパネルを押して予約する。予約が完了すると予約情報が記載された紙が印刷されるので乗車時まで所有する。この端末を図５に示してある。何れかの方法で予約すると，予約受付状況が予約受付センターにある予約受付画面上に出力される（図６参照）。そして利用者の乗車場所と降車場所，乗車時間といった予約情報，そして最適な運行経路がデマンドバスに車載されたタブレットやナビゲーションシステムを通じて運転手へ伝達される。

ドライバーは表示された最適な運行経路に従って運行する。しかし経験が十分にある運転手に

図４　スマートフォンの予約画面

図５　ＡＴＭのように扱える予約用の端末機器

図６　予約受付センターの予約受付画面

図７　車載されているタブレットの画面

なると，表示された順序や経路を参考した上で自分が最適と考えた順序で運行することもあるようである。コンピュータでは交通渋滞や道路工事，乗降ドアが車体の左側にあることなどまでは考慮できないからである。乗車，あるいは降車させた後に，車載されたタブレットのディスプレイをタッチして，乗車や降車させたことを入力する。その情報はタブレットのディスプレイに表示されるとともに，予約受付センターに送信される。タブレットの画面を写した写真が図７，車内のナビゲーションシステムの写真が図８である。

図８　車載されているナビゲーションシステムの画面

４．３　デマンドバスの運行経費

デマンドバスの運行に必要な経費の概略を表１に示しておいた。玉城町では車両を１台当り年間60万円のリース契約で調達し，ドライバーは社会福祉協議会の臨時雇い職員として雇用している。また予約受付運行システムのハードとソフトの両方を賃借している。当初，財源としていた補助金では物品の購入を認めなかったためである。

人件費であるが，１台のデマンドバスからスタートしたので，当初は低額であったが，近年は1,000万円強に落ち着いている。燃料費は路線拡大に伴い，増加したものの，近年は200万円強に落ち着いている。車載器やサーバー等の賃借料として年間，380万円前後が支払われている。この３年間の最終的な支出総額は毎年2,000万円前後で推移している。

４．４　予約受付運行システムなどについて

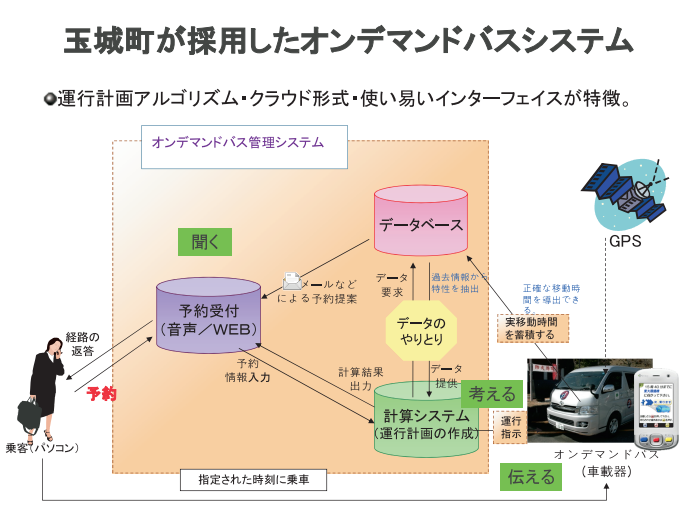
予約・受付の仕組みを紹介したのが図９である。サーバーをクラウド方式にしてある。利用者がオペレーターを通じて，あるいは端末から自分で希望する利用条件を計算システムに入力すると，過去の履歴を保存したデータベースへアクセスして，最適な運行経路や乗降者の時刻が出力される。その情報が予約受付センターのオペレータあるいは，利用者の端末へ伝達される。利用者が提示された利用条件を了承し，予約が完了すると予約情報はデマンドバス内の車載器へ無線で送信されて運転手へ伝達される。

玉城町では，東京大学大学院で開発されたアルゴリズムを，順風路㈱が商品化した予約受付運行システムの“コンビニクル”を採用した。福祉バスからデマンドバスへの移行するにあたり，

表１　デマンドバスの運行経費

年　度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度(予算)
人　員	運転手１名，オペレータ１名	運転手１名→２名→３名，オペレータ３名	運転手３名，オペレータ３名	運転手３名，オペレータ1.5名	運転手３名，オペレータ1.5名
人　件　費	2,099,697	6,511,006	12,676,711	10,220,293	11,502,039
燃　料　費	119,013	869,000	2,004,962	2,189,538	2,298,164
業務委託料	596,800	1,927,000	2,405,885	1,480,292	1,618,512
損害保険料	24,149	302,970	285,950	564,140	797,050
賃　借　料	550,980	2,374,995	3,916,080	3,701,880	3,804,031
上記の項目以外	388,216	713,200	2,085,345	1,375,666	1,110,495
合　計	3,778,855	12,698,171	23,374,933	19,531,809	21,130,291

注：上記以外の項目とは，福祉厚生費，消耗品費，印刷製本費，通品運搬費，租税公課費などである。
出所：玉城町社会福祉協議会の提供資料を変更



出所：玉城町社会福祉協議会の視察用パワーポイント資料
図９　予約・受付の仕組み

東京大学大学院に調査を依頼していたことに加え，“コンビニクル”という予約受付運行システムではデマンド型交通を一つのシステムとして捉えてモデル化した上で予約などのアルゴリズムが考案されていること，この２つが，“コンビニクル”を採用した理由のようである。

“コンビニクル”のアルゴリズムは，予定到着時間に遅れないように設計されている点が特徴である。

このシステムでは，サーバーをクラウド形式にしているため，買い取りではなくサーバー運営費を徴収する形式にしている。また，車載器なども貸し出されている。そのため，サーバーや車載器といったハードウェアを購入することもないので，備品を従来のように自前で揃える必要が無い。システム（ハード・ソフト）を買い取る必要が無いという料金システム（サービス購入型

と呼ばれている）は，玉城町が財源とした補助金の制約条件と適合している。

デマンドバスの運行を円滑に進める上で必要なタッチパネルやスマートフォンは，平成22年度に総務省により採択された「情報通信技術地域人材育成・活用事業交付金事業，通称：ICT ふるさと元気事業」の補助金を用いて購入された。玉城町は，同補助金を利用して，ICT を利活用した安心・元気な町づくり事業を行っており，その事業として，外出支援サービス，安全見守りサービスと安全情報配信サービスがある。タッチパネルは外出支援サービスと安全情報配信サービス，スマートフォンは安全見守りサービスと安全情報配信サービスを実施するための備品として購入された。

5．デマンドバスの利用状況

5．1　デマンドバスの利用者の推移

デマンドバスの年間利用者数と１日の平均利用者数の推移を年度別にまとめたのが表２である。平成21年度の利用者数は，運行期間が11月４日からの５ヶ月間であるとともに，福祉バスも運行していることもあり，大変少なかった。その後，福祉バスの路線が廃止される一方で，デマンドバスを利用しやすくしたため，平成22年度は利用者が大きく増加した。町内だけを運行する福祉バスが廃止され，３台体制となった平成23年度は，前年度までと比べて大幅に利用者が増加し，導入後の最大値となっている。平成24年度と同25年度は若干減少したものの，２万６千人強で安定している。図10に月別の利用者数の推移を示してある。運行開始から利用者数は増加し，平成23年３月に月間利用者が2,000人を超え，2,220人となった。この後，月間利用者数は約２,000人から2,500人の間で推移している。

表２から，月～金曜日における１日の平均利用者数（祝祭日を除くとともに，年始年末の運休期間も除く）は，デマンドバスの導入後間もない平成22年度に48.21人であったが，平成23年度以降は90人を越えており，平成22年度の２倍弱の利用者数となっている。デマンドバスの認知度が上がるとともに，バス停やバスの台数を増やしたりするといった利用振興策を講じた効果が現

表２：年間利用者数（人）

年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
利用者数	1,447	12,644	27,236	26,291	26,296
１日の平均利用者数（全曜日）注１,注２	14.19	57.73	76.08	73.23	73.87
１日の平均利用者数（月～金）注３	14.92	48.21	94.83	90.69	93.36
稼働日数	102	317	360	358	356

注１：１日の平均利用者数（全曜日）は、祝祭日を含めるが、年始年末の運休期間を除いて計算。
注２：平成22年度の１日の平均利用者数（全曜日）は11月末以降のデータで計算してある。
注３：１日の平均利用者数（月～金）の計算では、祝祭日と年始年末の運休期間を除く。
出所：玉城町社会福祉協議会の提供資料をもとに作成

れてきたと考えられる。

全曜日における１日の平均利用者（祝祭日を含めるが，年始年末の運休期間を除く）は平成23年度以降で70人以上である。なお，平成22年度の値は，11月末から町内の全域で土日の運行が開始されたので，11月末以降のデータで計算してある。つまり，デマンドバスの認知度が低い，平成22年11月末までのデータを利用していない。一方，月～金曜日における１日の平均利用者数は平成22年度の全てのデータを用いて計算されている。だから，平成23年度以降と異なり，月～金曜日の平均利用者数の方が少ないのであろう。

出所：玉城町社会福祉協議会の提供資料をもとに作成
図10　元気バスの月別の利用者の推移（人）

曜日別の平均利用者数を計算した結果が表３である。平日では，火曜日と金曜日の利用者が多く，水曜日が少ない。そして，週末と休日の利用者が少ない。デマンドバスは，生活交通として利用されるほか，高齢者が保険福祉会館で開催される通所型の介護予防教室へ出掛ける手段としても利用されている。この教室は火曜日と金曜日に開催されるので，火曜日と金曜日は利用者が多くなると考えられる。一方，地元の温泉施設（アスピア玉城）や診療所は水曜日を休みにするところが多い。このため，水曜日の利用者が少ないと考えられる。そこで，デマンドバスも２台体制にしている。週末や休日であるが，家族と同居する高齢者は休日や週末は家族と一緒に買い物を済ませるため，利用者数が減少すると予想される。

５．２　デマンドバスの利用目的

平成23年度から同25年度の乗降者数の合計人数が多いバス停について調べたのが表４である。平成25年度の順位を左端に示してある。上位５つのバス停は，平成23年度から同25年度までの間，平成23年度の第４位と第５位が平成24年度と同25年度で入れ替わっただけで，大きな変化はない。

第１位の玉城町保険福祉会館は社会福祉協議会が入居する建物であるほか，デマンドバスの予

表３　曜日別平均利用者数（人）

年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
月曜日	36.82	79.98	79.89	82.35
火曜日	63.86	118.55	109.76	112.90
水曜日	35.04	63.06	66.50	63.10
木曜日	41.65	87.67	85.60	89.45
金曜日	62.14	124.29	110.02	118.63
土曜日	27.88	42.28	43.10	38.08
日曜日	19.94	30.49	29.56	24.94
休日	5.36	37.36	33.29	31.13

注：平成22年度は同年11月末から町内全域で土日に運行するようになったので、土曜日と日曜日の平均利用者数は11月末以降の値である。
出所：玉城町社会福祉協議会の提供資料をもとに作成

表４　バス停（乗降場所）の利用人数（上位５地点）

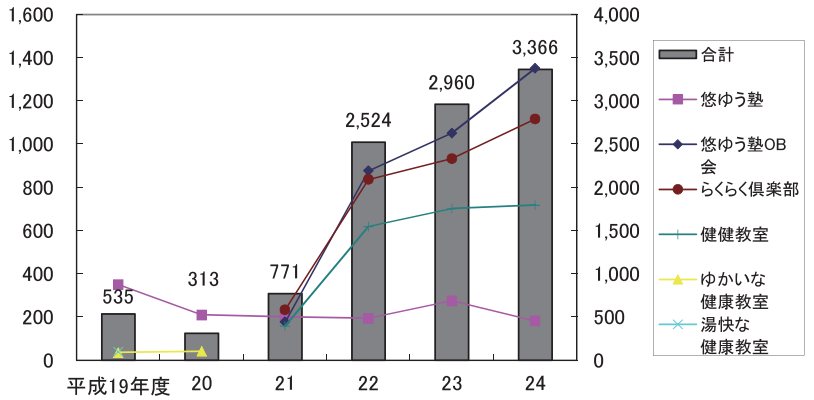
順位（平成25年度）	乗降場所	平成23年度	平成24年度	平成25年度
1	保健福祉会館	12,709	10,477	9,872
2	アスピア玉城	7,495	6,608	5,982
3	玉城病院	3,241	3,023	2,834
4	グッディ玉城店	1,402	1,518	1,548
5	元町　JR 玉城駅	1,444	1,134	1,239

出所：玉城町社会福祉協議会の提供資料をもとに作成

約受付センターが設置されているためデマンドバスの拠点にもなっている。前述したとおり，高齢者が保険福祉会館で開催される通所型の介護予防教室へ出掛ける手段としてもデマンドバスを利用するので，乗降者数が多いのであろう。第２位の「アスピア玉城」には温泉保養施設（玉城弘法温泉）に加えて，公園や農産品売り場などがあり，高齢者から広く利用されている。第３位は玉城病院（50床）である。町の介護老人保健施設「ケアハイツ玉城」が併設されている。第４位は食品スーパーのグッディ玉城店である。隣接する保健福祉会館で介護予防事業に参加した後に，買い物を済ませて帰宅する高齢者が多いことも乗降数が多い理由の一つであると考えられる。第５位はJR 玉城駅であり，松阪市や隣接する伊勢市へ出掛けるために利用していると考えられる。以上から，デマンドバスは買い物や通院，保健事業への参加等に利用されていることがわかる。

玉城町保険福祉会館では通所型の介護予防事業を行っており，その参加者数の推移を示したのが，図11である。なお，右側の縦軸の目盛は参加者数全体のための目盛である。一方，左側の縦軸の目盛は個々の事業の参加者数のための目盛である。元気バスが運行開始された平成21年度と比べて同24年度の参加者数の合計が４倍以上に急増していることが分かる。

平成26年11月23日付の日本経済新聞では，無料で乗車できるデマンドバスが運行されたことによって，このバスを利用して介護予防事業へ参加する高齢者の増えたことが医療費の増大を抑えていると報道されている。記事によれば，三重県内の医療費が１％程度増加しているのに対して，玉城町はほぼ横這いということである。また，玉城町が運行費用を全て負担しても，医療費が節



出所：玉城町社会福祉協議会の提供資料を一部変更
図11　通所型介護予防事業への参加者数の推移

約できればかえって安上がりという談話が掲載されていた。社会福祉協議会が元気バスの事業主体となることによって，元気バスを通院や買い物だけでなく，社会福祉協議会で開催される介護予防事業へ参加する手段として活用したことが上手く作用した結果と考えられる。

5．3　デマンドバスの登録者数

表5に示した通り，登録者数は平成25年3月現在で1,155人である。登録者数は増加し続けている。死亡者や町外への転出者も登録者には含まれているものの，登録率は約7％である。これは長野県飯綱町（約60%），東御市（約16％）や安曇野市（約26%）と比べてかなり低い。表6に示した通り，登録者は70歳以上の町民が多く，全体の70％を超えている。

表5　登録者数の推移（人）

年度	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末
登録者数	439	865	1,053	1,155

出所：玉城町社会福祉協議会の提供資料

表6　年齢別登録率（%）

年代	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
登録率	5.6	0.8	2.8	4.0	3.9	11.0	35.7	36.4

注：平成24年3月末
出所：玉城町社会福祉協議会の提供資料

地区別にみると，表7に示した通り，登録者の町内の地域別の内訳は13%から41%の間である。最高値は町中心部の田丸地区の41.2%であり，最低値は下外城田地区の13.3%である。田丸地区と外城田地区で全体の約7割となる。平成24年3月末における調査では，男女比は男性が28.0%，女性が72.0% となっている。

表７　登録者の地域別の内訳（%）

地区	田丸地区	外城田地区	有田地区	下外城田地区	町外
登録率	41.2	26.8	14.0	13.3	4.9

注：平成24年３月末
出所：玉城町社会福祉協議会の提供資料

５．４　デマンドバスへの評価

デマンドバスに対する評価について調べた結果が表８に示してある。玉城町の場合，自宅で乗降できないが，この点に関する不満はないようである。自宅で乗降できるデマンドバスを経験していないために一般の路線バスとの比較となる上，バス停を157箇所も設けているので自宅や目的地の近くで乗り降りできるから，利用者は不便を感じていないようである。また，自分で決めた時間に利用できることへの評価も高い。

その一方，簡易な予約方法の導入を含め，多様な予約方法を備えているにもかかわらず，毎回予約することに不便を感じているようである。

表８　便利な点と不便な点

便利な点	割合（%）	不便な点	割合（%）
自宅近くで乗れる	48.2	毎回予約	43.2
自由な時間に乗れる	25.0	特になし	15.9
目的地に近い	21.4	バス停が少ない	11.4
環境	3.6	目的地が限定	9.1
特になし	1.8	バス停が分かりにくい	9.1
――――――	――	予約が埋まっている	6.8
――――――	――	時間が不定期	4.5

出所：玉城町社会福祉協議会の提供資料

図12　スマートフォンの画面

６．安心・元気な町づくり事業との連携

玉城町では，総務省に採択された「ICT ふるさと元気事業」の補助金を用いて，平成22年度に ICT を利活用した安心・元気な町づくり事業を行っている。この事業は以下の３つに分けることができる。

⑴　外出支援サービス

⑵　安全見守りサービス

⑶　安全情報配信サービス

⑴の外出支援サービスとは，スマートフォンの配布やタッチパネル型簡易予約端末（図５参照）を多数設置することを通じて，デマンドバスに乗車して高齢者が外出しやすくするためのサービスである。図12に元気バスの予約にも利用可能なスマートフォンの画面の写真を載せてある。次に，⑵の安全見守りサービスとは，緊急時に誰かが駆けつけてくれるサービスと，安否確認のサービスである。前者は，スマートフォンのボタンを押すことで，事前に指定しておいた者へ緊急時ボタンが押されたことを連絡するとともに，デマンドバスのオペレータから利用者へ安否確認の電話が掛けられ，タッチパネルが設置されている店舗から誰かが駆けつけるというサービスである。後者は，事前に指定した規則に従い，利用者の安否確認をするサービスである。最後に，⑶の安全情報配信サービスとは，防災情報や防犯情報をスマートフォンやタッチパネルへ配信するサービスである。こうした事業のために購入した機器をデマンドバスの運行にも活用している。

７．結　　び

三重県玉城町では，路線バスの一部廃止を契機に福祉バスの運行を開始した。その福祉バスの利便性を高める中でデマンドバスが導入された。玉城町のデマンドバスの特徴は，（１）自宅への送迎でなく，あくまでもバス停での乗降すること，（２）利用料金が無料であること，（３）社会福祉協議会が運行主体であること，（４）NTT 東日本製の予約受付運行システムを利用していないこと，（５）高齢者の安心・元気な町づくりの機器を活用していること，である。

平成23年１月に福祉バスからデマンドバスへ完全に切り替えられた後，デマンドバスは順調に運行されている。平成24年度は，1,953万円の経費で年始年末以外，毎日運行されている。運行経費であるが，燃料費として約220万円，人件費として約1,022万円，ハードウェア等の賃貸料として約370万円等が支払われる。年間2,000～2,350万円の経費で完全デマンド型のデマンドバスが運行されることは，今後，デマンドバスの導入を構想する自治体にとって良い参考例となるであろう。

玉城町では，社会福祉協議会が運行主体であることを生かし，元気バスを通院や買い物だけでなく，社会福祉協議会が開催する介護予防事業へ参加する手段としても活用した。このことによって後期高齢者の医療費の増加を抑制できるならば，利用料金を無料にしても導入した価値は十分

にあったと考えられる。

デマンドバスの運行方法は幾つかある。導入を検討している自治体は，自らの置かれた状況にもっとも適切な方法で導入することが望まれる。この点で玉城町のデマンドバスはとても参考になると考えられる。

参考文献

［1］奥山修司，『おばあちゃんにやさしいデマンド交通システム』，NTT 出版，2007年.

［2］貝山道博他，科学研究費補助金研究成果報告書『高齢地域における地域公共交通システムのあり方―デマンド交通システムを中心として―』，2012年.

［3］鈴木文彦，「地方におけるオンデマンド交通の可能性と課題」，オペレーションズ・リサーチ，pp.124-129，2012年.

［4］鈴木文彦，『デマンド交通とタクシー活用－その計画策定と運行と評価』，地域科学研究会，2013年.

［5］竹内龍介，「デマンド型交通（DRT）」，『生活支援の地域公共交通』の第6章に所収，学芸出版社，2009年.

［6］㈶地方自治研究機構，『高齢者の移動及び買い物等に対する自治体の支援に関する調査研究』，㈶地方自治研究機構，2013年.

山形大学人文学部研究年報　第12号（2015. 3）83－147

平成25年度研究・教育活動報告

【人間文化学科】

アーウィン　マーク

⑴　研究成果

論文：

2013/11:「紅花と河北町方言」,「アジアの人びとの自然観をたどる」，木部暢子・小松和彦・佐藤洋一郎（編），東京：勉誠出版，pp. 185–192

発表：

2013/08:「A Rendaku Database for Old Japanese」，21st International Conference on Historical Linguistics, オスロ大学

2013/09:「No English Spoken Here: The Prohibition on English in Japan 1940–45」，1 st European Association of Japanese Studies Japan Conference, 京都大学

2014/02:「Rendaku Across Duplicate Moras」，第９回音韻論フェスタ，熱海市

⑵　教育，地域連携等の活動

2013年度担当授業・ゼミ：

言語学演習，基礎講義（言語），英語コミュニケーション（上級），英語コミュニケーション（中級），コミュニケーションスキルⅠ（英語）

出張講義：

大学等進学説明会，新庄市南高校

⑶　研究・教育活動に関するコメント

相沢　直樹

⑴　研究成果

• エッセイ等

「うつりゆく「いのち短し，恋せよ，少女」―『ゴンドラの唄』の可能性の考察 ―」＜『TASC MONTHLY』No.453,2013月９月

「命の短さ，人生の長さ」＜『日本近代文学館年誌　資料探索』（第９号），2014年３月

⑵　教育，地域連携等の活動

• 担当授業科目

基盤教育：ロシア語Ⅰ，ロシア語Ⅱ

専門教育：欧米文化概論，文化交流史，ロシア文化講読，ロシア語学演習

• 講演
「『ゴンドラの唄』の誕生 ― 劇中歌でたどる『その前夜』劇」2013年10月，牛込箪笥区民ホール（東京都新宿区）

淺野　明

⑴　研究成果・研究活動
- 著作:監修　ロバート・B・ブルース他著／野下祥子訳『戦闘技術の歴史 ナポレオンの時代編』（創元社，４月）
- 共著:高橋和他編『映像の中の冷戦後世界』（山形大学出版会，10月）。執筆部分:第２章「過去への回帰―歴史に問いかけるということ―」

学会報告等
- 「歴史と文学の会」（早稲田大学）例会において，ロシアの農村派の文学とその歴史的背景について，研究報告をおこなった。(12月21日，於：早稲田大学理工学術院51号館，社会文化領域 メディア・ルーム）
- 昨年度に引き続き,「パーリツィン研究会」の例会に参加した。(毎月１回，於:電気通信大学）

⑵　教育，地域連携等の活動
- 担当授業:西洋中世史入門（歴史学），西洋史概論（一），西洋史講義（一），西洋史演習（一），西洋史講読（一），社会の教材分析Ａ

⑶　研究・教育活動に関するコメント

歴史学のみならず，文学や映像関係の諸研究にも接することができ，実りの多い１年であった。

阿部　晃士

⑴　研究成果

（論文）
- 茅野恒秀・阿部晃士，2013年７月，「大船渡市における復興計画の策定過程と住民参加」，『社会学年報』，42, 31-42頁．

⑵　教育，地域連携等の活動

（担当授業）
- 現代社会学演習，社会学概論，調査方法論，卒業論文（３名），意識調査から見る現代社会（基盤，社会学）（以上，山形大学）
- 専門演習，地域調査実習Ⅰ，環境保健学，卒業論文（３名）（以上，岩手県立大学）

（地域連携）
- 岩手県紫波町環境マイスター養成講座講師（2013年９月）

⑶　研究・教育活動に関するコメント

平成25年４月に人文学部に着任し，山形大学での教育・研究に着手した。前任校での教育活動にも時間を割かざるを得ず，研究面では限られた時間のなかで調査を実施しデータを蓄積する１年となった。

新宮　学

⑴　研究成果等

編著：『近世東アジア比較都城史の諸相』全316頁（索引８頁）白帝社　2014年２月

論文：「近世東アジア比較都城史研究序説」３～14頁　同上所収

論文：「北京外城の出現――明嘉靖「重城」建設始末」159～193頁　同上所収

論文：「終戦直後，西川町間沢に滞在した橋田壽賀子のこと」『西村山地域史の研究』31号　77～93頁　2013年９月

雑纂：「漕運」岡本隆司編『中国経済史』41-42頁　名古屋大学出版会　2013年11月

事典：尾崎雄二郎等編『中国文化史大事典』「景山」「香山」「中南海」「北海」の４項目　大修館書店　2013年５月

事典：『岩波世界人名事典』「洪武帝」ほか38項目　岩波書店　2013年10月

海外調査：河南省洛陽・安陽等都城調査　2013年８月10日～８月20日

⑵　教育，地域貢献等の活動

• 当該年度における授業等（担当授業名）

〔学部〕東洋史概論（一），東洋史講義（一），東洋史演習（一），東洋史講読（一），文化環境学（一），中国の歴史（歴史学），マルコ・ポーロ『東方見聞録』を読む（教養セミナー），現代社会の諸問題と共生の実現（共生を考える）１コマ担当，東洋史概論（一）（地域教育文化学部兼担），卒業論文指導

〔大学院〕東アジア近世史特論Ⅱ　東アジア近世史特別演習　特別研究Ⅰ

• 地域貢献・学会活動

模擬講義：「『東洋』とアジア―近代的世界像の形成」2013年９月２日　宮城県多賀城高校

高校訪問：９月　会津若松市内の高校３校を訪問

教職免許状講習（高校地歴・中学社会）「東アジアからみた世界史」８月６日

⑶　研究・教育活動に関するコメント

研究活動では，学術振興会の研究成果公開促進費（学術図書）の交付を受けて上記の編著を刊行した。また前年度に引き続き基盤研究（A）「比較史的観点からみた日本と東アジア諸国における都城制と都城に関する総括的研究」（研究代表者　橋本義則）の研究分担者として，共同研究を行った。

小白川図書館長として，図書館の facebook 立ち上げやビブリオバトルの開催など，図書館の教育機能の充実に務めた。

池田　光則

⑵　教育，地域貢献等の活動

（a）担当授業

- 学部専門教育科目：言語学概論（一），言語学概論（二），言語学演習，ラテン語初級
- 基盤教育科目：言語学概論（言語学），言語学とその周辺領域（言語学），英語
- 大学院：言語学特論，言語学特別演習

（b）卒業論文指導テーマ

- 広告に関する語用論的研究―広告表現からの推論について―
- 国語教育の教材における文章構造について―説明文を題材として―
- 女性語・男性語のコミュニケーション機能―主にポライトネスの視点から―（c）出張講義
- 「ことばの仕組みを考える―英語と日本語は似ているか？」（新潟県立三条高等学校。2013年12月６日）

伊藤　晶文

⑴　研究成果

［学術論文等］

伊藤晶文･小岩直人(2014)：青森県五月女萢遺跡から得られた完新世の地形環境変遷に関する資料. 山形大学歴史・地理・人類学論集，15,1-10.

小岩直人・葛西未央・伊藤晶文（2014）：青森県十三湖における完新世の湖水成層化と地形環境. 第四紀研究，53,21-34.

［学会発表］

伊藤晶文・小岩直人・榊原滋高（2013）：青森県五月女萢遺跡周辺における完新世の地形環境変遷. 2013年５月．2013年度東北地理学会春季学術大会.

松本秀明・佐々木弘太・伊藤晶文・熊谷真樹・遠藤大希（2013）：仙台平野北部七北田川下流域の潟湖埋積過程と土砂流入時期．2013年９月．2013年日本地理学会秋季学術大会.

小岩直人・葛西未央・伊藤晶文・松本秀明（2013）：津波によって侵食された海浜地形の修復過程―2011年東北地方太平洋沖地震津波による宮城県中部沿岸での事例―．2013年９月．2013年日本地理学会秋季学術大会.

松本秀明・小林文恵・伊藤晶文・遠藤大希（2014）：東松島市宮戸島の谷底堆積物から検出された過去4000年間の津波堆積物．2014年３月．2014年日本地理学会春季学術大会.

小岩直人・大高明史・葛西未央・伊藤晶文（2014）：微地形分布から考察する砂嘴の形成プロセス―タイ王国パカラン岬における2004 年インド洋大津波後の事例―．2014年３月．2014年日本地理学会春季学術大会.

⑵　教育，地域連携等の活動

［担当授業］

（前期）環境地理学概論，環境地理学演習，環境地理学調査実習，地図を読む（教養セミナー）

（後期）地図情報論，地圏環境論演習，都市地理学調査実習，社会の教材分析 A，自然地理学（地

理学）
［地域連携］
国土交通省国土地理院 治水地形判定委員会委員（東北地区）
山形仙台圏交流研究会への参加
2013-2014 国際ロータリー第2800地区 地区大会公開シンポジウム 講師

⑶　研究・教育活動に関するコメント
研究人生で初の海外調査（ペルー：ナスカ周辺，タイ：パカラン岬周辺）を実施した。海外調査による長期不在の際は，校務を代理で担当していただく等，多くの先生方のご厚意に甘えることになった。しっかりと成果を挙げるとともに，教育にも還元していきたい。

小熊　正久
⑴　研究成果
• 論文
「中立性変様とその諸形態」（社会文化システム研究科紀要．H25.10）

⑵　教育，地域連携等の活動
• 担当授業科目：「ギリシア思想にみる自然観と人間観」（基幹科目），「人間と世界」（基盤教育），「西洋哲学史」，「哲学講義（二）：言語と意味について（フッサールとフレーゲ）」，「西洋哲学講読」（前・後），「哲学演習」（後），「ギリシア語」（前・後）。
• 指導卒業論文テーマ：「フッサールにおける自己と他者～他者の類比的な統握の方法に対する考察～」，「『哲学と自然の鏡』におけるローティの視覚的メタファー批判」
• 宮城県角田高校において出張講義を行う（H.25.10）

⑶　研究・教育活動に関するコメント
• 科研研究「表象媒体の哲学的研究―画像の像性と媒体性の研究を中心に―」の研究会を２回行った。充実した討論がなされた。

菊地　仁
⑴　研究成果
〔論文〕
• 「見返る西行―伝承・絵画から和歌へ―」
（『西行学』，pp.32-45，2013年８月）
• 「東北地方の“髪長姫”と“玉取姫”」
（『國學院雑誌』，pp.124-137，2013年11月）

⑵　教育，地域連携等の活動
〔2013年度の担当授業〕

• 前期
人間を考える／日本文学概論　日本文学講読　人間文化入門総合講義（オムニバス）／日本古代中世文化特論
• 後期
山形に学ぶ　遠い方言，近い方言（オムニバス）／日本古典文学講義　日本文化講読　国語の教材分析Ａ（オムニバス）／〔地域連携等〕
• 放送大学公開講演会，2013年８月11日
「日本昔話の国際性―こぶとり爺とさるかに合戦―」
• ゆうキャンパス・大学コンソーシアムやまがた，2013年11月21日
やまがた夜話「鯰絵―表象としての大震災」

許　時嘉

⑴　研究成果

【論文】

□「明治日本的漢詩文意識與殖民地統治:一個社會思想面的考察」,『漢学研究』31期３号（台北:国家図書館），pp.262-291,2013年９月。

□「殖民政權對臺灣民間自主性的放任與收編:以日治初期斷髮運動為例」,『新史学』24-３（台北:新史学），pp.53-94,2013年09月。

□「1900年植民地台湾の「揚文会」に潜む二つの虚文観――後藤新平と呉徳功をめぐって」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』10，pp １-12,2013年10月。

□「[資料紹介]籾山衣洲日記初探:日治初期在台日人社會與日台交流(1898-1904)」,『台湾史研究』20期４号，pp.179-204,2013年12月。

【招待講演】

□「植民地台湾の断髪運動とその限界：公文書・新聞記事・日記史料を手がかりとして」，南山大学アジア・太平洋研究センター主催講演会，2013年11月18日

【総論（依頼原稿）】

□「日本対台湾文学研究之概述」『2012台湾文学年鑑』，国立台湾文学館，2013年11月，pp.150-156。

⑵　教育・地域連携等の活動

□基盤教育：初修中国語Ⅰ，初修中国語Ⅱ
専門教育:比較文化概論（共同担当），アジア文化演習，グローバル文化学基礎講義（共同担当）

□「2013年度異文化間コミュニケーションⅠ」台湾引率分担（2013年８月31日～９月14日）

□山形市立商業高等学校にて出張講義（2013年10月24日，25日）

□人文学部国際学術講演会「共振する東アジア３：サブカルチャーからみる日本と台湾の戦後」コーディネーター

⑶　研究・教育活動に関するコメント
査読付き論文四本など研究，教育において大いに努力した。

清塚　邦彦

⑴　研究成果
（a）研究業績
（論文）
• 「ネルソン・グッドマンの贋作論：『芸術の言語』第３章の分析」，『山形大学紀要（人文科学）』，第18巻１号，（2014年２月），１–39頁。
（b）その他の研究活動
日本科学哲学会　評議員
日本哲学会　『哲学』編集委員

⑵　教育，地域連携等の活動
（a）担当授業
（基盤教育）
「哲学ってどんなこと？（哲学）」（前・後期）
（専門教育）
「基礎講義（文化解釈学）」（後期），「共生人間学（二）」（後期），「論理学概論」（前期），「哲学概論」（後期），「情報記号論」（後期），「情報記号論演習」（前・後期）
卒論指導担当３名
（b）出張講義
• 2014年２月19日　楯岡高校キャリアアップセミナー模擬講義「機械と心：心の哲学への招待」

小泉　有紀子

⑴　研究成果
研究論文（単）How do advanced learners of English understand a complex scope ambiguity? --a case of negation and focus construction-. IEICE Technical Report, Vol.113, No. 174. pp.111-115, 2013年７月
研究発表（単）・大学共通英語におけるライティング授業の教育効果について：主観的・客観的尺度から．全国英語教育学会第39回大会．北星学園大学 2013年８月．
研究発表（単）・Koizumi, Yukiko（Yamagata University）. How do advanced learners of English understand a complex scope ambiguity? a case of negation and focus construction. Paper presented at the Workshop on Mental Architecture for Processing and Learning of Language（MAPLL）関西学院大学　2013年８月．
研究発表（単）The role of 'non-syntactic' factors in sentence processing: The case of the 'not-because' ambiguity. CUNY Graduate Center Prosody and Parsing Reading Group（招聘）2013年３月

⑵　教育，地域連携等の活動

（担当授業）英語コミュニケーション・英語リーディング　（基盤教育），実践英語（一）（人文学部），英語の教材分析 A（人文学部）

（その他）

山形県英語教育研究会　第65回東南置賜地区　中高英語弁論大会　審査員。

⑶　平成 25 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では，英語教育と心理言語学の研究をすすめ，教育面では，実践英語（一）での資格試験対策や，教職関係の授業を担当しました。人文学部での１年目は，充実した年となりました。

合田　陽祐

⑴　研究成果

著書（共著）

１. « Jarry face à la censure théâtrale : À propos de la genèse textuelle d'*Ubu sur la butte* », in *Alfred Jarry du manuscrit à la typographie*, SAAJ & Du Lérot éditeur, Paris & Tusson, MMXIV, novembre 2014, pp. 27–47（ISSN : 0750–9219）（「上演検閲を前にしてのジャリ――『丘の上のユビュ』のテクスト生成について――」，アルフレッド・ジャリ協会とフランス国立ランス大学共催国際シンポジウム『アルフレッド・ジャリ，自筆草稿からタイポグラフィまで』の議事録所収）。

論文（査読有）

１.「アルフレッド･ジャリの『砂時計覚書』を読む――イメージとテクストの関係を中心に――」『フランス語フランス文学』，慶應義塾大学日吉紀要，第59号，pp. 67–94，2014年10月。

２. « "L'identité des contraires" selon Alfred Jarry : Réflexions sur la construction du personnage dans *César–Antechrist* et *Les Jours et les Nuits* »，『フランス語フランス文学研究』，日本フランス語フランス文学会，第105号，pp. 113–128，2014年８月。

３.「アルフレッド・ジャリによる科学的言説の受容について――『パタフィジック学者フォストロール博士の言行録』の場合――」，*Les Lettres françaises*, 上智大学フランス語フランス文学会，第34号，pp. 29–40，2014年７月。

４. « L'évolution des modèles théoriques de la Machine à Décerveler chez Alfred Jarry »，『フランス語フランス文学研究』，日本フランス語フランス文学会，第104号，pp. 103–118，2014年３月。

５.「催眠術師のオイディプス――アルフレッド・ジャリの『絶対の愛』再読――」，『仏語・仏文学論集』，上智大学文学部仏文学科紀要，第48号，pp. 83–98，2014年３月。

６.「アルフレッド・ジャリの『昼と夜』におけるドン・キホーテの形象について――文学言説分析からのアプローチ――」，『Lingua』，上智大学言語教育研究センター，第24号，pp. 21–36，2014年３月。

発表

１.「アルフレッド・ジャリの最初の「書物」――『砂時計覚書』を読む」，日本マラルメ研究会

総会，於お茶の水女子大学，2014年５月24日。

２．« Une relecture génétique d'*Ubu sur la Butte* », *Alfred Jarry*, *Du manuscrit à la typographie*, Colloque international organisé par la Société des Amis d'Alfred Jarry et l'Université de Reims（Reims, France）, 21 février 2014（アルフレッド・ジャリ協会とフランス国立ランス大学共催国際シンポジウム『アルフレッド･ジャリ, 自筆草稿からタイポグラフィまで』におけるフランス語での口頭発表，2014年２月21日）。

翻訳

１．アラン・ヴァイヤン著「マラルメあるいはパンドラの匣」,『EBOK』，神戸大学仏語仏文学研究会論集，第26号，pp. 81–112，2014年３月（フランス語からの翻訳と解題）。

⑵　教育，地域連携等の活動

授業（学内，2014年度後期）

フランス文化論（専門教育）（２単位），フランス語 II（医学部）（２単位），フランス語 II（法経政策学科）（２単位), フランス語 II（地域教育学部）（２単位), フランス語 II（工学部）（２単位)。

授業（学外，本学着任前2014年度前期）

フランス語中級 I（慶應義塾大学法学部）（２単位), フランス語中級 II（慶應義塾大学法学部）（２単位），フランス語初級（慶應義塾大学経済学部）（４単位），フランス語中級（慶應義塾大学経済学部）（２単位），フランス語初級（上智大学言語教育研究センター）（２単位）

研修

１．フランス政府夏季教員研修（フランス大使館給費），於フランス・ブザンソン市，CLA，2014年８月18日～８月28日。

２．フランス語教育国内スタージュ，於アンスティチュ・フランセ東京，2014年３月22日～３月25日。

⑶　研究・教育活動に関するコメント

2014年度前期の研究活動としては，早稲田大学招聘研究員として，科学研究費若手研究（B）の課題研究「十九世紀末フランスの小雑誌に関する研究」の調査をおこなった。夏季休暇中には，フランス・パリ市に出張し，フランス国立図書館等で大規模な文献調査をおこなった。後期の研究活動として，10月の本学着任後は，引き続き科研費の課題研究である世紀末の小雑誌に関する論文の投稿準備と，アルフレッド・ジャリに関する単著研究書刊行のための作業を進めている。教育活動の面では，フランス語の発音矯正に力を注いでいる。すでに非常勤先で，CALL 教室を利用した授業に取り組んできたが，現在では，来年度からの CALL 教室使用に向けて，山形大学の基盤教育の教室にインストールされている CALL ソフトの操作法を学んでいる。今年度は，希望者に対し時間を設け，個別の発音矯正を実施している。

坂井　正人

(1) 研究成果

［口頭発表］

1．Human Activities from the Late Paracas to Inca Period at the Pampa de Nasca, Southern Coast of Peru.（Sakai, Masato, Jorge Olano, Isao Akojima, Yoichi Watanabe, Kaoru Honda）, 78th Annual Meeting, Society for American Archaeology, Hawaii Convention Center, USA, 2013. 4．6．

2．Impact of Past Climate Variability on Human Activities in Nasca, Peru.（Larry Lopez, Takayuki Omori, Masato Sakai, Giuseppe Orefici, Minoru Yoneda）, 78th Annual Meeting, Society for American Archaeology, Hawaii Convention Center, USA, 2013. 4．6．

3．　ナスカの地上絵周辺で確認された海産貝類 .（黒住耐二，坂井正人，瀧上舞）日本貝類学会，豊橋市自然史博物館（豊橋市），2013. 4.21.

4．「アンデス文明の興亡：ナスカの地上絵をめぐる環境と文明」立命館大学環太平洋文明研究センター創設記念シンポジウム（於：立命館大学衣笠キャンパス），2013. 5.19.

5．Radiocarbon and Stable Isotope Analysis of Prosopis Pallida in Nazca.（Takayuki Omori, Larry Lopez, Minoru Yoneda, Fuyuki Tokanai, Kazuhiro Kato, Mai Takigami, Masato Sakai）, International Symposium: Absolute Chronology in the Central Andes, University of Warsaw, Poland, 2013. 9.26.

6．「ナスカ社会と環境：２千年間の展開」（坂井正人・松本雄一）文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「環太平洋の環境文明史」第５回国際研究者集会，2014. 2．9．

7．Paisaje y Sociedades en los Valles del Río Grande de Nasca.（Masato Sakai y Jorge Olano）, Simposio Internacional: Desarrollo y Cambio en las Sociedades Prehispánicas de la Costa Sur del Perú. 国立民族学博物館 , 2014. 2.16.

8．Nasca Project of Yamagata University.（Masato Sakai, Kaoru Honda, Tadasuke Monma, Junko Murakoshi）, Round Table Conference on Nasca, 2014.　山形大学 , 2014. 2.20.

9．「ナスカの地上絵と社会変化」山形大学人文学部国際学術講演会『ナスカとパルパの地上絵と社会：考古学研究の最前線』，山形大学，2014. 2.22.

［著書・論文・エッセイなど］

1．「ナスカ地上絵研究の過去と現在」（坂井正人），『ラテンアメリカ時報』1404, pp.20–22, 2013.

2．Informe Final del Proyecto de Investigación Arqueológica de las Líneas　y Geoglifos de la Pampa de Nasca（Cuarta Temporada）.（Masato Sakai,Jorge Olano）, pp. 1 –258, Ministerio de Cultura del Perú, Lima, 2013.

3．Centros de Líneas y Cerámica en las Pampas de Nasca, Perú, 2010.（Masato Sakai, Jorge Enrique Olano Canales, Yuichi Matsumoto, Hiraku Takahashi）, pp. 1　–267, Yamagata University Press, 2014.

4．「先コロンブス期アメリカ大陸史に関する世界史教科書の記述はどう変わったか－新学習指導要領に沿って改訂された高等学校世界史教科書の検証」

『古代アメリカ』16:85－100。(2013年12月)（ 青山和夫・坂井正人・井上幸孝・井関睦美・長谷川悦男・嘉幡茂）

⑵ 教育 , 地域連携等の活動

［担当授業］「文化人類学入門（文化論）」,「アンデス考古学入門（文化論）」,「比較地域研究概論」,「文化人類学･宗教史講義（二）」（言語人類学),「文化人類学･宗教史演習（二）」（現代社会と人類学),「文化人類学・宗教史演習（三）」（人と動物),「文化人類学・宗教史実習（二）」（ナスカの地上絵),「基礎講義（文化動態論）」,「大学院特論」,「大学院特別演習」,「教材開発のための先進研究」（山形大学教職大学院）

［卒業･修士論文］ 【卒業論文】:「出羽庄内国際村･アマゾン民族館－「モノ」研究をめぐって－」,「アマゾンの狩猟用具」,「アマゾン・インディオの装身具」,「コンピュータ将棋－将棋における機械と人間の関係－」,「祭りの変容－田名部まつりを事例に－」,【修士論文】「ペルー南海岸ナスカ谷におけるセトルメント・パターン研究」

［地域・社会連携］

1.「アンデスの地上絵：インカの首都クスコ，ナスカ台地をめぐって」三越トラベル（於：野村コンファレンスプラザ日本橋）2013年７月20日

2.「ナスカの地上絵研究最前線：山形大学プロジェクト成果」静岡県立富士東高等学校進路講演会（於：富士市文化会館）2013年10月23日

3.「山形大学のナスカ地上絵研究」米澤工業会･千葉支部講演会（於ける:ホテルプラザ菜の花）2013年10月26日

4.「アンデスの地上絵:ナスカの地上絵を中心に」三越トラベル（於：山形大学人文学部附属ナスカ研究）2013年10月30日

5.「世界遺産ナスカの地上絵：山形大学の最近の研究より」河北町民大学ひなカレッジ（於：どんがホール）2013年11月29日

6.「山形大学のナスカ地上絵研究」FUJITSU ファミリ会（於：山形グランドホテル）2014年２月４日

7.「ナスカの地上絵と古代アンデス文明」鳥取県立博物館，2014年３月16日。

8.「ナスカの地上絵とは？：時期，方法，目的」一日山大生になろう！ Part ２【ナスカの地上絵を描こう・つくろう】（於：山形大学 SAITA センター）2014年３月20日

9.「山形大学ナスカ研究の現状と展望：何をどこまで解明したのか？」エンドー共栄会（於：パレスグレンデール）2014年３月26日

⑶ 研究・教育活動に関するコメント

「環太平洋の環境文明史」計画研究 A03「アンデス文明の盛衰と環境に関する学際的研究」（科学研究費補助金・新学術領域研究）によって，ナスカの地上絵に関する現地調査を実施した。この調査によって，ナスカ市街地のすぐ近くで17点のラクダ科動物と想定できる地上絵を発見した。また，ナスカ台地の地上絵と考古遺物に関して GIS に基づくデータベースを確立するとともに，これらのデータを用いて学術図書を出版することができた。

ナスカ社会に関する最先端の研究を展開している３名の外国人研究者（米国・ドイツ）を招聘して，国際シンポジュウム「Simposio Internacional: Desarrollo y Cambio en las Sociedades Prehispánicas de la Costa Sur del Perú」，国際学術講演会「ナスカとパルパの地上絵と社会：考古学研究の最前線」，円卓会議「Round Table Conference on Nasca」を主催・共催することができた。

国際学術雑誌 Peruvian Archaeology を山形大学人文学部附属ナスカ研究所から発刊した。この雑誌の Editorial Advisory Board は日本人研究者だけでなく，アメリカ合衆国の大学教員（ジョンズ･ホプキンス大学，テュレーン大学，パデュー大学，テキサス州立大学，ルイジアナ州立大学），ドイツ国立考古学研究所，先コロンブス期イタリア考古学研究センター，ペルー文化省などの研究者によって構成されている。今回掲載された査読論文は，イェール大，テュレーン大学・山形大の研究者によって投稿されたものである。

講義と演習では，世界の諸民族に関する事例を検討することで，文化人類学の基本的な考え方，民族誌の読み方と議論の仕方について扱った。一方，実習では，南米ペルー共和国ナスカ市まで学部学生を連れて行き，現地で調査実習を行った。

佐藤　清人

⑵　教育，地域連携等の活動

公開講座　平成25年度公開講座「19世紀西洋思想の宝石箱」

⑶　研究・教育活動に関するコメント

研究は日系アメリカ文学の研究を継続的に行った。

近年の関心はヨネ野口の作品である。専門教育ではやはり日系アメリカ人の歴史と文学について講義を行い，演習科目では英国作家の短編小説を精読した。基盤教育の英語では実践的，実用的な英語学習という観点から，授業を行った。

鈴木　亨

⑴　研究成果

論文

- 「Think different の言語学―創造的逸脱表現を支える文法のしくみ」，『山形大学人文学部研究年報』第11号，69–86, 2014年３月.

研究発表

- 「結果構文における創造性と生産性」, 日本英語学会第31回大会における研究発表（於福岡大学, 2013年11月）.

⑵　教育，地域連携等の活動

- 担当授業：英語 C，英語 R，英語学特殊講義，英語学概論（二），実践英語（二），教職実践演習（英語），英語語法論特論，教員免許状更新講習（英語）

⑶　平成25年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では，⑴　英語の結果構文の創造的使用例を認可する文法・意味解釈のしくみ，及び⑵　広告表現 “Think different” の文法的逸脱性の背景について，研究を進めた。教育面では，複数の授業で時間外の課題として多読レポートを課し，学術面だけでなく多面的に英語力を養成することに努めた。

摂津　隆信

⑴　研究成果

口頭発表

「今日の科学技術の世界は演劇によって再現できるか」（ゲーテ自然科学の集い，慶應義塾大学，2014年２月）

⑵　教育，地域連携等の活動

特になし

⑶　研究・教育活動に関するコメント

平成25年度は非常勤講師として東京で仕事を行っていた。３つの大学を掛け持ちして授業を担当していたため，研究の時間があまり取れなかったことが反省材料である。今後は研究，教育活動ともに充実させ，地域の役に立っていきたい。

髙橋　真彦

⑴　研究成果

研究発表（単）

On nominative objects in Japanese.　フィロロギア例会（第38回三重大学言語学コロキアム）三重大学　2013年６月.

Case-valuation and phase edges.　日本英語学会ワークショップ　Foundational Issues in Phase Theory. 福岡大学　2013年11月.

研究論文（単）

Phases and the structure of NP: A comparative study of Japanese and Serbo-Croatian. Formal Approaches to Slavic Linguistics 21（FASL 21）. 359-372. Slavica Publishers.

研究論文（共同）

LF intervention effects and nominative objects in Japanese. Proceedings of the 37th Penn Linguistic Colloquium（PLC 37）.101-110. University of Pennsylvania Working Papers in Linguistics.

⑵　教育，地域連携等の活動

前任校（三重大学共通教育センター）で１年生用の英語の授業（リーディング，コミュニケーション，TOEIC）を担当。

⑶ 研究・教育活動に関するコメント

2014年10月に人文学部に着任致しました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

千葉　清史

⑴ 研究成果

（a）研究業績

［論文］

1．“Précis of Kants Ontologie der raumzeitlichen Wirklichkeit: Versuch einer anti-realistischen Interpretation der Kritik der reinen Vernunft”, Transcendental Philosophy Research, Author Meets Critics Session, http://tprcritique.wordpress.com.

2．“Reply to Chris Onof”, ibid.

3．“Reply to Henny Blomme”, ibid.

4．「直観主義数学の非時間的真理概念」,『東北哲学会年報』第30号，pp. 1–14.

［研究発表］

1．「直観主義数学の非時間的真理概念」，東北哲学会第63回大会，2013年10月.

2．「「物自体は存在するか」という伝統的な問題の解決に寄せて」，日本カント協会第38回学会，2013年11月.

3．「『純粋理性批判』第一版「第四パラロギスムス」における超越論的観念論の間接的正当化」，カント研究会第276回例会，2013年12月.

⑵ 教育・地域連携等の活動

（a）担当授業

［教養教育］

ドイツ語 IA 1，IIA 1（人文・理学部向け，前期＆後期），ドイツ語 IA 2，IIA 2（工学部向け，前期＆後期）.

［専門教育］哲学演習（一）（前期），哲学講義（一）（後期）.

（b）地域貢献

山形大学公開講座（人文学部）『19世紀世紀西洋思想文化の宝石箱：ニーチェからコナン・ドイル，フェノロサまで』，第二回「フリードリヒ・ニーチェ：哲学的思考における徹底性の一つのかたち」担当，2013年６月.

⑶ 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

- 博士論文（Kants Ontologie der raumzeitlichen Wirklichkeit, Walter de Gruyter, 2012）で論じた諸議論の深化・発展を試みた。この方針はこれからも続けていく予定である。
- ８月に３週間，山形大学ナスカ研究所に滞在し，ナスカ研究の現状ならびにフィールドワークの実情を視察した。今後は考古学・人類学研究の科学哲学的分析を行っていく予定である。
- 今日の英語偏重の風潮の中で，あえてドイツ語を大学で学ぶことの意義はどこにあるのか――このことを学生に伝えられるようなドイツ語授業を目指した（が成果に関してはまだ満足のい

くものにはなっていない)。
• 哲学の授業では，参加者にともかくも哲学的議論を実際に行なってもらうことを主眼とした。

富澤　直人

⑴　研究成果

研究発表（H25年11月）

"Complement clause selection and exceptional Case-marking" 日本英語学会第31回大会（福岡大学）

論文（H26年２月）

"Complement clause selection and exceptional Case-marking," JELS 31: Papers from the 31st Conference, 207-213.

⑵　教育，地域連携等の活動

教育

学部 英語学概論，英語学特殊講義，人間文化入門総合講義，卒論指導

大学院 現代外国語（英語）Ⅱ

基盤教育 英語Ｃ，Ｒ

⑶　研究・教育活動に関するコメント

冨田　かおる

⑴　"Rhythm for oral readings" Bulletin of Yamagata University（humanities）18: 1, 65-79.

⑵　担当授業　英語学演習，実践英語（二），英語（R），英語（C）

⑶　言語の生成を主なテーマとし，特に発話の音響分析を基に，英語母語話者と日本人英語学習者の母音特徴分析を行い，母音空間の言語学習への応用について考察した。

中澤　信幸

⑴　研究成果

〔著書〕

• 『中近世日本における韻書受容の研究』，おうふう，2013年９月

〔論文〕

• 日本語教育における「日台基本漢字」発音対照表の可能性について，中澤信幸・岩城裕之・是澤範三，『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』10，pp.13-20，2013年10月

〔ポスター発表〕

• Possibility of the Japanese-Taiwanese Fundamental Characters' Contrastive Phonetic Table with the Japanese Language Education, Nobuyuki NAKAZAWA, Hiroyuki IWAKI, Norimitsu

KORESAWA, 2 nd International Conference on Vietnamese and Taiwanese Studies & 6 th International Conference on Taiwanese Romanization, Center for Taiwanese Languages Testing NCKU（台湾・国立成功大学）, 2013年５月18・19日
〔口頭発表〕
• 日本語教育における台湾語音の活用，台湾・銘傳大学2014年国際学術研討会「應用日語教育的理論與實踐」，2014年３月14日

⑵ 教育，地域連携等の活動
〔担当授業〕
• 学部専門科目：日本語（一），日本語学特殊講義，日本語学演習
• 大学院科目：日本語史特論Ⅱ，日本語史特別演習
• 基盤教育科目：日本語と他の言語との共生（共生を考える），日本語の歴史（言語学）
〔卒業論文〕
• 謝罪・感謝表現の歴史的変遷
• 英文学作品の日本語訳について　―シェイクスピア作品を対象に―
• 『古事記』の歌謡における万葉仮名の選択規則について
〔修士論文〕
• 日本漢語と呉語・粤語・閩語における漢字音の対照研究　―『蒙求』掲出字を対象として―
〔地域連携〕
• 小川尚義の著作に見る国語意識，台湾・南臺科技大学応用日語系（所）2013年国際学術研討会「回顧與展望日本帝國統治下的國語教育與戰後的日語教育」専題演講，2013年10月26日
• 日本の高等教育の現状，台湾・銘傳大学教育研究所（大学院）特別講義，2013年11月18・19日
• 台湾語と日本漢字音，台湾・銘傳大学応用日語研究所（大学院）特別講義，2013年12月３・４日
• 台湾語と日本漢字音，台湾・台湾大学日本語文学系碩士班（大学院）特別講義，2014年３月11日

⑶ 研究・教育活動に関するコメント
十数年にわたるこれまでの研究成果を著書にまとめて出版した。また科学研究費（基盤研究（C），研究課題名：現代版「日台字音便覧」データベースの整備と「日台基本漢字」発音対照表の構築，課題番号：23520544，研究期間：平成23～25年度，研究代表者：中澤信幸）による研究成果を各所で発表した。加えて「ＹＵ海外研究グローイングアッププログラム」により，９月から台湾・銘傳大学に滞在して研究を進めた。これに関連し，台湾の各所で講演・特別授業などを行った。

中村　篤志

⑴　研究成果

〔論文〕

1,「フルンボイル遊牧社会における地縁結合――Ya. シャーリーボー氏の口述に現れた“アイマグ”をめぐって」『東北アジア研究』18,2014年２月，pp.51–79

2,「清朝宮廷におけるモンゴル王公――光緒９–10年乾清門行走日記の分析から」新宮学編著『近世東アジア比較都城史の諸相』白帝社，2014年３月，pp.89–111

〔学会・研究会発表〕

1,「モンゴル王公の年班・行走　～光緒９年乾清門行走日記の分析から」東北アジア研究センター共同研究「近世・近代における内陸アジア遊牧民社会の構造的特質とその変容に関する研究」研究会　2013年６月１日　於：東北大学東北アジア研究センター

2，コメンテーター　北東アジア学会サテライト研究会2013年12月23日　於：日本大学法学部

⑵　教育・地域貢献等の活動

〔担当授業〕

東洋史講義（二），東洋史概論（二），東洋史演習（二），東洋史講読（二），基礎（文化動態論），北アジア遊牧民の歴史（基盤・教養・歴史学），モンゴル語の歴史（基盤・教養セミナー），北アジア史特論Ⅱ（大学院），北アジア史特別演習（大学院）

〔教育活動〕

1. 国際交流：人文学部異文化間コミュニケーションⅠ in 台北の WG メンバーとして，企画・運営・現地引率を行った（参加33名）。国内では，説明会，計３回の事前学習会，帰国報告会の企画・運営，現地での引率を担った。現地学生と合同で主体的に街頭調査をさせる合同研究を，他の教員と共同で立案・実施した。

2．人文学部国際交流講演会「モンゴルにおける仏教　――その過去と現在」講演者：アルタンザヤー博士（モンゴル国立教育大学歴史科学部教授，東北大学東北アジア研究センター客員教授）を企画し，通訳を務めた。2013年７月10日　於山形大学人文学部。

3．卒論指導：東洋史５名の卒業論文を指導した。

〔地域貢献活動〕

1．出張講義：岩手県立盛岡北高等学校・大学模擬講義において講義（2013年６月20日）。

2．出張講義：網走南が丘高校・出前講義において講義（2013年８月28日）。

⑶　平成25年度の研究，教育活動に関するコメント

- 研究協力者を務めた科研費基盤研究Ｂ「近世東アジアの都城および都城制についての比較史的総合研究」（代表新宮学教授）の成果として『近世東アジア比較都城史の諸相』が刊行され，一編を執筆した。
- 代表を務める基盤研究Ｃ「日記史料からみた清末のモンゴル王公と清朝支配」が採択され，本年度からスタートした。上記で考察した清末の宮廷空間におけるモンゴル王公の活動について継続・発展させていく予定である。

- 基盤研究 A（海外調査）「東北アジアにおける辺境地域社会再編と共生様態に関する歴史的・現在的研究」（代表：岡洋樹）の研究分担者として，清末から1930年代までの内モンゴル遊牧地域の基層社会について成果をまとめた。
- 教育面では主に国際交流が中心となった。台湾実習の企画・運営・引率のほか，講演会を企画し通訳を務めた。
- 学生の留学支援にも力を入れた。近３年，東洋史からは，北京林業大に２名，台湾銘傳大学に２名の留学生を送り出し，留学中も就活・卒論等の指導を行った。

中村　隆

⑴　平成25年度の研究成果

- 研究発表（シンポジウムパネリストとして）:「ディケンズとメイヒューが描いた児童労働」（学会名：東北ロマン主義文学・文化研究会，日時：平成25年７月25日，場所：東北大学文学部）
- 書評：「Gillian Piggot, Dickens and Benjamin: Moments of Revelation（Ashgate, 2012）について」（『ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報』第36号，平成25年，30-34頁）

⑵　平成25年度の教育，地域連携等の活動

【教育】基盤教育について。基盤教育の英語（R）および（C）では，山形大学の学生ならば，ネット上で24時間アクセスが可能な ALC NeAcady ２を予習と復習の基本教材とし，速読（R）とリスニング（C）の練習をした。また，グループワークによる音読，発話練習を繰り返し行い，ナチュラルな英語のリズムを身体で覚えることを重点課題とした。

学部の専門教育について。英米文学概論（一）では，18世紀と19世紀の英文学史を「散文」の特質という観点から論じた。英文学演習では，エッセイを１つの文学ジャンルとして扱い，現代英字新聞の文化的エッセイを語彙の獲得，英文法・構文の高度な理解を目標として，英語で精読した。暗記や音読にも積極的に取り組んだ。

【地域連携等】

平成24年度　山形大学公開講座［人文学部］「19世紀西洋思想文化の宝石箱 ニーチェからコナン・ドイル，フェノロサまで」において，「コナン・ドイルという謎を解く」と題して講演した（平成25年６月13日）。

⑶　研究・教育活動に関するコメント

研究面について。ヘンリー・メイヒューとディケンズがともに描いた19世紀中葉のロンドンの「児童労働」を，「資本主義」と「センチメンタリズム」という２つの視点から捉え，ヴィクトリア朝の児童労働に関する新しい研究の可能性を検証した。それに際し，ディケンズの『オリヴァー・トウィスト』と『荒涼館』というフィクション，および，メイヒューの『ロンドンの貧民とロンドンの労働』というノンフィクションの詳細なテクスト分析を行った。

教育面について。基盤教育では，ALC NeAcady ２というコンピュータ利用の英語学習を効果的に取り込むことができた。特に，語学教育での復習の効用を理解させるために，復習課題を大幅に増加した。授業では，音読を繰り返し，英語の音を身体的なリズムにおいて発話するような

工夫をした。

専門教育においては，英米文学概論（一）に関しては，英語の散文の特色を論じるにあたって，具体的な作品からの原文の引用を積極的に行い，そのテクスト分析に取り組んだ。また，同概論では，毎回講義へのコメントを書かせるようにし，双方向の講義に努めた。英文学演習では，エッセイというジャンルを構造分析するとともに，語学教材として高度な語彙の定着をはかった。

中村　唯史

⑴　研究成果

［著書］

１．『映像の中の冷戦後世界：ロシア・ドイツ・東欧研究とフィルム・アーカイブ』，共編著，山形大学出版会，2013年10月

２．『ロシアの南：近代ロシア文化におけるヴォルガ下流域，ウクライナ，クリミア，コーカサス表象の研究』，編著，山形大学人文学部叢書5,2014年３月

［論文］

１．「事実と記録のあいだ：ロシア / ソ連ドキュメンタリー映画をめぐる言説と実践について」，高橋和・中村唯史・山崎彰（編）『映像の中の冷戦後世界』（山形大学出版会），11–26頁，2013年10月

２．「マイトレーヤとレーニンのアジア：無国籍者レーリヒの世界図」，望月哲男編著『ユーラシア地域大国の文化表象』（ミネルヴァ書房），198–223頁，2014年３月

３．「地中海からアラギョーズへ:マンデリシタームの詩学とアルメニア」，中村唯史（編著）『ロシアの南：近代ロシア文化におけるヴォルガ下流域，ウクライナ，クリミア，コーカサス表象の研究』（山形大学人文学部叢書５），129–184頁，2014年３月

［書評・エッセイ等］

１．常なるものと無常とを対照的に捉える：ウリツカヤ『クコツキイの症例』書評，週刊読書人，2013年９月13日号，５頁

２．著名な作家に新たな光：ロシア文学2013年回顧，週刊読書人，2013年12月20日号，６頁

３．ソチと南とロシア文学，ロシア文化通信「群」（群像社），43号（2013年12月），１－２頁

４．山形新聞文化欄コラム「＜ことばの杜＞へ」:「鴻上尚史『デジャ・ヴュ '86』2013年４月27日」，「イワン・ツルゲーネフ『文通』同６月22日」，「小野十三郎『人造石油工場一つ』同８月17日」，「会田綱男『鹹湖』同10月12日」，「井上ひさし『イーハトーボの劇列車』同12月７日」，「小林秀雄『当麻』2014年２月８日」

⑵　教育，地域連携等の活動

［担当授業］

基盤教育：ロシア語Ⅰ，ロシア語Ⅱ，グローバル文化学入門

専門教育：表象文化講義，表象文化演習，基礎講義（グローバル文化学），欧米文化概論，欧米文化演習，ロシア文化論，ロシア語学演習，ロシア文化講読

大学院：ロシア東欧文学特論Ⅱ，同特別演習

［指導卒業論文テーマ］
「マンガの背景論」,「リアリティのありか」,「ＳＦにおける人工知能ロボット」,「荒木飛呂彦『ジョジョの奇妙な冒険』物語考」,「色彩考」,「近代ロシアの女性をめぐって」
［地域連携等］
• 非常勤講師：宮城学院女子大学（表象文化論），北海道大学スラブ研究センター共同研究員，日本ロシア文学会大会組織委員・同実行委員，ロシア東欧学会編集委員，日本比較文学会東北支部幹事，「ロシア語ロシア文学」「スラヴ研究」誌査読
• 出張講義
１．北海学園札幌高等学校「芸術作品を考察するとは：文学とマンガを例に」（2013年５月28日）
２．山形県立高畠高等学校　「歌と映画とアニメから見るソ連社会」（2013年12月18日）
• 山形新聞「山新文学賞」選評担当（月１回）

⑶　平成25年度の研究，教育活動に関するコメント
特になし

西上　勝

⑴　研究成果
［論文］
「二十世紀中国画家の「師心」と「師古」 ―　斉白石と黄賓虹の比較を通じて」
『山形大学人文学部研究年報』第11号　平成26年３月　１頁～26頁
「周亮工の『読画録』と『印人伝』について」
『書法漢学研究』第15号　平成26年７月　20頁～27頁

⑵　教育，地域連携等の活動
［担当授業］
研究科：中国中世文化論特論など
専門教育：中国文学概論など
基盤教育：共通科目コミュニケーション・スキル「中国語」

⑶　研究・教育活動に関するコメント
昨年度に引き続き，地域連携活動の一環として，一般市民を対象とする，中国語検定試験（日本中国語検定協会主催）の山形試験場の運営（年３回）に試験場責任者として従事した。

福野　光輝

⑴　研究成果
○分担執筆
• 福野光輝　（2013）．交渉研究　藤永　保（監修）最新心理学事典，平凡社 , 178-179.
• 福野光輝　（2013）．モデリング理論ほか209項目　繁桝算男・四本裕子（監訳）APA 心

理学大辞典，培風館．(VandenBos, G. R.（Ed.）(2007Z. APA dictionary of psychology, Washington,
DC: American Psychological Association.　における209項目の翻訳）
• 福野光輝・渡邊洋一・山田浩久・本多　薫・阿部晃士・山根純佳　(2014)．山形大学周辺における暮らしの安心・安全に関するアンケート第１次報告書．(平成25年度山形大学人文学部研究活動支援　［プロジェクト研究］による助成）

○学会発表
• 福野光輝・森和彦　(2013a)．勤勉さが報酬分配におよぼす効果．東北心理学研究 , 63, 48.
• 福野光輝・森和彦　(2013b)．姿勢としての努力が報酬分配におよぼす効果．日本心理学会第77回大会発表論文集 , 105.

⑵　教育，地域貢献等の活動

○担当授業
• 「人間の心と行動（基幹科目・人間を考える）」(前期）
• 「調べて書く心理学（教養セミナー）」(後期）
• 「心理学講義（二）」(前期）
• 「社会心理学演習」(前期・後期）
• 「心理学実験」(前期）
• 「心理学特殊実験」(前期・後期）
• 「心理学情報処理実習」(前期）
• 「人間文化入門総合講義」(前期）
• 「基礎講義（地域・人間）」(後期）
• 「社会心理学概論」(東北大学非常勤，後期）
• 「社会心理学演習 / 心理学研究演習 I」(東北大学非常勤，後期）

○教育活動成果
• 福野光輝×山形大学基盤教育「調べて書く心理学ゼミ」　(2013)．合縁奇縁（59ページ，未公刊）

○卒業論文指導
• 「ボランティア参加意図の規定要因：ポジティブライフイベントと主観的幸福感に着目して」
• 「着席位置と視線によって説得効果は高められるか」
• 「情緒的サポートとしての共感・同情：知人の共感は友人の同情より効果的か ?」
• 「大学生における授業中の私語：教師および授業への不満と私語頻度の関連」
• 「罪悪感と時間的距離が説得に及ぼす効果」
• 「公的自己意識の高さが集団内問題行動者への社会的排斥に与える影響」
• 「無意識的思考理論による単純接触効果の抑制」

○出張講義
• 福野光輝　(2013)．はじめての心理学．(岩手県立千厩高等学校，岩手県一関市 , 2013年９月26日）

○メディア掲載

- 河北新報　(2014年４月３日朝刊)　「児童保護者「災害が不安」わずか11%：山形中心部で山形大が調査」
- 山形新聞　(2014年４月20日朝刊)「「共助」高いニーズ：山形で山形大　防災などテーマ　住民調査」
- 山形大学広報誌みどり樹　(2014年夏号，第60巻)「YAMADAI TOPICS　人文学部：小学生の保護者を対象に安心・安全意識を調査」

藤澤　秀光

⑴　研究・教育活動

⑵　教育・地域連携等の活動

［担当授業名］

- 学部：アメリカ研究演習，アメリカ研究特殊講義
  英語（Ｒ）Ⅱ，欧米文化概論，人間文化基礎演習
- 大学院：英米現代文化論特論，英米現代文化特別演習

［地域連携活動（ボランティア）］

国際ロータリー第2800地区財団奨学生選考委員
国際ロータリー第2800地区財団ロータリー学友会代表幹事

⑶　研究・教育活動に関するコメント

ユダヤ系，日系といったアメリカの少数民族に関する小説，演劇，雑誌，新聞，広告，ＣＭ，映画，ＴＶ番組，音楽，スポーツといった，文字化，音声化，映像化された文化的生成物を対象にした研究を行っています。

教育活動としては山形県のロータリークラブの財団奨学生のアドバイザーとして，奨学金の申請から海外の留学先の大学，大学院決定までの指導を行っています。

本多　薫

⑴　研究成果

論文

１）本多薫，門間政亮：ナスカ台地におけるラインセンター間の移動について（第２報）－南北歩行実験による検証－，山形大学大学院社会文化システム研究科紀要，第10号，p.33-47,2013.10

学会発表

１）本多薫：学習支援システムを想定した長時間使用時の生体情報の変化，日本教育工学会第29回全国大会講演論文集（秋田大学），p. 797-798,2013. 9

２）高碕俊宏，本多薫，渡邊洋一：ＣＧのサイズ推定に関する検討，日本人間工学会関東支部第43回大会講演集（首都大学東京），p.72-73,2013.12

その他

1）山形新聞「ナスカの伝言」第３部研究者の横顔⑶ ，2013年８月11日掲載

2）山形新聞「ナスカの伝言」第４部⑵ 無数の直線“道”の可能性，2013年９月８日掲載

⑵ 教育，地域連携等の活動

授業：（教養）情報処理；（学部）公務員対策セミナー，人間情報科学概論，人間情報科学基礎，人間情報科学演習，人間情報科学実習，プログラミング演習；（大学院）人間情報科学特論Ⅱ，人間情報科学特別演習

卒業研究の指導（人間情報科学専修担当として指導）：

（a）オンラインコミュニケーションの特徴と課題について

地域貢献活動等：

（a）出張講義（羽黒高等学校） 模擬講義を担当した

（b）ロータリークラブ（天童）にて，ナスカに関する講演

（c）日本経営工学会東北支部　運営委員

（d）日本人間工学会　代議員

（e）日本人間工学会東北支部　支部役員

（f）土木学会　地下空間研究委員会　心理小委員会　委員

⑶ 研究・教育活動に関するコメント

平成25年度は，学習支援システムの生体負担と休憩時間に関する研究，ナスカの地上絵の情報科学の視点からの研究を進めた。また，教育としては，情報科学関連の講義を担当するとともに，共同で卒業研究の指導を行った。

松尾　剛次

⑴ 研究業績

Ⅰ著書（共著２）

1）遊学館ブックス『音学やまがた』（財）山形県生涯学習文化財団（共著），2014年３月

2）『山形学　山形における地域学の成立と展開』（財）山形県生涯学習文化財団（共著），2014年３月

Ⅱ．論文（14）

1.「近世の仏教再考　＜１＞近世仏教堕落史観の見直し」『大法輪　6』, 大法輪閣, 2013年６月（p 34ー39）

2.「河内西琳寺五輪塔と大和唐招提寺西方院五輪塔をめぐって－考古学と文献史学をつなぐ試み－」『戒律文化第８号』戒律文化研究会，2011年３月， p 100－ p 113

3.「近世の仏教再考＜２＞キリシタン禁制と宗門改・寺請制度」『大法輪　7』，大法輪閣，2013年７月， p 28－ p 33

4.「近世の仏教再考＜３＞羽黒修験」『大法輪　8』，大法輪閣，2013年８月， p 42-47

5.「近世の仏教再考＜４＞修験者の暮らし」『大法輪　9』，大法輪閣，2013年９月， p 42-47

６.「病の思想史」『岩波講座日本の思想　第５巻　身と心』岩波書店，2013年９月，ｐ203-232
７.「近世の仏教再考＜５＞四国遍路再考」『大法輪　10』，大法輪閣，2013年10月，ｐ36-41
８.「近世の仏教再考＜６＞日本仏教と戒律」『大法輪　11』，大法輪閣，2013年11月，ｐ42-47
９.「中世叡尊教団と泉涌寺末寺の筑後国への展開～新発見の中世西大寺末寺帳に触れつつ～」『山形大学大学院　社会文化システム研究科紀要　第10号』，2013年10月，ｐ69-81
10.「近世の仏教再考＜７＞光明寺本『遊行上人縁起絵』」『大法輪　11』，大法輪閣，2013年12月，ｐ42-47
11.「近世の仏教再考＜８＞最上義光と寺社」『大法輪　１』，大法輪閣，2014年１月，ｐ28-33
12.「近世の仏教再考＜９＞親鸞の妻」『大法輪　２』，大法輪閣，2014年２月，ｐ36ー41
13.「近世の仏教再考＜10＞最上義光黒印状と寺社」『大法輪　３』，大法輪閣，2014年３月
14. 講演録「第57回　智山教学大会講演　葬式仏教の誕生」『智山学報』　第77号，2014年３月

Ⅲその他（新聞記事，書評，講演など）

１．書評「岩本由輝編『歴史としての東日本大震災』」『山形新聞』2013年５月５日
２．記事「『残忍』最上義光イメージ本当？」『朝日新聞』2013年６月17日
３．記事「義光の過小評価，再考必要」『朝日新聞』2013年10月８日
４．記事「義光公　いま再評価の時」『朝日新聞』2013年６月26日
５．記事「国重文・絵巻全十巻公開」『毎日新聞』2013年９月17日
６．記事「義光ゆかり　全10巻を公開」『山形新聞』2013年９月14日
７．記事「義光ゆかりの絵巻公開」『朝日新聞』2013年９月15日
８．講演「最上義光が生きた時・空」『山形の魅力再発見パート11』2013年10月５日
９．記事「治世に生かした文化的素養」『山形新聞』2013年10月11日
10. 記事「長谷堂合戦勇壮に再現」『河北新報』2013年10月16日
11. 記事「義光，庄内支配の新資料」『朝日新聞』2013年12月11日
12. 記事「最上義光　新たな文書」『山形新聞』2013年12月11日
13. 記事「最上義光の文書　原本３点」『読売新聞』2013年12月11日
14. 記事「直江兼続『直筆』家康情報に苦慮」『朝日新聞』2013年12月12日
15. 記事「最上義光の寄進状　原本と確認」『荘内日報』2013年12月13日
16. 記事「最上義光寄進状新たに２通発見」『産経新聞』2013年12月25日
17. 記事「日本仏教史の変容」佛教タイムス2014年１月９日・16日合併号
18. 記事「兼続の直筆文書か」『山形新聞』2014年２月５日
19. 記事「直江兼続緊迫の戦況記す」『河北新報』2014年２月５日
20. 記事「兼続の書状　原本発見」『読売新聞』2014年２月５日
21. 記事「「葬式仏教」見つめ直す」『朝日新聞』2014年３月17日
22. 書評「入間田宣夫・菊地和博編『講座東北の歴史第５巻　信仰と芸能』」『山形新聞』2014年３月30日

Ⅳ学生指導　卒論（10本）・修論（１本）を指導

○４年生

出羽国寒河江荘についての一考察

鎌倉時代執権政治に関する一考察
最上義姫に関する一考察
宝幢寺に関する一考察
最上三十三観音札所に関する一考察
安積開拓における宗教的一考察
絵馬に関する一考察
鎌倉幕府の序列形成の原理について
奥州合戦再考
山形城下町に関する一考察 ―城下絵図の分析から―
院生
聖徳太子信仰に関する一考察
Ⅴ地域連携
山形学企画委員として山形学講座の企画を行った。また，本学都市地域学研究所の所長として山辺町と連携して，「山形偉人再発見プロジェクト」を行い，第３回「安達峰一郎記念世界平和弁論大会」などを実施した。

⑶　研究・教育活動に関するコメント
本年度は人間文化学科長として学校行政面も忙しかった。また，最上義光没後400年記念イベントでも忙殺された。

松本　雄一
⑴　研究成果
著書
１．Centros de Líneas y Cerámicas en las Pampas de Nasca, Perú, 2010.　Yamagata University Press.（Masato Sakai 氏，Jorge Olano 氏，Hiraku Takahashi 氏との共著）
論文
１．The domestic occupation of Campanayuq Rumi; Implications for understanding the Initial Period and Early Horizon of the south-central highlands of Peru. Andean Past 11: 169-213.（Yuri Cavero 氏，Roy Gutierrez 氏との共著）（2013年10月）
２．Cupisnique pottery from Campanayuq Rumi, south-central highlands of Peru: Implications for late Initial Period interaction. Peruvian Archaeology 1:47-60.（Jason Nesbitt 氏との共著）（2014年３月）.
３．「先コロンブス期アメリカ大陸史に関する世界史教科書の記述はどう変わったか－新学習指導要領に沿って改訂された高等学校世界史教科書の検証」『古代アメリカ』16:85-100。（2013年12月）（青山和夫氏，坂井正人氏，井上幸孝氏，井関睦美氏，長谷川悦男氏，嘉幡茂氏との共著）
学会発表
１．Paracas in the highland?: Interregional interactions between the Peruvian south coast and south-central highlands. April 6, 2013, 78th Annual Meeting, Society for American

Archaeology, Hawaii Convention Center, USA
2．「“ 周縁 ” 社会から見たアンデス文明の形成」2013年６月15日，第15回山形大学歴史地理人類学会，於：山形大学
3．Chavín in the South: Archaeological investigations at Campanayuq Rumi, Peru.（Jason Nesbitt and Yuichi Matsumoto）February 7, 2014, the Tulane Anthropology Student Association, Department of Anthropology, Tulane University, New Orleans, USA.
4．Paracas en la sierra: Una perspectiva desde Campnayuq Rumi. Simposio Internacional “Desarrollo y Cambio Social en las Sociedades del Costa Sur del Perú”, February 16, 2014, Nacional Museum of Ethnology, Osaka.
5．「ナスカ社会と環境：２千年間の展開」（坂井正人・松本雄一），2014年２月９日，文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「環太平洋の環境文明史」第５回国際研究者集会．

⑵　教育，地域連携等の活動
1．「神殿と住居－カンパナユック・ルミ遺跡2013年度調査速報－」2013年10月19日，アンデス文明研究会主催　公開特別講座，於：東京外国語大学本郷サテライト。
2．「神殿の外を掘る：カンパナユック・ルミ遺跡における居住域の調査」『チャスキ』48号：８-11。(2013年12月)

⑶　研究・教育活動に関するコメント
特になし。

元木　幸一
⑴　研究成果
なし

⑵　教育，地域連携等の活動
（授業）
基盤教育基幹科目「美術に見る男女の共生／競生／狂生」教養科目「笑顔の秘密―笑いの美術史（芸術）」
人文学部専門科目「基礎講義（文化解釈学･オムニバス）」「美学･芸術学概論」「芸術文化特殊講義」「美術史演習」「美学・芸術学演習」「芸術文化実習」
大学院科目「表象文化論（美学・芸術学）特論Ⅰ」「表象文化論（美学・芸術学）特別演習」
（卒論指導）
「アメリングの肖像画表現の考察」「ギュスターヴ・モロー作《オイディプスとスフィンクス》における一考察」
（出前講義）
「笑顔の秘密―笑いの美術史」（茨城県立下館第一高等学校）2013年７月
「笑顔の秘密―笑いの美術史」（秋田県立大曲高等学校）2013年10月

⑶　研究・教育活動に関するコメント

研究面では，昨年度に新書を出したことで若干腑抜け状態になっていた。反省。

科学研究費基盤研究（C）の研究は，ぼちぼち進めたが発表にまで至らなかった。

卒論指導は，あまり適切に指導できなかった。アメリングはドイツ語文献ですらほとんどなく，難しいテーマだったと思う。

授業は，積極的な学生が多かったので，楽しかった。学科コースの改編により，新しい「文化解釈学コース」の１年生を指導することになったが，本格的な参戦は来年から。１年生向けのオムニバス講義「基礎講義（文化解釈学）」は３回担当だが，大勢の学生が集まり，活発な授業を展開できたと思う。内容も主要な方法論の紹介と「生と死」というテーマを組み合わせて比較的面白い話になったのではないかと思う。

まとめるとやや反省すべきことが多い年だったということになるのかもしれない。

森岡　卓司

⑴　研究成果

［共編著］

１. 日本近代文学会東北支部編『東北近代文学事典』勉誠出版，平成25年５月23日

編集委員

人名編項目「大橋乙羽」（pp103）「斎藤林太郎」（pp227）「沢渡恒」（pp267）「田山花袋」（pp350）「前原正治」（pp464）「松坂俊夫」（pp471）「森英介」（pp506）「横尾健三郎」（pp539），事項編項目「近代作家と東北（山形について）」（p583～ p588）「地方紙と東北の文学（山形について）」（p620～ p622）を執筆（いずれも単著）

［論文］

１．森岡卓司「文学を引き裂く　―吉本隆明の芥川龍之介論―」，『季刊 iichiko』　平成25年４月20日　pp95～106

２．森岡卓司「他者としての「言葉」　―東日本大震災後の言説状況と戦後文芸批評を巡る試論―」，『山形大学人文学部研究年報』第11号　平成26年３月１日　pp １（124）～18（107）

［講演，ワークショップパネラー］

１．講演，森岡卓司「大岡昇平『野火』と戦後日本文学」　平成25年11月13日　ブリヤート大学（ロシア）

２．ワークショップパネラー，「『ゴンドラの唄』の比較文学」，日本比較文学会東北支部第11回比較文学研究会　平成25年７月28日　仙台ビジネスホテル

［記事］

１．森岡卓司「やまがた再発見」151. 黒田喜夫　上，152. 黒田喜夫　下，『山形新聞』　平成25年５月26日，６月２日

２．森岡卓司「やまがた再発見」175. 吉本隆明　上，176. 吉本隆明　下，『山形新聞』　平成25年11月10日，11月17日

［書評］

１．森岡卓司「端的な〈変異〉の実践　中村三春著『〈変異する〉日本現代小説』」，日本文芸研究会『文

芸研究』第177集　平成26年１月30日

［解説］

１．森岡卓司「４　評論二『原始社会像の真実』新納泉」，教育出版株式会社編集局編『新編現代文Ｂ　言葉の世界へ　教授資料　①Ⅰ部１～４単元』，発行日不記載（平成26年３月？），pp170～187

⑵　教育，地域連携等の活動

［出張講義］

新潟県立佐渡高等学校（平成25年８月21日）

秋田県立横手高等学校（平成25年９月12日）

［公開講座］

１．森岡卓司「浜田広介記念館と井上ひさしの遅筆堂文庫を訪ねて」，寒河江市立図書館「シリーズ山形の文学を探る」第五回　平成25年10月10日，遅筆堂文庫（川西），浜田広介記念館

２．森岡卓司「手紙を書く女，手紙を読む女　―日本近代文学における女性と手紙」，山形市男女共同参画センター女性学講座　平成25年10月22日，29日，山形市男女共同参画センター「ファーラ」

［論文指導］

卒業論文５名，修士論文１名

［授業担当］

「初期村上春樹の世界（文学）」ほか基盤教育科目３，「日本文学演習」ほか専門教育科目７，「日本近現代文化論特別演習」ほか大学院担当科目２（と特別研究）。

⑶　研究・教育活動に関するコメント

研究活動は上記の通り，長年編集に携わってきた『東北近代文学事典』が刊行されたことをはじめ，実りの多い年度であった。

その他に，学会活動としては日本近代文学会東北支部運営委員（大会企画担当），日本比較文学会東北支部事務局長，日本文芸研究会全国委員（大会企画担当），日本文学協会委員。

教育活動には，上記の他に，平成23年度より実施している日本近代文学東北インカレゼミ（平成22年は山形大学単独の自主ゼミとして実施）を，本年は福島県で行い，学生が企画運営を担当する補助を行った。福島大，東北大，弘前大，盛岡大，東京大からの参加があった。また，今年度卒業論文を執筆したのは，学生が自主的に運営する「日本近代文学ゼミ」（通称，「代ゼミ」）を立ち上げた学生たちであり，極めて熱心かつ積極的に研究活動に取り組んでくれた。

地域連携等の活動として，山形大学が行う朗読コンテストの審査員を，平成24年度もまた継続して務めている。

人文学部国際交流事業の一環として，ロシアブリヤート共和国のブリヤート国立大学を訪問し，学術的な交流の機会を得た。記して感謝致します。

山崎　彰

⑴　研究成果

- 高橋和，中村唯史両教授などと共に共編著『映像の中の冷戦後世界』山形大学出版会（2013年10月）を刊行し，この中で第４章「ドイツ民主共和国の崩壊と社会主義の体験」を執筆した。
- 学会報告「近世ブランデンブルクの農場領主制と低湿地開発」（政治経済学・経済史学会秋季学術大会，下関市立大学，10月19日）

⑵　教育，地域連携等の活動

- 基盤教育

「ヨーロッパ史における共生と環境」（基幹科目），「近代ヨーロッパ国家の多様なかたち」（教養科目）

- 専門教育

「歴史学基礎」「西洋史概論（二）」「西洋史講義（二）」「西洋史演習（二）」「西洋史講読（二）」「卒業論文」。以上の他に松本邦彦准教授とともに「地域づくり特別演習（二）」，山内励東海大山形高元校長，藤田稔教授と「教職実践演習」を実施した。

- 大学院教育

「ドイツ史特別演習」において，18世紀のヨーロッパ宮廷文化の英語テキストを講読。

- 地域連携①　『映像の中の冷戦後世界』出版と合わせて，山形国際ドキュメンタリー映画最中に，映画際と山形大学共催で，連続講演会と映画上映企画「東欧ドキュメンタリー映画の現在―冷戦終了後の世界」を実施した（10月10～12日）
- 地域連携②　村山市「徳内学講座」で「博覧の医師テーアとシーボルト：ファウストの後継者たち」を講演（10月29日）

山田　浩久

⑴　研究成果

著作

『観光資源の有効活用と中心市街地の再生』，単著，山形大学人文学部叢書，2014年３月

学術論文

「山形大学 COC 事業　現地学習を中心にした災害復興学の実践」，単著，2015年７月，山形大学紀要（社会科学編），39-2，1-26.

“How Inter-Municipality Exchange Programs in Japan Influence the Disaster Relief Effort: The Case of the Great East Japan Earthquake”, sole author, Mar 2014, Japanese Society of Urban Geography, 9, 42-54.

学会発表

山形県上山市における宿泊業の現状と課題，単独，2013年５月，　　東北地理学会

Recent changes in land evaluation in the Tokyo metropolitan area, sole, Aug 2013, IGU Kyoto Regional Congress.

東日本大震災が東京大都市圏の住宅地評価に与えた影響，単独，2014年１月，国土地理院東北ブ

ロック地理空間情報産学官地域連携協議会 .
東京特別区におけるジェントリフィケーションに関する地代論的考察，単独，2014年３月，日本地理学会シンポジウム報告 .

⑵ 教育，地域連携等の活動
教育
基盤教育：地域の共生（共生を考える）
学部教育：地域構造論，地誌学，地域構造論演習，環境地理学調査実習，都市地理学調査実習，共生人間学（一）
大学院：経済地理学特論Ⅱ，経済地理学特別演習
地域連携
• 国土交通省国土地理院　地理空間情報産学官地域連携協議会委員
• 山形県総合政策審議会特別委員
• 山形県広域調整会議委員
• 山形市都市計画マスタープラン研究会委員
• 長井市市民講座講師
• 長井市職員研修講師
• 高校への学部・学科説明会および模擬講義　模擬講義２校
• 山形大学東北創生研究所　研究員

⑶ 研究・教育活動に関するコメント
本学の COC 事業認可に伴い，連携自治体である上山市と共同研究を行うことができた。また，同事業の特徴を活かし，学生参加型の調査を実施することによって学生教育も充実したものとなった。その成果は上記①の著作として公表済みである。専門分野に関しては，国際地理学連合（IGU）の国際大会に参加し，科学研究費による研究成果を発表した。

山根　純佳

⑴ 研究活動
翻訳：山根純佳・内藤準・久保田裕之 , 2013『正義・ジェンダー・家族』スーザン・モラー・オーキン , 岩波書店（=Justice, Gender and the Family, 1989, Susan Moller Okin, Basic Books）
山根純佳 , 2013「訳者解題」, スーザン・モラー・オーキン『正義・ジェンダー・家族』山根純佳・内藤準・久保田裕之訳 , 岩波書店 , 303–308頁（=Justice, Gender and the Family, 1989, Susan Moller Okin, Basic Books）.
学会発表：山根純佳「介護労働の研究――介護保険下におけるホームヘルプ労働の変化」日本労働社会学会第25回大会シンポジウム　東北福祉大学　2013年11月17日

⑵ 教育・地域連携活動
平成25年　山形県社会福祉協議会　山形県福祉人材センター運営委員

平成25年　山形県男女共同参画審議会委員

⑶　研究・教育活動に関するコメント
人文学部，プロジェクト研究「山形市における安心・安全に関する学際的研究」において，山形大学近隣の小学校 PTA を対象にしたアンケート調査を実施した.

山本　睦

⑴　研究成果
論文
2014「先史アンデス形成期社会における人々の活動と戦略―ペルー北部ワンカバンバ川流域のセトルメント・パターンと景観―」『年報人類学研究』４：１-32。南山大学人類学研究所。
2013（山本睦は第一著者。伊藤裕子と共著）「ペルー北部とエクアドル南部における形成期の地域間ルートと地域間交流：GIS による加重コストルート分析を用いて」『古代アメリカ』16：１－29。古代アメリカ学会。
2013 Las rutas interregionales en el periodo Formativo para el norte del Perú y el sur de Ecuador: Una perspectiva desde el sitio Ingatambo, valle de Huancabamba. Arqueología y Sociedad 25: 9-34. Museo de Arqueología y Antropología de la Universidad Nacional Mayor de San Marcos.
2013 Informe de Análisis de los Proyectos de Investigación Arqueológica Ingatambo y el valle de Huancabamba, Provincia de Jaén, Departamente de Cajamarca, Perú（2005-2013 Informe Final). Ministerio de Cultura, Perú（ホセ・ペーニャとの共著).
2013 Informe del Proyecto de Investigación Arqueológica “INGATAMBO”, Valle de Huancabamba, Provincia de Jaén, Departamento de Cajamarca, Perú（Tercera Temporada). Ministerio de Cultura, Perú（ホセ・ペーニャとの共著).
学会発表
2014「文化遺産管理とパブリック考古学」日本文化人類学会課題研究懇談会「東アジア公共人類学懇談会」中間報告会。国立民族学博物館。2014年２月20日。
2013「ペルー北部チョターノ川流域の遺跡踏査」古代アメリカ学会第18回研究大会。
山形大学。(口頭発表)。2013年12月７日。

⑵　教育，地域連携等の活動
2014「ペルー最北部ワンカバンバ川流域における考古学調査と文化遺産管理」第29回京都メソアメリカ考古学研究会。於：京都，NPO 法人フィールドミュージアム文化研究所。2014年３月30日。
2014「パコパンパ遺跡周辺地域の遺跡分布調査」科研費プロジェクト研究会「権力の生成と変容からみたアンデス文明史の再構築」（基盤研究 S 研究代表者：関雄二国立民族学博物館教授)。富山大学。2014年３月22日。
2014 “ Social Dynamics in the Andean Formative: A perspective from northern Peru”. Seminar of Master grade of Prehistorical Ethnology, Archaeology and Protohistory from

Université de Paris 1, Panthéon Sorbonne. 2014年３月４日。
2014「アンデス文明形成期社会の動態と考古学調査からはじまる文化遺産管理－ペルー北部ワンカバンバ川流域を事例として―」みんぱく研究懇談会。国立民族学博物館。2014年１月８日。

⑶ 研究・教育活動に関するコメント
とくになし

ライアン　スティーブン

⑴ 研究成果
［論文］
2013.11 How First-Hand Experience Modifies Schema: a Japanese study abroad group in Australia. In Conference Proceedings of 2nd International Symposium on Business and Social Sciences (ISBSS), Osaka, Japan. pp. 395-401. ISBN: 978-986-89536-6-6
［学会発表］
2013.10. Presentation. Investigating Cross-Cultural Schema by Recognizing the Hidden Gorilla of Assumed Stereotypical Knowledge. International Conference for Social Sciences and Humanities, International Journal of Arts and Sciences. (IJAS). American University of Rome. Rome, Italy.
2013. 4. Presentation. Seeing the Hidden Gorilla of Culture-Specific Schema in Cross-Cultural Communication Contexts. International Conference for Social Sciences and Humanities, International Journal of Arts and Sciences (IJAS). Paris, France.
2013. 3 . Presentation. The Battle of Little Bighorn (1876) – Custer's Last Stand. Japan Association of Language Teachers (JALT). Yamagata city, Yamagata Chapter.

⑵ 教育，地域連携等の活動
英語コミュニケーション（上級), 英作文（上級)， 英語（C)， 英語（R)， 異文化間コミュニケーション I, II

⑶ 研究・教育活動に関するコメント
My research interest intersects with Intercultural Communication and Cross-Cultural Psychology with emphasis on international relations.

渡辺　文生

⑴ 研究成果
《学会，研究会などの研究発表》
「講義の談話の単位と展開」日本語学会2013年度秋季大会ワークショップ，静岡大学，2013.10.26（『日本語学会2013年度秋季大会予稿集』pp.27-44.）
「初級日本語学習者のための「つながり」を目的とした遠隔授業の実践」日本語教育方法研究会

第42回研究会，横浜国立大学，2014. 3.15（『日本語教育方法研究会誌』21(1) , pp.56-57. ）
「対話のインターアクションが談話のアウトプットに与える影響：日本語母語話者による聞き手発話の刺激と効果」社会言語科学会第 33 回大会，神田外語大学，2014. 3.16（『社会言語科学会第 33 回大会発表論文集』pp.84-87. ）
On the differences in use of sentence final modality in Japanese oral and written academic discourse. Annual Conference of American Association of Applied Linguistics 2014, Portland, USA, 2014. 3.22.
「日本語学習者の物語作文における接続詞・接続助詞使用をもとに習熟度を探る」AATJ 2014 Spring Annual Conference, Philadelphia, USA, 2014. 3.27.
《出版物》
「講義のテーマに基づく受講者インタビュー談話の分析」石黒圭（編）『「大学学部留学生のための講義の談話に関する研究」論文集』pp.134-144. 2011～2013年度科学研究費補助金基盤研究（B）

(2) 教育，地域貢献等の活動

担当授業は，日本語学概論・日本語学特殊講義・日本語学講読・日本語学演習・日本語（二）・共生人間学（二）・国語の教材分析A《以上学部専門科目》，日本語意味論特論・日本語意味論特演・特別研究《以上大学院科目》，スタートアップセミナー，ことばの意味の世界（言語学）・日本語上級２・遠い方言，近い方言《以上基盤教育科目》。

地域貢献等の活動としては，福島県立船引高校の模擬講義（2013年11月11日）の講師を担当した。

(3) 当該年度の研究，教育活動に関するコメント

研究活動に関しては，研究分担者として２件の科学研究費プロジェクトに参加した。学生の指導については，日本語学コース４名の卒業論文を指導した。

渡辺　将尚

(1) 研究成果

論文：「過去への執着という病―マルティン・ヴァルザー『幼年時代の保護』における主人公の死をめぐって」（「山形大学人文学部研究年報　第11号」p.43～57，平成26年３月）

渡邊　洋一

(1) 研究成果

《著書》行場次朗・箱田裕司（編著）『新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 』福村出版、2014. 3.15発行. 第１章「感覚の多様性」を担当.
《口頭発表》
- 朝岡陸※・渡邊洋一「聴覚的時間と視覚的時間の差異についての検討」日本認知心理学会第11回大会. 2013. 6.29. つくば国際会議場. （※現東北大学大学院所属. 卒業論文に基づく研究を連名で発表）.

- Human Activities from the Late Paracas to Inca Period at the Pampa de Nasca, Southern Coast of Peru.（Sakai Masato, Jorge Olano, Isao Akojima, Yoichi Watanabe, Kaoru Honda）, 78th Annual Meeting, Society for American Archaeology, Hawaii Convention Center, USA, 2013.4.6.
- Visibility of Lines and Geoglyphs on Nasca Pampa：A Cognitive-psychological approach.（Yoichi Watanabe）, Round Table Conference on Nasca, 2014. 山形大学, 2014.2.20.

⑵ 教育，地域貢献等の活動

《教育活動》

基盤教育基幹科目「実験心理学入門（人間を考える）」，学部専門科目「心理学実験」「心理学特殊実験」「認知心理学概論」「認知心理学演習」，卒業論文指導（７名），大学院社会文化システム研究科「実験心理学特論Ⅱ」「実験心理学特別演習」.

• 地域連携等の活動（高大連携）

新庄北高校研究室訪問（１名指導）８月.

仙台南高校出前講義７．５.

• 地域連携等の活動（地域貢献）

八戸サイエンスカフェ「山形大学のナスカ地上絵研究」６.15

全国大学保健管理研究集会東北地方研究集会特別講演「山形大学のナスカ地上絵研究」７.26

天童ロータリークラブ主催公開シンポジウム「山形大学のナスカの地上絵の研究」にて講演.

11.10.

日本自動車連盟（JAF）山形支部交通安全実行委員会委員長.

【法経政策学科】

赤倉　泉

⑴ 研究成果

特になし

⑵ 教育，地域連携等の活動

【教育】

教養教育科目：中国語，基礎演習

専門教育科目：アジア政治論，アジア政治論演習

【地域連携等】

出張講義（福島県郡山高校，福島県橘高校）

⑶ 研究・教育活動に関するコメント

研究面においては，前年度に引き続き科学研究費補助金を使い，毛沢東時代の政治および中国の民主化運動をテーマとした研究を進めた。

教育面では，学生に興味をもたせるために時事問題などを広く取り入れ，視聴覚教材を利用するなど工夫した。

阿部　未央

⑴　研究成果

- （論文）「事業場外労働のみなし制」土田道夫＝山川隆一編『ジュリスト増刊 労働法の争点』112–113頁（有斐閣，2014年３月）
- （論文）「改正パートタイム労働法の政策分析―均等待遇原則を中心に」日本労働研究雑誌642号45－52頁（有斐閣，2014年１月）
- ［報告］「イギリス判例 Hounga v Allen & Anor［2012］IRLR 685（CA）不法就労の外国人労働者に対する人種差別」（東北社会法研究会，2014年２月）
- ［報告］「添乗員に対する事業場外労働のみなし制適用の可否―阪急トラベルサポート（派遣添乗員・第二）事件最二小判平26・１・24判例集未登載」（東北社会法研究会，2014年２月）

⑵　教育・地域連携等の活動

［教育］ 労働法，労働法演習，社会保障法，日本の雇用と法，少子化を考える（教養セミナー），公務員講座

［地域連携］

- 山形地方最低賃金審議会公益委員
- 山形県建築士審査会委員
- 外部講師　連合山形活動家養成講座（2013年８月）
- 外部講師　山形市男女共同参画 働く女性の講座（2013年９月）
- 外部講師　東北弁護士連合会主催 市民講座（福島，2013年11月）
- 出張講座　宮城県立石巻高校（2013年10月），宮城県立泉高校（2013年12月）

⑶　研究・教育活動に関するコメント

「イギリス・オランダにおけるパートタイム労働法制」（科研若手Ｂ）の２年目であり，イギリスの関連資料の読解を中心に研究を進めた。次年度の留学準備も行った。はじめて担当した基盤教育科目「日本の雇用と法」では，新書をベースに講義を進めたが他学部の学生にはやや難しい内容であったかもしれない。

池田　弘乃

⑴　研究成果

【学会報告】

「フェミニズム法学とクィア法理論の交錯する場」，日本法哲学会学術大会・ワークショップＡ「クィア法理論の可能性を探る」（駒澤大学，2013年11月16日）

（報告概要は『法哲学年報　2013　民事裁判における「暗黙知」 ―「法的三段論法」再考―』196–198頁（2014年，有斐閣）に掲載されている）

⑵　教育，地域連携等の活動

【教育】

都留文科大学非常勤講師（担当科目：「現代社会とジェンダー」，「ジェンダー研究 IV」）

大妻女子大学非常勤講師（担当科目：「日本国憲法」）

⑶　研究・教育活動に関するコメント

本学着任前の研究・教育活動です。非常勤講師として多様な学生とコミュニケーションをとる機会に恵まれました。本学においてもその経験を活かし，よりよい教育を目指したいと考えています。研究面では学会報告一本にとどまりました。その内容を元にした論考が近刊予定です。

和泉田　保一

⑴　研究成果

• 研究ノート

「都市法における市民参加手続と『行政的正義』」（2010年度～2012年度科学研究費補助金報告書『行政法システムの構造転換　イギリスにおける行政的正義』pp.184-204）

• 判例報告

大阪高判平成25年８月30日（平成25（行コ）１号）判例地方自治379号68頁（東北大学公法判例研究会，９月）

⑵　教育，地域連携等の活動

• 担当授業

行政法Ⅰ，行政法Ⅱ，行政法演習，総合講座Ⅰ（「条例による地域政策」）・Ⅱ（「公法」２コマ），人文学部公務員対策講座（集団討論２コマを担当）

• 地域連携活動

［審議会等委員］

山形県情報公開・個人情報保護審査会委員（継続）

山形県医療審議会委員（継続）

山形広域環境事務組合エネルギー回収施設建設及び運営事業技術審査委員会委員（10月-）

山形大学医学部倫理委員会委員（継続）

［外部研修講師］

北陸地方整備局職員研修「法律」（７月）

長井市役所職員研修「政策法務」（～３月）

山形市役所職員研修「行政法」（２月）

［講演］

平成25年度人文学部公開講座『東日本大震災からの復興』第四回「地方自治体と復興計画」を担当（10月）

⑶　研究・教育活動に関するコメント

ゼミ合宿を八ッ場ダムに沈む川原湯温泉で行い，八ッ場ダム建設をめぐる原状や再建計画につ

いて実地調査および聴取調査を行い，また，世界遺産登録が予想された富岡製糸場を見学した。

２月に実施した異文化間コミュニケーション実習Ⅰ（セブ島）の際，山形から出発する時に大雪で成田空港まで行けるかどうか危うくなったことが印象に残った。

伊藤　嘉浩

⑴　平成25年度の研究成果

論文「東日本大震災時の企業や組織のマネジメント：山形県の事例」『山形大学社会文化システム研究科紀要』2013年９月。

東日本大震災時の山形県の主要な企業や組織の問題と対応について，各社の社長や知事にインタビュー調査を行い，報告・考察した。

学会発表「新規事業開発における資源獲得正当化のための企業間お墨付き」日本経営学会全国大会（2013年９月，関西学院大学）

⑵　平成25年度の教育活動

担当科目　学部「マーケティング前期」「マーケティング後期」「ベンチャービジネス論」「マーケティング演習」「スタートアップセミナー」「教養セミナー『経営戦略論』」，大学院「マーケティング特論」

⑶　研究・教育活動に関するコメント

本年度の研究成果は，紀要論文１本，学会発表１回であった。この論文は東日本大震災時の山形県の主要な企業や組織での危機対応のマネジメントの調査報告であり，将来の大地震災害に対する参考資料となるものである。

その他，平成25年度に，企業経営において重要性の増しているビジネスモデルの研究を積極的に行った。具体的には，プリンター産業，コーヒーマシン，業務用味噌汁マシン，オフィス通販，ベンチャー企業の各事例について企業調査を行い，合計45名程度にインタビューを行い，分析し，各論文にまとめた。その他にも，映画料金の定量分析や消費者行動の研究，さらに新しい競争戦略論の研究などを事例調査およびアンケート調査により行った。これらの研究成果として，平成26年度中に査読付き主要学会誌に７本の論文が掲載予定である。

岩田　浩太郎

⑴　研究活動

〔論文〕

- 「豪農論・地域社会論の視角」（東洋大学井上円了記念助成共同研究2013年度報告書『近世・近代の地域社会と名望家Ⅱ』東洋大学，48－64頁，2014年２月）

〔パンフレット〕

- 『村田商人の歴史像－「蔵の町」をつくった人々－』（単著，村田町文化遺産活用地域活性化事業実行委員会，2014年３月，Ａ４版全８頁［平成25年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした地域活性化事業）による発行］）

〔講演〕
- 「豪農論・地域社会論の視角」（東洋大学井上円了記念助成共同研究公開研究会「近世・近代の地域社会と名望家Ⅱ」，2013年12月７日，於東洋大学白山校舎８号館8304教室）
- 「村田商人の歴史像－『蔵の町』をつくった人々－」（平成25年度文化庁文化遺産を活かした地域活性化事業・村田町文化遺産活用地域活性化事業古文書調査報告会，村田町文化遺産活用地域活性化事業実行委員会主催，2014年３月15日，於村田町中央公民館大ホール［宮城県村田町］）

〔科研費〕
- 科学研究費補助金・基盤研究（Ｃ）「幕末・明治初年の農業構造と地域社会－羽州村山郡における再検討－」（研究代表者），研究期間2010年４月～2014年３月

〔外部資金〕
- 三菱財団人文科学研究助成「被災蔵古文書資料の保存整理と調査研究－宮城県柴田郡村田町の旧家文書を対象に－」（研究代表者），研究期間2013年10月～2015年９月

⑵　教育，地域連携等の活動

〔担当授業科目〕
- 基盤教育科目：基幹科目「歴史にみる共生」（共生を考える）
- 専門教育科目：日本経済史，地域経済史，日本経済史演習，法経政策専門基礎演習，総合講座Ⅲ（経済経営）
- 大学院教育科目：日本近世史特論Ⅱ，日本近世史特別演習，歴史文化特別研究Ⅰ

〔委員会活動〕
- 全学：就職委員会委員，研究活動に関する行動規範特別委員会委員，研究活動の不正行為に関する告発受付窓口の責任者，山形大学紀要（社会科学）編集委員会委員
- 学部：進路指導委員会委員，人事選考委員会委員（経営学），学部長選挙管理委員会委員，人事選考委員会委員（経済政策論）
- 学科：学科運営委員会委員

〔シンポジウム・展覧会・巡見・地域での報告会など〕
- やまがた広域観光協議会・河北新報トラベル主催「村山地域に伝わる紅花のみちを巡る」バス車中及び現地での説明を担当（2013年７月９日，仙台駅～高瀬紅花畑～山辺歴史民俗資料館～柏倉九左衛門家～紅の蔵）。
- 平成25年度やまがた社会貢献基金による柏倉九左衛門家前蔵文化財調査及び特別展「柏倉九左衛門家名品展」（2013年11月２日～16日，於中山町立歴史民俗資料館［山形県東村山郡中山町］）に協力（漆器箱書など墨書の解読・展示品の推薦その他）
- 平成25年度文化庁ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業「漆の地産地消と世界への展開－文化財建造物を通して－」によるパネルディスカッション「文化財建築と漆の地産地消」パネラー（2013年10月20日，於ホテルシンフォニーアネックス［山形県寒河江市］，コーディネーター三田村有純東京芸術大学教授）。
- ＮＰＯ法人柏倉家文化村主催：山形大学人文学部日本経済史ゼミナール共同研究発表会「江戸時代中期からの柏倉九左衛門家の金融実態」（2014年３月16日，於柏倉九左衛門家長屋門上座敷）

〔社会活動〕
- 山形市社会教育委員（副代表）（2012年～）
- ＮＰＯ法人「柏倉家文化村」顧問（2006年～）
- 奥羽史料調査会世話人（2002年～。宮城県柴田郡村田町大沼正七家文書整理・目録作成・調査研究など）
- 財団法人三浦新七博士記念会・三浦記念賞選考審査会審査員（2012年４月～）
- 文化庁補助事業･宮城県柴田郡村田町文化遺産活用地域活性化事業調査研究員（2012年５月～）
- 村田町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（2013年12月～）
- 柏倉九左衛門家・柏倉惣右衛門家所蔵古文書資料の整理保存・目録作成・調査依頼への対応
- 東日本大震災で被災した山形市の旧家蔵の古文書文化財の保全活動
- 新潟県新潟市の旧家からの古文書調査依頼への対応
- 日本科学者会議山形支部事務局長（2013年５月～）
- ＮＨＫゆうどきネットワーク「あれある？これある？」コーナーのための「茶箱」（古文書保管箱としての利用例）取材への協力（於紅の蔵［山形県山形市］，2013年12月11日ＮＨＫ総合で放映）
- 『朝日新聞』2014年４月２日付紙面「紅花で繁栄 村田商人」への取材協力（３月17日取材）

⑶　研究・教育活動等に関するコメント

研究及び地域連携活動では，まず最終年度を迎えた科研費・基盤研究の一つの総括として「豪農論・地域社会論の視角」をまとめ，日本近世近代の地方名望家論に関するインターカレッジな共同研究会で講演し議論をおこなった。また，平成24年度人文学部プロジェクト研究の成果にもとづき申請し採択された三菱財団人文科学研究助成により，宮城県柴田郡村田町の古文書資料の保存整理活動を継続した。また，平成24年度から委嘱された文化庁事業による村田町文化遺産活用地域活性化事業調査研究員として同町職員とともに旧家調査を積み重ね，その成果をパンフレット『村田商人の歴史像』にまとめ報告会を開催した。さらに，村田町の「蔵の町並み」を保存・活用し同町の伝統的建造物群保存地区に指定するべく審議会委員として村田商人の歴史的意義につき発言し普及に努めた。その他，従来からの山形県東村山郡中山町岡の柏倉家（本家・分家）の調査とＮＰＯ法人柏倉家文化村の諸活動への協力をおこなった。これらに関連して，鳥取県鳥取市及び大山町・京都府京都市・新潟県新潟市・愛知県常滑市・神奈川県横須賀市・宮城県蔵王町・宮城県大河原町・山形県河北町・山形県山形市の古文書資料調査を実施した。また，平成26年度末に刊行予定の村田商人史料集（仮称）のための調査・史料選定作業もおこなった。村田町の旧家より同町への古文書資料の寄贈の相談を受け，助言・仲介をした。

教育活動では，大学院指導教員（主）として，被災地である岩手県大槌町出身の院生に対する指導をおこなった。また，前年度から引き続き留学生担当教員として，オランダのライデン大学からの留学生に対し指導をした。

委員会活動では，全学及び学部の就職関係の委員として，インターンシップ指導・企業訪問・キャリアガイダンス企画準備･『就職活動アンケート調査報告書』作成などの諸実務をおこなった。また，定年前の教員が選出されるのが「慣例」となっていた学部長選挙管理委員に何故か選出さ

れてしまい，戸惑いながらも適正な選挙の実行に全力を尽くした。

社会活動では，本年度もいろいろな事業に参加した。あたらしい事柄としては，日本科学者会議山形支部事務局長に選出され，同支部の活動を組織した。その一つの活動として，山形大学学長選考に際して候補者に対する公開質問状の作成と公開をおこない大学構成員へ情報提供をする取り組みをおこなった。

小笠原　奈菜

⑴　研究成果

［論文］

「労働契約上の安全配慮義務違反による損害と弁護士費用［最高裁判所第二小法廷平成24. 2 .24. 判決］」山形大学紀要（社会科学）44巻１号63-75頁（2013）

「いわゆる時効待ち方針に関する弁護士の説明義務［最高裁平成25. 4 .16判決］」現代消費者法21号82-90頁（2013）

［口頭発表］

「いわゆる時効待ち方針に関する弁護士の説明義務」

消費者法判例研究会，2013年７月19日，於　早稲田大学

「いわゆる時効待ち方針に関する弁護士の説明義務」

東北大民法研究会，2013年11月７日，於　東北大学

「情報提供義務違反の効果としての契約調整―瑕疵担保責任の減額規定の類推適用」

国際取引法研究会，2013年12月14日，於　早稲田大学

⑵　教育 , 地域連携等の活動

［担当授業科目］

- 基盤教育科目：判例を読もう（教養セミナー）
- 専門教育科目：契約法入門，債権各論，民法演習，専門基礎演習
  （オムニバス方式）総合講座Ⅱ（法律），公務員試験対策セミナー

［地域連携］

山形県消費生活審議会委員

山形県個人情報保護運営審議会委員

消費生活相談員養成講座講師　2013年８月17日

山形県税理士会主催研究会講師「民法（債権法）改正の現状　－消滅時効を中心としてー」2013年９月17日

山形大学公開講座（人文学部）「震災復興をめぐる問題～民法学の視点から～」2013年10月１日

出張講義「日常生活におけるアクシデントと法律」2013年12月11日，於　山形中央高校

適格消費者団体学習講演会「健全で公正な市場のための適格消費者団体の役割」事務局　2014年３月８日

⑶　研究・教育活動に関するコメント

平成24年度に行なった口頭報告２件を公表することができ，さらに，口頭報告を３本行なうことができた。地域連携について，消費者問題，とりわけ，唯一の空白地帯である東北地方に適格消費者団体を設立する活動に着手した。教育について，卒論執筆学年の演習担当学生が12名となり，１人１人に対してきめ細かい対応をすることへの限界を感じた。講義については，民法改正の議論と基本知識の双方を内容とすることにより最新の情報を理解できるようになった学生もいる反面，分量が多すぎてわかりにくいと感じる学生もいた。

金子　優子

⑴　研究成果

論文

『Managing the Great East Japan Earthquake Emergency with Emphasis on Fukushima Nuclear Crisis Communication: Best and Worst Practices』，Asian Review of Public Administration Volume 24, Nos. 1－2, pp50–63, 2014年１月

⑵　教育，地域連携等の活動

担当科目：

行政学，行政学演習，公共政策とはなにか，日本国憲法，スタートアップセミナー

審議会委員：

東根市情報公開・個人情報審査会委員

村山公立病院情報公開・個人情報審査会委員

⑶　研究・教育活動に関するコメント

研究活動については，「公益法人を巡る改革が公益法人の活動に及ぼす影響の定量的分析・評価に関する研究」のために外部研究資金（平成25–28年度科学研究費補助金 基盤研究Ｃ 研究課題番号：25380277）を得た。研究初年度の研究活動として，①事業所企業統計調査と公益法人概況調査を用いた平成16年結合データの作成，②政府・地方公共団体関連公益法人名簿データファイルの整備，③学校法人名簿ファイル及び社会医療法人名簿ファイルの整備，④社会福祉法人名簿データの収集を行った。

教育活動については，プレゼンテーションソフトや映像ソフトを利用することにより視覚に訴えた分かりやすい講義となるように努めた。また，対話型の講義を行うように努め，学生の能動的学習を推進した。

川村　一義

【研究】

公表したものはない。

【教育・地域連携等】

［担当科目］

●公共政策学（本学）

●公共政策学演習（本学）

●総合講座Ⅰ（公共政策）（本学；分担）

●政策形成論（新潟大学法学部；集中講義）

［地域連携］

●山形大学公開講座〔人文学部〕「東日本大震災からの復興」2013年09月24日

［その他］

●人文学部広報委員会委員（HP 部会）

●山形大学法学会運営委員（『山形大学法政論叢』編集担当）

●公務員対策セミナー（本学；分担）

【雑感】

赴任１年目であったが，教育活動においては充実した１年であった。新潟大学法学部での夏期集中講義は，その後の公共政策学講義の下準備となった。どちらも意欲的な学生の受講態度に支えられ，教育の喜びを実感させた。また，赴任早々に市民向け公開講座の講師を引き受け，戸惑いながらも何とか務めた。激励して下さった市民のみなさまに，改めて心よりの感謝を申し上げたい。

赴任して初めての役職は広報委員であり，大学組織の広報活動を間近に学ぶ機会となった。足元のおぼつかない私を支えて下さった先生方にも，心よりの感謝を申し上げたい。さらに，『山形大学法政論叢』の編集を担当したことは，図らずも自身の研究意欲を高める契機となったことも記しておきたい。

それにもかかわらず，一方で，時間を浪費するばかりで実りの少ない活動もあった。多くの先生方が同じ思いを共有したところでもあり，適合的な制度を追求する改革を進めていきたい。

北川　忠明

⑴　研究成果

論文：「災害に強いコミュニティづくり」
清水修二・松岡尚敏・下平裕之編著『災害復興学入門』
（2013年９月，山形大学出版会）所収

⑵　教育，地域連携等の活動

担当授業：「政治と人間」（基盤教育），「政治理論」（学部），「政治理論演習」（学部），「現代政治論特論」（大学院），「現代政治論特演」（大学院）

地域連携：長井市振興審議会会長
山形県明るい選挙推進協議会委員

⑶　研究・教育活動に関するコメント

本年度は，災害復興をテーマとした「まちづくり」に関する研究をまとめることができた。また，レオン・ブルジョワの連帯主義研究はある程度進めることができた。

教育については，時事問題を取り入れるなど政治学の基礎的知識を修得させるよう工夫をしているが，学生の理論的思考力が年々落ちているように思われるので，さらなる工夫を心がけたい。大学院については，社会人大学院生を受け入れ，研究方法の基本から教育するよう務めた。

國方　敬司

⑴　研究成果

- 単著「イギリス農業革命はどのようにとらえられるべきか―プロザロウ再読―」『山形大学紀要（社会科学）』第44巻２号，2014年２月，pp. １-20.
- 単著「ロック「土地所有権」論と批判の系譜」『山形大学歴史・地理・人類学論集』第15号，2014年３月，pp11-37.

⑵　教育，地域連携等の活動

【教育】

- 山形大学での授業
  西洋経済史，環境と経済，西洋経済史・環境と経済演習，基礎演習，経済からみた環境との共生
- 東北文教大学での授業
  くらしと経済

【学会役員】

比較家族史学会理事，社会経済史学会評議員

【講演等】

a)「輸入食品の安全確保の取組について考えてみよう」＜パネルディスカッション･コーディネーター＞ 山形県食品衛生推進大会（遊学館）2013年７月23日（火）

b)「三浦新七博士を語る」＜パネルディスカッション･コーディネーター＞三浦新七博士記念会･経済講演会（パレスグランデール）2013年12月12日（木）など

【審議会委員等】

山形新聞報道審査会委員，三浦新七博士記念会評議員，「子育てするなら山形県」推進協議会委員，山形市都市振興公社評議員など

⑶　研究・教育活動に関するコメント

研究については，２本の論文を公刊することが出来た。

コーエンズ　久美子

⑴　研究成果

［論説］国際取引法研究の最前線「証券振替制度における担保権～ユニドロア条約の規定～」国

際商事法務 Vol.41, No. 9（平成25年９月）
［口頭発表］
「受託者の信託違反と救済」東北大商法研究会　平成25年12月14日

⑵　教育，地域連携等の活動
［担当授業］スタートアップセミナー，商法 I，商法 II，商法演習 I，国際取引マネジメント論（理工学研究科）
［地域連携活動］
山形地方裁判所委員会委員，山形県消費生活審議会委員，山形県指定管理者選定委員会委員，寒河江市地域づくり推進委員会委員

⑶　研究・教育活動に関するコメント
受託者の権限外行為や善管注意義務違反，忠実義務違反の場合に，受益者が求めることができる救済，つまり信託法の物上代位，損害賠償請求の規定の解釈，適用等についてイングランド法も参照しつつ検討した。この問題は，会社の取締役の責任にも通じるテーマであり，引き続き検討したい。
また，教育に関してはとりわけスタートアップセミナー，演習において学生が自分の見解を積極的，かつ理論的に説明できるよう，口頭発表の仕方，その準備についての指導を重点的に行った。

是川　晴彦
⑴　研究成果
［科研費研究］
• 「大型店撤退後の中心市街地再開発における経済行動分析」，研究成果報告書，平成25年６月。
［受託研究（長井市の第五次総合計画策定に関する研究）］
１）「目標設定と指標作成の意義について」，平成25年７月。
２）「総合計画で捉えるべき目標設定と評価手法及び効果的な実施計画について　その１：基本構想段階で目標設定や指標設定をどのように行うべきか」，平成25年９月。
３）「総合計画で捉えるべき目標設定と評価手法及び効果的な実施計画について　その２：総合計画の実施に求められる形骸化しない実施計画について」，平成26年１月。

⑵　教育，地域連携などの活動
［担当授業］
ミクロ経済学，応用ミクロ経済学，公共経済学，経済数学，ミクロ経済学演習
［地域貢献活動など］
• 山形県（産業構造審議委員会委員，入札監視委員会委員長，指定管理者審査委員会の外部委員）
• 天童市（行政経営計画策定有識者懇談会委員，都市計画マスタープラン策定有識者懇談会委員）
• 長井市行財政改革推進委員会委員長
• きらやか銀行との連携における公開講座の講師（山形駅前大通り商店街振興組合，中心市街地

活性化について）
• 西川町職員研修会における講師（ＴＰＰについて）
• 「山形県民シンポジウム in 天童」におけるコメンター
• 出張講義（米沢東高校，新庄北高校，石巻西高校）
• 高校生の研究室訪問への対応（新庄北高校）

⑶　研究・教育活動に関するコメント

科研費研究（中心市街地活性化に関する研究）が採択された。草津市などの実態調査やヒアリングを行い，中心市街地居住人口の増加や大型店撤退後の跡地利用といった中心市街地活性化政策の課題に関する有益な知識や情報を得ることができた。課税理論の研究では，不完全競争市場を対象とした分析を継続して行った。

教育面では，要点が整理しやすい資料の作成を心がけた。前年度に引き続き，配布資料に記載する練習問題について内容の更新や記載数の増加を行い，受講生が講義内容を復習することに配慮した。また，平成25年度は，「経済数学」を初めて担当した。新規に配布資料を作成する必要があり，資料作成に多く時間を要した。特に，図の作成や現実の経済との関連の説明に力を注いだ。

今野　健一

⑴　研究成果
• 倉持孝司編『歴史から読み解く日本国憲法』（2013年７月・法律文化社）（分担執筆）

⑵　教育，地域連携等の活動
①　担当授業科目
• 学部専門科目：憲法Ⅱ・Ⅲ，憲法演習Ⅱ，総合講座Ⅱ（法律）
• 基盤教育科目：スタートアップセミナー，日本国憲法，教養セミナー
②　地域連携・高大連携活動
山形市情報公開・個人情報保護審査会委員，山形県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員，長井市教育委員会（体罰事件再発防止に関する助言）
（* 長井平和学習会講師：５月，山形県平和センター学習会講師：６月）

⑶　研究，教育活動に関するコメント

研究面では，最初の企画から２年余りを経て，共著書『歴史から読み解く日本国憲法』が刊行された。〈日本の戦後史の大きな流れの中で揺れ動いてきた憲法学説や裁判例をそれぞれの時代的背景の中に位置づけることによって，日本国憲法が果たしてきた歴史的役割を理解できる〉ようになることを目指した憲法入門書である。学会活動では，５月の日本教育法学会総会において選挙により理事職に選任された。

教育面では，２年連続でスタートアップセミナーを担当することとなった。昨年と比べて多少の進歩はあったか。教養セミナーでは，従来と異なる新たな内容（憲法と戦後のえん罪事件）のゼミを実施した。予想よりも少人数だったが，学生の反応は悪くなかった。

社会貢献としては，体罰事件再発防止に関し，長井市教育委員会の求めに応じて助言を行い，同委員会が策定したアクション・プランに掲載するための（簡略な）提言を取りまとめた。

坂本　直樹

⑴　研究成果

①　論文

気候変動による砂浜浸食の地域別被害計測並びに適応政策の検討，佐尾博志・森杉雅史・大野栄治・坂本直樹・中嶌一憲・森杉壽芳，土木学会論集 G（環境），Vol.69, pp.I_249-I_257, 2013. 9．

救急活動における病院収容時間と除細動実施が救命率に与える影響について：ウツタイン統計データによる２方程式プロビット・モデル分析，瀧本太郎・阪田和哉・中嶌一憲・生川雅紀・坂本直樹・阿部雅浩，医療経済研究，Vol.25, pp.50-69, 2014. 1．

東日本大震災における復興投資の地域間再分配効果の計測，林山泰久・中嶌一憲・坂本直樹・阿部雅浩，RIETI Discussion Paper Series, 14-J-004, pp. 1 -42, 2014. 1．

②　学会報告

Asymmetries in the Japan's Revenue-Expenditure Nexus, Takimoto, T. and Sakamoto, N., Singapore Economic Review Conference 2013, 2013. 8．

Mortality Risk Reduction Benefit Measurement by Overlapping Generations Model, Morisugi, H. and Sakamoto, N., European Regional Science Conference 2013, Ordinary Session, 2013. 8．

General Equilibrium Approach Consistent with Travel Cost Method for Economic Evaluation of Beach Erosion by Climate Change, Nakajima, K. and Sakamoto, N., European Regional Science Conference 2013, Ordinary Session, 2013. 8．

⑵　教育，地域連携等の活動

東北文化学園大学総合政策学部（前任）において，財政学，地方財政論などを担当した。また，非常勤講師として東北学院大学経済学部の財政政策論を担当した。

⑶　研究・教育活動に関するコメント

わが国の国家財政に関して歳入と歳出の因果性を研究しており，平成25年度の成果は学会報告が１件である（報告者は共同研究者）。また，費用便益分析に関して，３編の論文が刊行され，２件の学会報告を行った（いずれも報告者は共同研究者）。

澤田　裕治

⑴　研究成果等

〔研究成果〕なし

〔科研調査研究〕海外調査：2014年２月26日～３月15日。イギリスにて科研費研究題目「中世都市ロンドンの裁判と法の法社会史的研究」の海外調査研究。ロンドンを中心に，ソールズベリー，

ウィンチェスター等の現地調査を実施し，併せてロンドン大学のポール・ミッチェル教授，オックスフォード大学のポール・ブランド教授，イーストアングリア大学のニコラス・ヴィンセント教授を訪問・面談し，科研費調査研究及びマグナ・カルタ研究についてディスカッションをした。なお，2014年３月12日に British Library で実施された Magna Carta Project Meeting（ニコラス・ヴィンセント主催，出席者：ポール・ブランド，デイヴィッド・カーペンター，ヘンリー・サマソン，クレア・ブレイ，ヒュー・ドーティー，ソフィー・アンブラー，ジェフリー・フィンチ）にオブザーバーとして特別参加を許され，2015年のマグナ・カルタ800年祭を前にニコラス・ヴィンセント教授を中心として進められているマグナ・カルタ・プロジェクトの研究企画の進行状況を目の当たりにすることができた。

⑵　教育，地域連携等の活動

■平成25年度の担当授業の紹介

〔山形大学における講義・演習等〕

- 基盤教育科目：基礎から考える法学，基礎からの民法
- 専門教育科目：専門基礎演習，西洋法制史，西洋法制史演習，

〔山形県立保健医療大学における講義〕　法学

〔山形県立産業技術短期大学校における講義〕　法学概論

〔山形市立済生館高等看護学校における講義〕　看護関係法令Ⅰ

■地域貢献活動

〔記念行事〕

○第３回安達峰一郎記念世界平和弁論大会〔2013年11月16日。山辺町が生んだ世界的偉人「安達峰一郎」の平和の精神を受け継ぐ弁論大会として山形大学都市・地域学研究所と山辺町が企画した記念行事。中・高生を対象に実施〕の企画・運営。

○最上義光シンポジウム（第１回と第２回）の企画・運営〔６月23日と９月14日〕

〔委員〕

山形大学医学部附属病院医薬品等受託研究審査委員会委員

山形県立保健医療大学倫理委員会委員

山辺町・山形大学連携協定懇談会委員

〔オープン・キャンパス〕人文学部広報委員として「オープン・キャンパス2013年」を企画・運営し大きな成果を得た。

〔ホーム・カミングデー〕人文学部広報委員として「ホーム・カミングデー2013年」を企画・運営し大きな成果を得た。

〔出張講義・進学説明会〕

６月19日　鶴岡中央高等学校　進路ガイダンス

６月22日　青森県三沢高等学校　模擬講義

９月24日　秋田県湯沢高等学校大学訪問　学部説明

11月13日　福島西高等学校　模擬講義

11月22日　栃木県小山高等学校　模擬講義

12月４日　鶴岡中央高等学校　大学等進学説明会

⑶　研究・教育活動に関するコメント

研究では，科研費調査研究及びマグナ・カルタ研究を実施するほか，ブリストル大学ロースクール教授ケン・オリファント著「「ライランズ対フレッチャー事件」とコモン・ローにおける企業責任の生成」，in Helmut Koziol and Babra C. Steininger（eds.）, European Tort Law 2004,（Springer）, pp. 81–120, copyright 2005を研究し，翻訳公表する準備を整えた。

教育では，基盤教育科目において，『対話 Dialogue23』と題するミニコミ誌を毎回発行し，学生同士と教員の相互コミュニケーションにより，講義内容の血肉化を図り，受講者から好評を得た。

下平　裕之

⑴　研究成果

［著書］

- 清水修二・松岡尚敏・下平裕之編『災害復興学入門ー巨大災害と向き合う，あなたへ』山形大学出版会，2013. 9．（編集および序論を担当）

［論文］

- 下平裕之・福田進治「古典派経済学の普及過程に関するテキストマイニング分析ーリカード，ミル，マーティノーを中心にー」『人文社会論叢（社会科学編）』第31号，2014年２月．

［学会報告］

- 「経済学史研究におけるテキストマイニング分析の導入：ケインズ『一般理論』と書評の関係」（経済学史学会第77回大会，2013年５月25日，関西大学）
- "Popularization of Classical Economics: Text-mining Analysis on David Ricardo, James Mill and Harriet Martineau", Sendai Economic Thought Seminar, Tohoku University, March 30 th, 2014.

［研究会報告］

- テキストマイニング手法の経済学史への適用に関する報告（第42～45回経済思想研究会，東北大学他）

⑵　教育・地域連携等の活動

- 教育活動

山形大学における担当授業：

［学部］経済思想，経済学史，経済学史演習，地域づくり特別演習（夏季集中），公務員講座（講義，小論文指導）

［基盤教育］エコスタジアムプロジェクトを考えよう，最上川の自然と文化，震災復興学入門

非常勤：羽陽短期大学（経済学）

- 地域連携活動

高校での出張講義等：上山明新館高校

山形財務事務所財務モニター

山形大学まちづくり研究所・山形仙台圏交流研究会への参加
山形大学東北創生研究所・社会創生研究部門長
ながい市民未来塾講師
市町村アカデミーにおける講演
災害復興市民講座（仙台市）における講演
市民向け地域づくり講演会（真室川町，山形市）

⑶　研究・教育活動に関するコメント

研究活動については科研費研究テーマ（テキストマイニング手法の経済学史への適用）に関わる論文を刊行するとともに，学会全国大会および国際セミナーにおいて報告を行った。また研究会において引き続きテキストマイニングに関する共同研究を継続した。

教育・地域連携活動については，東北創生研究所の研究展開を進めた他，福島大学・宮城教育大学と連携した震災復興に関する基盤教育科目のオーガナイザーを務めた。また３大学連携による災害復興学テキストをまとめるに当たり，編者および分担執筆者として参加した。

尻無濱　芳崇

⑴　研究成果

【論文】

- 尻無濱芳崇（2013）「介護施設経営法人の業績管理システム：企業と社会福祉法人の比較」『原価計算研究』第37巻第１号，pp.76-85.
- 荒井耕・尻無濱芳崇（2013）「医療法人における管理会計実践の法人規模別状況」『原価計算研究』第37巻第２号，pp.55-65.

【学会報告】

- Shirinashihama, Y.（2013）, Performance Management Systems in Nursing Homes: Comparing For-profit Organizations and Social Welfare Corporations, European Accounting Association, 36th Annual Congress（2013/05/07）.
- 尻無濱芳崇（2013）「介護事業における組織の公益志向と業績測定尺度の利用」日本管理会計学会2013年度第２回フォーラム（７月13日報告）.
- 岡田幸彦・尻無濱芳崇（2013）「原価計算・原価管理と業績は本当に関係するのか？：サービス企業への継続調査による追試」原価計算研究学会第39回全国大会（８月30日報告）.
- 荒井耕・尻無濱芳崇・岡田幸彦（2013）「医療法人における責任センター別損益業績管理による財務業績改善に関する検証―非営利組織での管理会計の有効性評価―」日本会計研究学会第72回全国大会（９月16日報告）.
- 尻無濱芳崇（2014）「社会福祉法人における管理会計情報の活用」第42回京都管理会計研究会（２月８日報告）.

⑵　教育・地域連携等の活動

• 教育活動

１年生・２年生のゼミ教育（前任校）

• 地域連携活動

特になし

⑶　教育・研究活動に関するコメント

研究活動では，介護事業を対象として営利企業と非営利組織の管理会計の違いを明らかにした。また，病院における管理会計に関する研究を積極的に行った。論文２本，学会報告５回と積極的に研究を学外に発表することができたと思う。

教育活動については前任校で１年・２年次のゼミ教育を行った。初めての教育活動であったため，内容を詰め込みすぎた，難易度が高すぎたなど反省点が多かった。

杉野　誠

⑴　研究成果

Sugino, M. and T. H. Arimura“The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries” Energy Policy, Volume 62, 1254–1267.

Sugino, M., T.H. Arimura, K. Iwata, and M. Morita“Economic Impacts and Emissions Reduction Effects of JCM: Analysis using a Disaggregated Input–Output Table” 早稲田大学現代政治経済研究所 Working Paper Series, No.E1313

⑵　教育・地域連携等の活動

担当科目（早稲田大学商学部　専任）

専門英書講読（前期），専門英書講読（後期）英書文献研究（大学院），計量分析（大学院）

地域連携など

平成25年度新座市民総合大学　第４回公開講座担当　「環境学講座 -環境政策②-　地球温暖化対策税と家庭の負担」（2013年７月20日）

三菱商事（株）寄附講座　上智大学「地球環境学 II」 第２回講座担当　「地球温暖化対策の企業と家計への影響」（2013年10月10日）

⑶　研究・教育活動に関するコメント

本学着任前のため，貢献ができなかった。今後，精力的に研究・教育・地域連携など幅広く取り組んで行きたい。

鈴木 明宏

⑴　研究成果

• 地方政府間の距離が財政調整に対する態度に与える影響－独裁者ゲーム実験からの示唆－，Tezukayama RIEB Discussion Paper Series No. 7, 2013.

• Non-Monetary Punishment に対する互恵性の存在とその影響－繰り返し一方的最後通牒ゲーム実験による検証－, 理論と方法 28⑵ , 203-219, 2013.

⑵ 教育，地域連携等の活動

【担当講義】

ゲーム理論，産業組織論，意思決定論演習，現代の経済理論（基幹科目（工学部フレックスコース)），産業組織論（東北学院大学非常勤）

【地域連携等】

出張講義（山形県立谷地高等学校）

仙山交流研究会メンバー，まちづくり研究所員

⑶ 研究・教育活動に関するコメント

研究については，科研費が本来最終年度であったが，携帯電話による経済実験システムの開発が難航し，１年間延長することになった。また，教育については東北学院大学で新たに教員を採用するまで産業組織論の講義を新たに引き受けた。本学での講義と異なり４単位講義のため，講義ノートを１から作製した。本学での講義に活かせる部分は反映させていきたい。

砂田　洋志

⑴ 研究成果

• “The Oxford Handbook of Bayesian Econometrics ”,Oxford University Press., 2011, J.Geweke, G.Koop, H.van Dijk edited の第７章 ‘Bayesian Macroeconometrics’ の翻訳（７．１－７．４は香川大学経済学部姚峰教授と共訳，７．５－７．７は単独で翻訳）:『ベイジアン計量経済学ハンドブック』，2013，朝倉書店 .

⑵ 教育，地域連携等の活動

担当授業

計量経済学，統計学，専門演習（学部），経済数学（前期）

地域連携

山形県市町村職員共済組合と同互助会の学識経験監事として監事業務を行った。

山形・仙台圏交流研究会へ参加した。

山形県統計利用アドバイザーとして県庁統計企画課と連携して活動した。

山形県職員研修講師と講義をした。

山形県経済動向研究会に同会の構成員として参加した。

⑶ 研究・教育活動に関するコメント

計量経済学関係の研究では，依頼されたハンドブックシリーズを翻訳した。

中心市街地活性化の研究では，大阪市で開催された研究会と視察へ参加した。

デマンド交通の研究では，三重県玉城町，栃木県芳賀町の事例を視察し，報告書にまとめた。

教育関係では，今年度から経済数学（前期）を初めて担当した。講義では講義ノートを配布するなどして，学生の理解を深めることに力を注いだ。

髙倉　新喜

⑴　研究成果

- 後藤昭・白取祐司編『新・コンメンタール刑事訴訟法［第２版］』（日本評論社，2013年）123－146頁［髙倉新喜執筆］，216－261頁［髙倉新喜執筆］，900－946頁［髙倉新喜執筆］　（ただし，223－224頁，　239－241頁および244－246頁は除く。）
- 髙倉新喜「自白事件を簡易迅速に処理するための手続の在り方」『刑事法ジャーナル』37号（2013年）49－53頁
- 髙倉新喜「利益再審における確定再審開始決定の拘束力」高橋則夫ほか編『曽根威彦先生・田口守一先生古稀祝賀論文集［下巻］』（成文堂，2014年）851－866頁

⑵　教育，地域連携等の活動

- 専門科目：刑事訴訟法
  刑事法基礎
  刑事訴訟法演習
  法と裁判
  総合講座Ⅱ（刑事法３・刑事法４）
- 基盤教育：スタートアップセミナー
- 地域連携
  出張講義：宮城県宮城第一高校（テーマ：「法律学って，何やるの？」）
  研究室訪問受入れ：宮城県仙台向山高校（平成25年度アカデミックインターンシップ）
  山形県介護保険審査会委員
  山形県精神医療審査会委員
  山形地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員
  山形県弁護士会綱紀委員会予備委員
  取材協力：読売新聞（起訴状における被害者の匿名記載について）
  山形テレビ（裁判員制度について）

⑶　研究・教育活動に関するコメント

研究活動においては，法制審議会「新時代の刑事司法制度特別部会」で論点の一つとされた「自白事件を簡易迅速に処理するための手続の在り方」についての論文を刑事法ジャーナルに掲載できた。教育活動においては，刑事訴訟法演習での現地学習として置賜学院および山形刑務所の見学を実施することができた。

髙橋　和

⑴　研究成果

- 著書　髙橋和・中村唯史・山崎彰編著『映像の中の冷戦後世界―ロシア・ドイツ・東欧研究とフィルム・アーカイブ』山形大学出版会，2013年10月
- 研究ノート「人の国際移動をめぐる研究の動向―ヨーロッパにおける人の移動の自由と管理を中心にー」『山形大学法政論叢』第58･59合併号，平成26年３月，43-69頁。
- EUSI コメンタリー「ユーロリージョンの拡大は何を意味するか？」
  EUSI メールマガジン Vol.42　（2014年３月10日）http://eusi.jp/
- 学会報告
  「EU/ ロシア境界領域のサブリージョナリズム」
  日本国際政治学会2013年度研究大会，2013年10月27日
  新潟朱鷺メッセ
- 招待講演
  津田塾大学国際関係研究所・EUSI 共同開催研究懇談会
  「『変貌する権力政治と抵抗』における国際関係学の射程」2013年11月21日

⑵　教育，地域連携等の活動

（教育）

- 専門科目　　国際関係論，国際公共政策，地域の国際化，国際関係論演習　を担当
- 大学院　　国際関係特論，　国際関係特別研究を担当

（地域連携等）

- 出張講義　　山形中央高等学校（12月11日）
- 山形県労働委員会公益委員
- 山形労働局　最低賃金審議会公益委員
- 山形県公立大学法人評価委員
- 山形県障がい者施策推進協議会学識委員など

⑶　研究・教育活動に関するコメント

平成25年度はサバティカルであったために，研究活動を充実させることができた。

教育面では，前年度に続き，クリッカーの利用によるアクティブラーニングに寄与するよう試みた。

大学院の学生に対して，修士論文の指導を行った。その過程で，「北東アジア学会」における学会報告を行うことができた。さらに修士論文は査読を経て『法政論叢』に掲載することができた。

高橋　良彰

⑴　研究成果

「明治三一年戸籍法における身分登記規定の意義」2013年８月『日本社会と市民法学：清水誠先生追悼論集』日本評論社（pp.461-478 ）

「民法商法施行取調委員会の審議経過」2014年３月松山大学法学部松大 GP 推進委員会編『「シンポジウム『民法典論争資料集』（復刻増補版）の現代的意義』（pp.133–141）

⑵　教育，地域連携等の活動

金融法入門（前期），私法入門（前期），親族法（後期），法経政策専門基礎演習（前期），教養教育（後期），民法演習 III（通年）。地元での活動では無かったが，研究成果の後者は，2013年11月９日に松山大学法学部主催の「シンポ ジウム『民法典論争資料集』（復刻増補版）の現代的意義」におけるフロア発言 を活字化したもので，同シンポジュウムに参加する機会をえた。

⑶　研究・教育活動に関するコメント

研究成果として挙げた松山大学でのシンポジュウムは，民法・法制史分野から高名な研究者が集まったもので，フロア発言ながら時間を割いていただいたことは貴重な経験となった。その後，関連する論稿を発表し，教育でもその成果を還元したいと考えている。なお，進路指導委員会の委員としてインターンシップ担当となったが，その事前事後レポートの添削に携わるとともに，全学連絡会議の委員となった。

田北　俊昭

⑴　研究成果

• 研究発表

「地域ブランド経済・経営学の重要性とその適用について」，夏季地域科学セミナー，東北大学川渡セミナーハウス（上智大・筑波大・東京外国語大・東北大・日本大・弘前大・明海大・山形大）

• 外部資金

文部科学省科学研究費の挑戦的萌芽的研究「地域ブランドに関する都市・地域学的研究」

⑵　教育，地域連携等の活動

◯担当科目

都市経済と情報（１年），基礎演習（２年），地域科学（２年），経済情報科学（２年後期），経済情報科学（３年前期），経済情報科学演習（３・４年），社会経済システム特論・特別演習と特別研究（大学院）

◯社会連携について

「地域ブランドに関する都市・地域学的研究」に関する実践的な活動として，上山・米沢に続いて，今年で３年連続して企画立案（共催）を行った。研究成果をもとに地方創生のメカニズムを構築する農林水産省，山形県，地方自治体と連携した。地域ブランド構築に関する実践版である。山形県の製糸会社は，万国博覧会で褒章を受賞するほどの実績があり，明治から現在（現在は１社残る）に至るまで実績を積み上げている。県内の高度な技術を有する繊維業の産業集積は国内有数であり，米沢は世界のテキスタイルの中心地のひとつである。シルクシンポジウムについては，国内のシルク・繊維，和洋ファッション業界の発展を目的として，山形県蚕糸業会・大日本蚕糸会，全国織物産地買継商業組合連合会の業界団体と連携し，農林水産省大臣秘書官・補佐官

ないし山形県担当部局代表者の派遣を行っていただいた。
◯シルクシンポジウム in やまがた2013
「女性の美しさと羽前やまがたの絹ファッションと食・まちづくりー世界最高級の羽前エキストラシルク文化を生かした米沢織・鶴岡織等と地域ブランド戦略」，千歳館　（主催：米沢織物商業協同組合・鶴岡織物工業協同組合・一般社団法人山形県蚕糸業会　山形大田北研究室・地域ブランド経済研究所準備室　共催：全国織物産地買継商業組合連合会　協力：きもの de やまがた実行委員会・山形商工会議所・山形県観光物産協会・大沼・千歳山萬松寺）
・山形のシルク文化を世界ブランド化するためのアクションになるように，各階の代表（五十嵐希（ミスワールド2012日本代表）さん，矢嶋孝敏（きものやまと会長））を招くとともに，国や県の担当者（丹野和彦（山形県庁商工労働観光部商業・まちづくり振興課長）白井正人（農林水産省生産局農産部地域作物課地域対策官））を交えて，県内外のシルク関係者と今後の方向性について議論を行った。併せて，１）山形の料亭文化と食を楽しむ～「あこや姫」の萬松寺と都の憧れ「日本一のあこや松」（山形），２）「やまがたのシルク恋伝説～糠福大明神から鶴の恩返し・白竜湖恋伝説」（上山・南陽）を企画した。県内芸術文化関係者，山形大学教育文化学部音楽科，南陽市夕鶴の里記念館各種商工業者との協力のもとすすめられた。地域ブランド事業についての産学連携事業において，シルクシンポジウム in やまがた2013の開催について，山形新聞社（2013年９月）で取り上げられた。

⑶　研究・教育活動に関するコメント
・地域ブランドに関する研究活動（理論と実証分析）に加えて，実践的な地域創生プログラムを実施した。

立松　潔
⑴　研究成果
◆論文
「アベノミクスと地域経済」（『山形県の社会経済･2013年 年報第26号』山形県経済社会研究所発行，2013年11月20日，14-19頁
◆テキスト（共著）
山形大学基盤教育院編集『なさねば成らぬ！新版』山形大学出版会，2014年２月28日

⑵　教育，地域貢献等の活動
■担当授業の紹介
◯基盤教育科目
　スタートアップセミナー
「Ｊリーグと地域社会」（教養セミナー）
◯専門教育科目
「日本経済論」前・後期
「地域経済論」後期

「日本経済論演習」前・後期（卒論指導も含む）
○オムニバス科目（他の教員と共同で担当）の専門教育科目
「公務員対策セミナー」講義，論作文演習担当（計３回）
○大学院
「日本産業構造分析特論Ⅰ」
「日本産業構造分析特別演習」
「特別研究Ⅱ」
■地域貢献活動
○審議会委員等
　山形県労働委員会（会長）
　山形市地産地消の店認定委員会（委員長）
寒河江市地域づくり推進委員会（委員長）
寒河江市地域振興審議会（会長）
山形市国民健康保険運営協議会委員
○出張講義等：
山形県立山形中央高校　2013年12月11日（水）
　テーマ：ドルと円―おカネの秘密

⑶　研究・教育活動に関するコメント
　平成25年度はアベノミクスの地域経済への影響についての研究に取り組み，山形県経済社会研究所の年報にその一部を発表することができた。またその成果を担当する授業（日本経済論，地域経済論）にも盛り込んだ。また，スタートアップセミナーのガイドブック『なさねば成らぬ！新版』の編集と執筆にも携わり，平成26年度の授業に間に合うよう発行することができた。大学院では学位論文について学生１名の正指導教員として修士論文等の指導を行った。

溜川　健一

⑴　研究成果
　［論文］
　“How Does the No-Ponzi Game Condition Work in an Optimal Consumption Problem?,"Cogent Economics & Finance, Vol. 1 , pp.42-44.
　「動学的確率的一般均衡モデルの動向：モデル構築を中心に」福島大学紀要『商学論集』第81巻第３号，pp. 43-60. 福田慎氏（福島大学）との共著.

⑵　教育 , 地域連携等の活動
　特になし。

⑶　研究・教育活動に関するコメント
　今年度以降，教育，地域連携および研究に精を出し，山形大学に貢献できるよう頑張ります。

戸室　健作

⑴　研究成果

［著書］

- 黒田兼一・小越洋之助編『公務員改革と自治体職員―NPM の源流・イギリスと日本』自治体研究社，2014年３月30日
  戸室担当：「自治体委託労働者の労働実態と労働組合の取り組み」120–130頁，「イギリス地方自治体職場における間接雇用の現況」194–203頁

［論文］

- 「イギリス地方自治体職場における間接雇用の現況」『季刊自治と分権』53号, 2013年10月10日, 95–102頁。
- 「連合山形寄付講座の創設―山形大学「労働と生活」―」『山形県の社会経済・2013年 年報第26号』山形県経済社会研究所，2013年11月30日，38–48頁。

［その他］

- 連合山形『寄付講座講義録2012』，2013年
  戸室担当：「まとめ「労働組合と協同組合を取り巻く社会」」96–105頁。

⑵　教育，地域連携等の活動

［担当授業科目］

- 専門教育科目：社会政策論，社会保障論，労働と生活，社会政策論演習，卒業論文指導，法経政策総合講座Ⅲ（オムニバス１回担当）
- 基盤教育：労働問題を考える（教養セミナー）
- 大学院：社会政策特論Ⅱ
- その他：公務員対策講座の講義と論作文演習

［学会活動］

- 日本労働社会学会幹事（研究活動担当，労働調査等プロジェクト委員会担当）

［地域連携等］

- 連合山形寄付講座「労働と生活」担当
- 自治労連・地方自治問題研究機構「人事・給与研究会」委員
- 山形大学職員組合人文学部支部会計監査委員
- 秋田県立本荘高校での出張講義。講義内容は「非正社員増大の実態と背景」（2013年７月11日 11:20–12:30と13:40–14:50の２回講義する）
- 記事「沖縄の貧困率 全国最悪」『沖縄タイムス』2013年12月14日31面
- 記事「貧困率29% 全国最悪」『琉球新報』2013年12月15日１面，「低賃金はびこる」同28面，「連鎖 出口見えず」同29面
- 記事「社説 貧困率最悪 雇用を改善し悪循環断て」『琉球新報』2013年12月17日２面

⑶　研究・教育活動に関するコメント

地方自治体が外部委託した職場の労働状況や労働組合の取り組みについてインタビュー調査を

重ね，共著本にまとめることができた。また，当該書籍の戸室執筆部分に加筆した調査報告を，2014年３月に山形大紀要に投稿した。

中島　宏

⑴　研究成果

［著書］

- 共訳書：山元一・只野雅人編訳『フランス憲政学の動向　法と政治の間』（慶應大学出版会，2013年８月）：パトリック・ヴァクスマン「公的自由の制限を可能にする新たな技術――スペクタクルの社会における自由の保護について」281～306頁
- 分担執筆：志田陽子編『映画で学ぶ憲法』（法律文化社，2014年３月）：①「突きつけられる日本の選挙の実態」42～45頁，②「『総意』として維持される天皇の『不自由』」46～49頁，③「『曇りなき眼で見定める』―ハンセン病と差別」152～155頁

［翻訳］

- ミシェル・ヴィヴィオルカ「倫理と人権：政治への回帰？」山形大学法政論叢57号（2013年11月）１～28頁

［その他］

- 「フランス宗教法文献目録（４）」宗教法32号（2013年10月）293～308頁
- 「2013年学界回顧・フランス法」法律時報85巻13号（2013年12月）306～308頁

［研究報告］

- 「東大ポポロ事件」憲法判例×歴史研究会（2013年11月29日，慶應義塾大学三田キャンパス）

⑵　教育，地域連携等の活動

［教育］

- 専門：憲法Ⅰ，比較憲法，憲法演習Ⅰ，公務員対策セミナー
- 基盤：スタートアップセミナー，日本国憲法
- 大学院：人権論特論Ⅱ，人権論特別演習
- 非常勤：東北文教大学「くらしと憲法」，東北文教大学短期大学部「日本国憲法」
- 学生表彰：学長表彰（顧問担当の模擬裁判実行委員会），学部表彰（演習担当の学生）

［地域連携］

- 審議会：山形市個人情報保護制度運営審議会副会長，天童市情報公開・個人情報保護審査会委員
- 講演会：①第20回憲法を考える山形集会「今解かれようとしている３つの縛り――立憲主義・硬性憲法・平和主義――」（2013年５月３日，遊学館），②山形いずみ会教養セミナー「日本国憲法について考える」（同年７月22日，山形国際ホテル），③山形県教職員組合山形地区支部学習会「最近の憲法改正論議の問題点」（同年７月26日，山形国際ホテル），④山形革新懇学習会「特定秘密保護法の問題点」（2014年２月８日，霞城セントラル）
- 取材協力：YBC 山形放送2013年７月１日 YBC news every.「ネット選挙解禁　若者たちは」，読売新聞2013年７月28日山形版「検証13参院選　ネット選挙効果は？」

・出張講義：福島県立福島南高校（2013年10月10日），山形県立楯岡高校（2014年２月19日）

⑶　研究・教育活動に関するコメント

様々な仕事をすることができた。昨年度来翻訳の依頼が相次ぎ，さながら「翻訳責め」の様相を呈したが大変勉強になった。また，憲法改正論議の活発化や参議院選挙の影響で，講演依頼や取材も相次いだ。さらに，担当する団体や学生が表彰を受けたことも有難かった。感謝申し上げたい。

西岡　正樹

⑴　研究成果

「公務執行妨害罪における『暴行』の程度」別冊ジュリスト221号『刑法判例百選Ⅱ〔第７版〕』（2014年）232－233頁

⑵　教育・地域連携等の活動

〔教育〕

担当授業科目

専門教育：刑事法基礎（刑法担当），総合講座Ⅱ（法律），刑法Ⅰ，刑法Ⅱ，刑法演習Ⅱ

〔地域連携等〕出張講義　福島県立福島東高等学校

⑶　研究・教育活動に関するコメント

前年度同様に諸先生方の協力の下で教育・研究活動に専心することができた。教育活動としては，刑法演習Ⅱにおいて置賜学院への施設見学を行った。研究活動としては，専門とする刑事責任論に関して，科研費補助金を得て，累犯加重規定と責任概念に関する研究を継続して行った。

西平　直史

⑴　研究成果

西平：プル方式を用いたサプライチェーンの解析と一改良法，山形大学人文学部研究年報，第11号，pp.59–67（2014）

⑵　教育，地域連携等の活動

教育　学部　経営システム，応用情報処理，情報・システム論演習

基盤教育　情報処理，人間社会と観光経営

地域連携活動　山形仙台圏交流研究会

⑶　研究・教育活動に関するコメント

研究面では，従来から進めているサプライチェーンシステムのむだ時間システムを使った解析に関する研究を行い，成果の一部を論文として発表した。

教育面では，学部と基盤教育の授業を担当した。また，大学院生の副指導教員として論文指導

も行った。

地域連携活動は山形仙台圏交流研究会のメンバーとして参画した。

藤田　稔

⑴　研究成果

「電子書籍の販売をめぐる競争法上の問題の考察」『競争法の理論と課題―独占禁止法・知的財産法の最前線　根岸哲先生古稀祝賀』（有斐閣 2013年９月）649－664頁

⑵　教育，地域連携等の活動

「経済法１」「知的財産法」「経済法演習」「法的なものの考え方と知的財産権（法学）」「専門基礎演習」と「総合講座１（公共政策）」の１コマを担当。(その他，東北学院大学で，非常勤講師を務めた。)

山形労働局で個別労働紛争調整委員として，労働紛争の解決のあっせんを行った。

独占禁止政策協力委員として，独占禁止政策のあり方について，公正取引委員会に対して，意見を述べた。

山形県弁護士会綱紀委員会委員として，弁護士倫理の維持に協力した。

日本経済法学会理事として，学会の運営に従事した。

東北経済法研究会で座長として研究を行った。

⑶　研究・教育活動に関するコメント

特にない。

洪　慈乙

⑴　研究成果

- 洪　慈乙・内藤修 広共著「公的主体の会計を包摂しうる会計理論の構築をめざして――国立大学法人会計を手掛かりとして――」，東北大学経済学会研究年 報『経済学』Vol. 74 No. ２，pp. １-15，2014年３月。

⑵　教育，地域連携等の活動

- 学部担当授業
  - 専門科目：会計学，財務会計，会計学演習，専門基礎演習
- 地域連携
  - 観光庁　未来を切り拓く「次世代旅館・ホテル経営者育成プログラム」の会計部門担当講師
  - まちづくり研究会・関西学院大学での研究会参加

松本　邦彦

⑴　研究成果

なし。

⑵　教育，地域連携等の活動

通常の講義・演習については略しまして…。

○昨年度までと同様，人間文化学科の山崎彰先生，さらに今年からは法経政策学科の山本匡毅先生とともに「地域づくり特別演習（二）」を担当し，学生の研修にあたっては山形市内の市民団体に多大な御協力をいただきました。

○８月３日（土）山形大学人文学部オープンキャンパス／模擬講義「日本のこれからのために昔のことを考える：日本の外交と戦争」。

○８月14日，20日，宮城県立向山高校の2013年度アカデミックインターンシップ「国際関係」班を受入れ。山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーを訪問。

○９月19日（木）山形大学人文学部にて，福島県立原町高校の生徒の皆さんに模擬講義「辺境から世界に挑戦して：近代日本の外交史から未来を考える」

⑶　研究・教育活動に関するコメント

2012年度から三ヶ年計画の科研費をいただき，第一年度は主に戦前までの在日コリアンに対する「協和事業」について，第二年度の2013年度は現代の地方自治体の施策調査とおこなってきましたが，残念ながら発表にまで至りませんでした。

丸山　政己

⑴　研究成果

- （論文）「国連安全保障理事会と国際法の「立憲化」―法的コントロールの問題を中心に―」『世界法年報』第33号（2014年３月）65–93頁
- （判例評釈）「カディ事件　欧州司法裁判所2008年９月３日大法廷判決」杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例50【第２版】』（2014年３月）178–181頁
- （研究報告）「国連安全保障理事会と国際法の「立憲化」―法的コントロールの問題を中心に」2013年世界法学会研究大会，2013年５月（於　帝京大学板橋キャンパス）

⑵　教育，地域連携等の活動

- 担当科目：国際法，国際組織法，国際法演習，総合講座Ⅰ（公共政策），スタートアップセミナー，国際法入門（基盤）
- 人文学部教育委員会委員（教務（正）），山形大学職員組合人文支部執行役員（会計），山形大学法学会運営委員（会計）
- 福島県立喜多方高校出張講義「グローバル・イシューズと国際連合」（2013年10月）

⑶　研究・教育活動に関するコメント

平成25年度は，紛うことなき激動の年であった。「ピンチ・ヒッター」として急きょ務めた法経政策学科教務委員の仕事は，予想以上に大変であった。無事に任を全うできたのは，星野学科長をはじめとする大半の先生方の暖かい支援と協力があったからに他ならない。改めて感謝申し上げます。また私事ではあるが，４月に母を病で亡くした。教務をしながら山形と福岡を何度も往復するのはなかなか骨が折れたが，ご多分に漏れず「人は死んでからその価値を思い知らされる」を痛感する一年であった。今，まがりなりにも研究者の末席に加わることができているのは，まさに母あったればこそなのである。

研究面でも，世界法学会（５月！）で報告させていただき，『世界法年報』に論文として（出来はさておき）掲載することができた。また，『国際法基本判例50』という定評ある判例テキストの第２版として「カディ事件」を執筆した。カディ事件を改めて検討することで研究面での新たな発見があったし，国際法の初学者に複雑で難解な事件の概要と意義をどうすれば分かりやすく理解してもらえるかを考える貴重な経験であった（それに成功しているかどうかはともかくとして…）。

安田　均

⑴　研究成果

• 論文

「第２期吉村県政への期待」『山形県の社会経済・2013年』

• 研究会報告

「複雑労働について」SGCIME 春合宿（八王子セミナーハウス，14/ ３/29）

⑵　教育，地域連携等の活動

A. 授業

経済原論（４単位），市場と組織（２単位），専門基礎演習（２単位），「（基幹科目）市場と人間の生活」（２単位），「（教養セミナー）格差を考える」，学部共通科目「地域社会論」（２単位，非常勤講師の紹介，毎回のレポート及び単位評価担当）（別に大学院担当１名）。

公務員講座（春休み，講義１コマ，論作文２コマ）。

宮城学院女子大学「経済社会特論」（２単位）。

B. 委員会活動

（基盤教育）授業改善作業部会（12. 4－）。基幹科目ディレクター（13. 4－）

C. 地域連携

• 出張講義

福島県立橘高等学校（10/28），山形県立新庄北高等学校（11/11），宮城県立仙台東高等学校（'14, ２/13）

• 三大学合同ゼミ（講師として参加）

「教育の崩壊--苦境に立つ教師--を考える」（東北学院大学，７/13）。

「それをお金で買いますか⁉」（宮城学院女子大学 ,11/30）

・解説記事「経済指標の解説」（連合山形『春季生活闘争方針』,2014年２月）。・年報報告会「吉村県政第２期目への期待」（大手門パルズ ,12/18）
・人文学部と山形県村山総合支庁との共同研究「山形・仙台圏交流研究会」に毎月参加。

⑶　研究・教育活動に関するコメント

最近，講義では，オンラインでなく教室での復習，確認に時間を割くよう務めている。

学外団体から要請される経済指標等の解説記事の執筆，あるいは共同調査への参加は研究の間口を広げてくれるので，時間の許す限り引受けたい。

山口　昌樹

⑴　研究成果

論文

・「マレーシアの債券市場と外国銀行－競争構造の実証分析」『証券経済研究』，第83号，pp.91-107
・「インドネシアにおけるインフラ金融と邦銀 －ネットワーク分析による観察－」『東北経済学会誌』，第66巻

研究ノート

・「中国における邦銀の貸出行動－シンジケートローンの実証分析－」『中国経済研究』第10巻第２号，pp.44-60

寄稿

・「取引先の海外進出支援が本格化～機能を拡充する地域金融機関～」『金融ジャーナル』2013年４月号 , pp.82-85
・「アジアの成長と邦銀の関わり」『2014年版金融時事用語集』金融ジャーナル社

その他

・「タイにおける関連融資」山形大学人文学部法経政策学科 Discussion Paper Series, 2013-E01

学会報告

・「インドネシアにおけるインフラ金融と邦銀」日本金融学会2013年秋季大会，名古屋大学，2013年９月21日

研究会報告

・「銀行同盟－論点整理」九州大学経済学研究院，リサーチワークショップ，2013年７月13日
・「金融分断と信用緩和」欧州金融研究会，山形大学，2013年９月２日

講演

・「地方銀行の国際業務－第三の矢」アジア太平洋研究所，2014年２月27日

⑵　教育，地域貢献等の活動

教育

・担当授業：スタートアップセミナー，金融論，国際金融論，証券経済論，国際金融論演習
・地域貢献

• 東北税理士会山形支部の集中講義「為替相場と日本経済」
• 出前講義　新庄南高校　2013年９月19日　「為替相場と日本経済」

⑶　研究・教育活動に関するコメント
腰を据えて研究に打ち込むことができた。人文学部の教職員の方々に感謝したい。

山本　匡毅

⑴　研究成果
【論文等】
• 山本匡毅（2013）「日本における航空機産業の動向－地域中小産業のネットワーク化と行政の支援がポイント－」『Suruga Institute Report』第123号，pp.22-25。
• 山本匡毅（2013）「中小企業のための医療機器産業への展開法―一般産業部品から医療機器部品への展開―」『アクセス埼玉』第200号，pp. １－６。
• 山本匡毅（2014）「地域の資金的循環と産業復興―石巻市を事例として―」，一般財団法人統計研究会『「震災復興に関する地域経済的アプローチ」調査報告書』pp. ４-13。
• 山本匡毅（2014）「中堅・中小企業の医療機器産業等への参入方法」，機械振興協会経済研究所『医療機器産業におけるサプライヤーシステム』pp.118-124。
【学会発表】
• 山本匡毅「航空機産業の拡大と新規参入に向けた企業間連携」産業学会第51回全国研究会（2013年６月８日，専修大学神田校舎）

⑵　教育・地域連携等の活動
【教育】
（学部）地域政策論，地域政策論演習，地域づくり特別演習（一），地域づくり特別演習（二），公務員対策セミナー（論作文）
（基盤教育）地域と産業（経済学），スタートアップセミナー
【地域連携等】
〔委員・研究員等〕
• 一般財団法人機械振興協会経済研究所「医療機器産業におけるサプライヤーシステムに関する調査研究委員会」委員（2013年６月～2014年３月）
• 法政大学比較経済研究所兼任研究員（2013年４月～2014年３月）
• 公益財団法人川崎市産業振興財団新産業政策研究所客員研究員（2013年４月～現在）
• 山形大学東北創生研究所研究員（2013年６月～現在）
• 山形大学山形・仙台交流圏研究会への参加（2013年４月～現在）
〔講演〕
• 岩手県立大学総合政策学部アイーナキャンパス講座「医療機器産業の取引関係と産業振興―需要構造アプローチからの示唆―」（2013年12月16日，岩手県立大学アイーナキャンパス）
• 山口県医療･福祉関連ものづくりセミナー「期待される医療機器産業と機械製造業の拡大戦略」

（2014年２月10日，セントコア山口）

• 村山インダストリー倶楽部医療機器部会（山形県村山総合支庁）第４回医療機器産業参入セミナー「中小企業における医療機器参入戦略」（2014年２月20日，村山総合支庁）

⑶　研究・教育活動に関するコメント

着任一年目であったことから，山形県及び東北地方の特性を理解することに力点を置きつつ，教育・研究・地域連携等を行った。特に学生教育と地域貢献に注力した。

「山形大学人文学部研究年報」投稿規程

1　投稿資格

「山形大学人文学部研究年報」に投稿の資格を有するのは、以下の者とする。

(1) 山形大学人文学部の教員（教授、准教授、講師、助教、外国人教師）

(2) 山形大学大学院社会文化システム研究科学生（指導教員の推薦ある者）

また、

(3) 本学部教員以外の者との共同研究についても、応募を認めることがある。

(4) 山形大学人文学部もしくは山形大学大学院社会文化システム研究科の主催で開催された講演会の原稿も掲載可とするが、原稿依頼および原稿のとりまとめについては当該の講演会を担当した本学教員の責任においておこなう。

2　原稿の種類

(1) 原稿の種類は「論文」「研究ノート」「資料紹介」「翻訳」「判例評釈」「書評」「講演」その他学術研究に資すると判断されるものとする。

(2) これら以外に、本学部教員の研究活動に関する報告等を掲載する。

3　原稿枚数

(1) 原稿は、各号原則として一人一編までとするが、2 に定める分類項目を異にする場合には複数掲載を認める場合がある。

(2)「論文」「研究ノート」「資料紹介」「翻訳」「講演」は、原則として400 字詰め原稿用紙に換算して100 枚以内とする。

(3)「判例評釈」「書評」については、原則として400 字詰め原稿用紙に換算して30 枚以内とする。

4　書式

刷り上がりの版型はＢ５版とする。なお、以下に記載のない書式の詳細については、山形大学紀要の書式に準ずるものとする。

(1) 原稿は、縦書きもしくは横書きとする。縦書きの場合は二段組みとする。

(2) 横書きの場合は裏表紙から始める。

(3) 外国語論文原稿の投稿も認める。

(4) 原稿は原則としてワープロで作成し、使用したワープロ・ソフト名を明記した電子ファイル（フロッピー・ディスクなど）とプリントアウトしたもの２部（１部は所属・氏名を記載しない）を提出する。

(5) 日本語（外国語）の場合は外国語（日本語）のレジュメを付ける。その枚数も上記の原稿

枚数に含める。投稿者は、当該言語ネイティブまたは外国語教育担当教員によるチェックを受けたうえで、外国語レジュメを編集委員会に提出するものとする。ただし、当該言語ネイティブまたは外国語担当教員に依頼することが困難な場合には、英語によるレジュメに限り、編集委員会が仲介するものとする。

5　原稿掲載の可否の決定および査読

原稿掲載の可否は、当該分野の専門家の査読を経て、編集委員会が決定する。

6　校正

(1) 校正は執筆者の責任でおこなう。

(2) 校正時における大幅な訂正は認めない。

7　抜刷

(1) 抜刷を必要とする者は、投稿申し込み時に申告する。

(2) 抜刷の作成費用は、制限部数を超過した分について執筆者の負担とする。

8　図版等

図版、図表、グラフなど印刷に特別の費用を要するものについては、執筆者の負担とする場合もある。

9　原稿提出期日

原稿提出期限は11 月末とする。

10　原稿提出先

原稿は、編集委員に提出する。

11　出版権利用の許諾

論文を投稿する者は、山形大学人文学部に対し、当該論文に関する出版権の利用につき許諾するものとする。

12　論文等の電子化及びコンピュータ・ネットワーク上での公開

(1) 掲載された論文等は、原則として電子化し、人文学部ホームページ等を通じてコンピュータ・ネットワーク上に公開する。

(2) ただし､執筆者が前項に規定する電子化･公開を希望しない特別の理由を有する場合は、当該論文の電子化・公開を拒否することができる。その場合は原稿提出時に申し出る。

鳶色の靄の彼方に

―『その前夜』の翻訳と受容をめぐる試論

相沢　直樹

はじめに

日本の近代文学の発展にツルゲーネフが大きな影響と寄与を果たしてきたことは、今日広く認められている。しかし、二葉亭四迷の『あひゞき』（明治二一年＝一八八八年）の登場があまりに衝撃的な事件であったためか、わが国におけるツルゲーネフ受容をめぐる研究（1）は、『猟人日記』や『散文詩』の中の個々の短篇を主要な対象としたり、長篇小説を扱う場合も（時代により力点の置かれ方は異なるとしても）『ルーヂン』、『父と子』と『処女地』への関心の集中が見られ、『その前夜』はこれまであまり注目を集めて来なかった。

しかし、『その前夜』は明治時代のわが国で最初に完訳されたツルゲーネフの長篇小説（2）であり、以後この小説については昭和に至るまで連綿と様々な翻訳が発表されて来ている。また、『その前夜』という作品がわが国の文学者たちに影響を与えたり、創作上の刺激となった可能性も看過できない。多くは英語・日本語による翻訳や作品紹介を通しての受容や理解と推測されるが、ここにはわが国におけるツルゲーネフ受容のひとつの形が窺えるように思われる。

本稿では、『その前夜』受容史研究の一環として、日本におけるこの作品の翻訳のされ方、わが国の文学者たちによるこの作品の受容のあり方について考察してみたい。

1．明治期の翻訳から『その前夜』劇まで

明治期の三つの『その前夜』

ツルゲーネフ（一八一八～一八八三）は生涯に六篇の長篇小説（ロマン）を残した（3）。その中で『その前夜』（一八六〇）は三作目に当たるが、明治時代のわが国では、興味深いことに、この小説の様々な翻訳が発表されていた。多くは部分訳であるが、驚くべきことに、完訳も二つ存在した。

ひとつは明治二二年（一八八九）に五七居士（佐波武雄）によってロシア語原典から翻訳され、雑誌「やまと錦」に連載された『あさの花美さほ草紙』（4）で、これは『その前夜』の最初の日本語訳であるのみならず、ツルゲーネフの長篇小説すべての中でわが国で最初に完訳されたものでありながら、長く忘れ去られていた。

もう一つは相馬御風がコンスタンス・ガーネットの英訳から

重訳して出した『その前夜』（明治四一年＝一九〇八年）で、刊行以来わが国で広く読まれ、石川啄木ら文学者を刺激して実り多かった。

また、邦訳ではないが、ガーネットによる英訳の *On the eve* の意義も見逃すことはできない。これは明治二八年（一八九五）にロンドンで刊行されたが、この翻訳を含む彼女の『イワン・ツルゲーネフ小説集』全一五巻は、田山花袋・國木田独歩・島崎藤村ら若き文学者たちを強く刺激し、文学的開眼をもたらしたとされる（5）。

楠山正雄の脚色

一方、大正時代に入っても『その前夜』に対する関心は衰えを見せず、相馬御風がガーネットの英訳から重訳した『その前夜』は、島村抱月が主宰する新劇団「芸術座」の楠山正雄によって脚色されて、大正四年（一九一五）四月二六日から三〇日にかけて、帝国劇場で松井須磨子の主演で上演された。

この劇はもちろんツルゲーネフの『その前夜』に基づいたものではあるが、原作とは趣を異にする所が多々ある。管見によれば、楠山正雄の脚本をツルゲーネフの原作小説と比較すると、以下のような六点が浮かび上がって来る（6）。

（1）人物や場面の設定の簡略化

（2）主人公インサーロフに対する期待の地平の後退

（3）原作の全篇に垂れ込めていた悲劇的予感の喪失ないし減退

（4）「新しい女」としてのエレーナ像

（5）「魔法の街」という性格付けを失ったヴェネツィア

（6）暗く物悲しい音楽の除外と新たな劇中歌の導入

右の（3）と（6）を裏づけるように、『その前夜』劇についての上演当時の劇評や記事には、この芝居を「春の夜の夢の如き暖き恋物語り」（大島寶水：「讀賣新聞」四月二五日）などと性格づけているものが散見されるが、こうした捉え方は、芸術座の幹部達による『その前夜』原作の捉え方をなぞったものと言える。

芸術座の『その前夜』劇と『ゴンドラの唄』

大衆劇による劇団経営の安定と小劇場での理想の芸術の追求という「二元の道」を標榜した芸術座の大劇場での演目の性格上想像に難くないが、『その前夜』劇はロシア通の玄人筋からはあまり評価されなかった。たとえば、ロシア文学にも造詣の深かった才人の内田魯庵はインサロフとエレエナが恋を語る場面の景色を見て、「彼（あ）れはどうしても露西亜（ロシア）の景色ではない、和蘭（オランダ）である」、「ツルゲーネフの好きな灰色は何處にも求められ

ない」と苦言を呈している（7）。

かと言って『その前夜』劇は大衆に支持されたとも言えなかった。島村抱月はいわば「妥協芸術論」の立場から、観客を芝居の世界に引き込むために、『その前夜』劇の上演に際しても音や光の変化を多用したりして舞台にインパクトを与えようとしたようだが、当時の劇評を見るかぎり、それが成功したかどうかは怪しい。

トルストイ原作の『復活』劇が大当たりをとって芸術座の危機を救ったのは、この前年のことだった。この時の劇中歌の『カチューシャの唄』の大流行に気をよくしたのか、『その前夜』劇にも大小五つの劇中歌が用意されたが、今日まで歌い継がれているのは吉井勇詞・中山晋平曲による『ゴンドラの唄』のみである。

トルストイの『復活』そのものに『カチューシャの唄』がなかったように、ツルゲーネフの原作小説にも『ゴンドラの唄』に当たるものは出て来ない。おまけに今回の歌はロシアではなくイタリアに関わる物だったので、時代をくだると『ゴンドラの唄』の出自、この歌とツルゲーネフの関係などはすっかり忘れられてしまった（8）。

芸術座の『その前夜』劇は、わが国における『その前夜』受容のひとつの頂点であり、副産物でありながら長く息づいている『ゴンドラの唄』は、その鬼子のようなものと言えようか。

2．革命と社会主義の影、あるいは田中純訳『その前夜』

「ツルゲーネフ全集」の構想

『その前夜』劇の上演から三年あまり過ぎた大正七年（一九一八）に、田中純が『その前夜』を訳して新潮社から出した。筆者の手許にある大正九年（一九二〇）の第八版の巻末にある広告を見ると、「ツルゲーネフ全集」として以下の六冊が挙げられている（9）。

（1）『獵人日記』生田長江訳
（2）『ルーヂン』田中純訳
（3）『初戀』生田春月
（4）『その前夜』田中純訳
（5）『煙』大貫晶川訳
（6）『父と子』谷崎精二訳

本のタイトルや副題に「ツルゲーネフ全集」と冠してある訳でも、第何巻と記してある訳でもないので、これは体系的に編集された厳密な意味での全集ではなさそうだが（10）、曲がりなりにもこの時点で「全集」が意識されていたことが分かる。

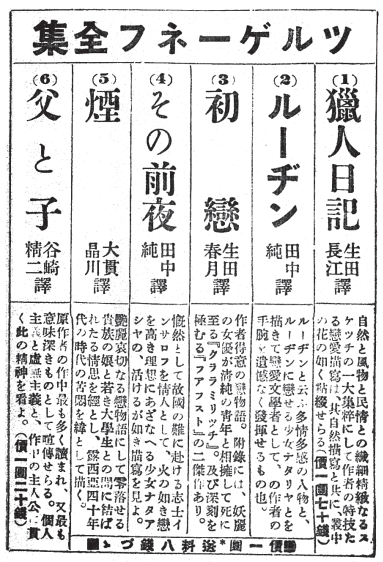


図 1:「ツルゲーネフ全集」広告（田中純訳『その前夜』より）

田中純の「解題」

田中純（一八九〇～一九六六）は早稲田の英文科の出身の小説家、文芸評論家、翻訳家で、クロポトキンの『露西亜文芸の主潮』の訳（大正六年＝一九一七年）など、早くからロシア文学の翻訳を手がけ、大正九年には同じく新潮社から『處女地』の翻訳も出している。『その前夜』の訳書には原典が明記されていないが、ガーネット等の英訳からの重訳と推察される。

この翻訳の冒頭には「解題」が置かれている。田中の見方には必ずしも当時のわが国の文学者たちに一般的ではない所もあるように思われるが、（いや、だからこそと言うべきか）この作品の本質をよく捉えているように思われるので、そのまま引用する。

「その前夜」はツルゲエネフが「ルーヂン」を書いてから四年の後、一千八百五十九年に書いたものであつて、ツルゲエネフの全作中、最も藝術的な感觸に富んだものだと言はれて居る。

此の小説は、見方によつては、「ルーヂン」の續篇だと言つても可い。無論、その筋の上には、何等の脈絡もないが、此の作の人物の性格には、それ〴〵「ルーヂン」からの或る發達が認められる。ルーヂンの理想主義に、容易に感激したあのナタリヤは、此の作に於ては、更に積極的な實行的な理想主義者エレーナとなつて現れて居り、言葉のみあつて實行のない理想主義者ルーヂンは、此の作に於ては、純粋な實行家で、鐵の如き手ざはりを持つ革命家インサロフとなつて現れて居る。而も、此の小説が世に出て間もなくして、かくの如き男女が、實際にロシアの全土に輩出して、それぞれの實際運動に着手したのであつた。その意味に於て、此の作は實に、來らんとするロシアの大革命の、「その前夜」を描いたものであつたのだ。

此の作はこれ迄、様々に脚色されて、各國の劇場に上されて居り、日本の舞臺にも上されたことがあるが、實際、ツルゲネエフ（ママ）の作品中で、舞臺に上し得る唯一のものであらう。それ程に、この作の構成は戯曲的である。(11)〔傍

点引用者）

「來らんとするロシアの大革命」とは、一九一七年のロシア革命のことを念頭に置いているものと考えられる。世界を震撼させた大事件は、ちょうど田中純の翻訳が刊行される前年に起こったのであった。「大正浪漫」というのどかな言葉とは裏腹に、この時代は革命と社会主義の影にも縁取られていたことを忘れてはならない。

3．鳶色の靄、あるいは芥川龍之介の見た火花

「レニン」をめぐるアフォリズム

この時代を生き、この時代とともに死んだと言える芥川龍之介も社会主義への屈折した関心を示している。

彼の遺稿の中に「僕の瑞威（スキツツル）から」という題のもとにまとめられた一連の詩がある。「信條」からはじめて、「レニン第一」、「レニン第二」、「レニン第三」、「カイゼル第一」、「カイゼル第二」、「カイゼル第三」、「手」「生存競争」、そして「立ち見」まで、アフォリズム風の詩が並んでいるが、そこからは革命と社会主義、何よりレーニンに対する彼の関心の浅からぬところを看て取ることができる。

レニン第三

誰よりも十戒を守つた君は
誰よりも十戒を破つた君だ。

誰よりも民衆を愛した君は
誰よりも民衆を軽蔑した君だ。

誰よりも理想に燃え上がつた君は
誰よりも現實を知つてゐた君だ。

君は僕等の東洋が生んだ
草花の匂のする電氣機関車だ。（12）

手

諸君は唯望んでゐる、
諸君の存在に都合の善い社會を。

この問題を解決するものは
諸君の力の外にある筈はない。

ブルジヨアは白い手に
プロレタリアは赤い手に
どちらも棍棒を握り給へ。

ではお前はどちらにする？

僕か？　僕は赤い手をしてゐる。
しかし僕はその外にも一本の手を見つめてゐる、
——あの遠國に飢ゑ死したドストエフスキイの子供の手を。

註　ドストエフスキーの遺族は餓死せり。（13）

「露訳短篇集の序」

芥川龍之介のロシアに対するいささか強迫的とも呼べそうな関心の持ち様には多分に革命や社会主義との関わりで考えられるべきものがあるのは確かだが、その一方で芥川によるロシア文学受容には、どこか不思議なほどの親近感や懐かしさといった、個人的な感覚・感情に由来する面があることも見逃せない。

たとえば、彼の作品のロシア語訳がソ連で刊行されることに合わせて用意された「露譯短篇集の序」（昭和二年＝一九二七年（14））の中で、「最も理想に燃え上つたと共に最も現實を知つてゐたレニン」を「源頼朝や徳川家康に可なり近い」「東洋的な政治的天才」と呼び、「東洋の草花の馨りに滿ちた、大きい一臺の電氣機關車」に喩えるまでしながら、ロシア文学がわが国に与えた影響の大きさと日露両国民の親近性との関係について次のように述べていることに注目すべきであろう。

近代の外國文藝中、ロシア文藝ほど日本の作家に、——と云ふよりも寧ろ日本の讀書階級に影響を與へたものはありません。日本の古典を知らない青年さへトルストイやドストエフスキイやトゥルゲネフやチェホフの作品は知つてゐるのです。我々日本人がロシアに親しいことはこれだけでも明らかになることでせう。〈…中略…〉近代の日本文藝が近代ロシア文藝から影響を受けることが多かつたのは勿論近代の世界文藝が近代のロシア文藝から影響を受けることが多かつたのにも原因があるのに違ひありません。しかしそれよりも根本的な問題は何かロシア人には日本人に近い性質がある爲かと思ひます。我々近代の日本人は大きいロシアの現實主義者たちの作品を通して（durch, through）兎に角ロシアを理解しました。どうか同様にロシア人諸君も我々日本人を理解して下さい。〈…中略…〉千八百八十年以後の日本は大勢の天才たちを生みました。それ等の天才たちは或は Walt Whitman のやうに人間に萬歳の聲を

送り、或は Flaubert のやうに正確にブルヂヨアの生活を寫し、或は又世界中にひとり我々の日本にだけある、傳統的な美を歌ひ上げてゐます。若しわたしの作品の飜譯を機會にそれ等の天才たちの作品もロシア人諸君に知られるとしたらば、それは恐らくはわたし一人の喜びだけではありますまい。この文章は簡單です。しかしあなたがたのナタアシアやソオニアに我々の姉妹を感じてゐる一人の日本人の書いたものです。どうかさう思つて讀んで下さい。(15)〔傍点引用者〕

「火花」

芥川龍之介とロシア文学というと、トルストイとツルゲーネフのあいだの心理劇を描いた『山鳴』(大正一〇年＝一九二一年)がよく知られているが、大正末から昭和初めにかけて発表された『追憶』の中の「火花」(大正一五年＝一九二六年一二月)という文章の中にこんな一節がある。

やはりその頃の雨上りの日の暮れ、僕は馬車通りの砂利道を一隊の歩兵の通るのに出合つた。歩兵は銃を肩にしたまま、黙つて進行をつゞけてゐた。が、その靴は砂利と擦れる度に時々火花を發してゐた。僕はこのかすかな火花に何か悲壮な心もちを感じた。

それから何年かつた後、僕は白柳秀湖氏の「離愁」とか云ふ小品集を讀み、やはり歩兵の靴から出る火花を書いたものを發見した。(僕に白柳秀湖氏や上司小劍氏の名を教へたものも或はヒサイダさんだつたかも知れない。)それはまだ中學生の僕にも僕自身同じことを見てゐたせゐか、感銘の深いものに違ひなかつた。僕はこの文章から同氏の本を讀むやうになり、いつかロシヤの文學者の名前を、——殊にトウルゲネフの名前を覺えるやうになつた。それ等の小品集はどこへ行つたか、今はもう本屋でも見かけたことはない。しかし僕は同氏の文章に未だに愛惜を感じてゐる。殊に東京の空を罩める「鳶色の靄」など、云ふ言葉に。(16)〔傍点引用者〕

中学時代の芥川にツルゲーネフの名を教えたのは、社会主義者としても知られる白柳秀湖だったと作家自身が述べているのは興味深い。そして、次節で明らかになるように、子細に見てみると、「鳶色の靄」という言葉も白柳秀湖が『離愁』の中で『その前夜』を扱った文章に由来するものであることが知れるのである。

4．武蔵野のヱレン、あるいは白柳秀湖「枯れ野のまぼろし」

白柳秀湖と『離愁』

芥川が右で触れていた白柳秀湖の『離愁』は、明治四〇年（一九〇七）一〇月刊行の言わばエッセイ集で、ロシアの文学と作家が詳しく紹介されている。

その中で白柳秀湖は、ロシア文学の生命の源は「闊大にして荒涼、漠々として蒼茫たる北欧大平原の風景」であると指摘して、ツルゲーネフの描写法について次のように述べている。

> 由來平原の風景は『印象主義』の描寫法を以てすべく、また『自然主義』、『實寫主義』を以てすべし、『ゴルキー』が北歐平原の風景を描寫し來るや、正に印象法を以てし、『ツルゲネフ』が之をなすに於ては、『自然主義』を以てす、『ゴルキー』の筆致は雄健にして皺法に富み、『ツルゲネフ』に至りては纖麗、緻密なる線を用ひて廣濶なる視野を最も慧巧に且つ大膽に描寫し得たるが如き趣あり。
>
> 露西亞の文學をいふもの先づ必ず此北歐大平原を語らざるものなし、自然の感化も亦偉大なりといふ可し。(17)〔傍点引用者〕

白柳秀湖がこの書の中に「北歐の双星」という大きな章を設けて、ツルゲーネフとトルストイを比較しながら論じていることからも、ツルゲーネフが重要視されていることがよく分かるであろう(18)。

作家の生涯と「四大傑作」を論じた節では、『その前夜』について次のように評価している。

> 『オン、ゼ、イーブ』は一八六〇に出たので、ヱレンという露西亞型の健全な、優雅な少女とインザロフといふ波蘭の志士との間の悲壮な戀を寫したものであつて、此篇はツルゲネフの自然の描寫に對する技倆を代表すべき作として持て囃されて居る。自分の文壇の友などもベニスの海の景色や、劇場の處、畫室のあたりを、殆ど語を盡して激賞して居る。(19)

「枯野のまぼろし」

白柳秀湖の『離愁』の中で『その前夜』を幻想的な筆致で紹介しているのが、巻頭から二番目に置かれた「枯野のまぼろし」という文章である。これは、「筑波颪」の吹く「武蔵野」で見た幻影の話で、語り手である「自分」の目の前に『その前夜』の女主人公「ヱレン」が現れるという趣向になっている。

空の靜かな霜日和の午後、この曠原は屡大氣の變化をうけて、鳶色の靄に包まれる事がある。

若し身を切る様な筑波嵐が、黒土の香のする武藏野の煙塵を掲げて、行人の影を没する事が無かつたならば、蕭條たる枯野の逍遙も決して春秋の興樂に劣らないであろう。(20)

もはやお気づきであろう。「花火」の中で芥川が愛惜をもって思い出していた「鳶色の靄」は、こんな所に顔を出していたのだ。芥川と『その前夜』との不思議な因縁と呼ぶべきか。

恍惚の谷

さて、「自分」が「南郊のとある岡」をたどり、「灰色の裸體の森」の「小徑」を進み、「影の疎な櫟林に」歩み入り、「熊笹の岡」をだらだらと下りると、目の前に「稍廣い池」があった。「自分」は杉の木立の草を藉いて、氷の解ける音を聞きながら、いつしか「恍惚の谷」に陥る。この時ふと落葉を踏むものの気配に驚いて振り返ると、そこには一人の気高い、二十歳あまりの乙女が立ちつくしていた。大理石よりも白い彼女の面は、明かに北国の系統を示していた。彼女は口を開いて『おゝ自由の友よ、革命の友よ、御身は妾を忘れ給ひしか、妾は一夜、かのベニスの港にて分れまゐらせしエレン也』と言う。

エレン！おゝ乙女はかのエレンであつた。彼女は北歐の自然の精華を一身に凝らして、現世の偏見と迷妄との外に人となつた清洒端麗の乙女であつた。(21)

「自分」は「エレン」自身の口から彼女の身に起きた「美しき昔語」を聞かせてくれるよう彼女に乞う。彼女の言葉の中に作品のタイトルこそ出てこないが、「エレン」、「シユビン」、「ベルゼネフ」、「インザロフ」、「ベニス」、「ブルガリア」等の言葉から他ならぬ『その前夜』の物語世界と知れる。

彼女が「インザロフ」との恋に落ちた顛末を語るのを聞きながら、「自分はエレンが其美しき面に稍羞恥の色を帶びながら語る其をりの心的叙述の巧みなるに、殆ど恍惚として我を忘れた」。

幻影の街

「エレン」と「インザロフ」は「ベニス」に渡って彼の故国の同志がもたらすはずの旗上げの知らせを待ちわびながら、楽しい旅行の歓楽に酔っていたが、「インザロフ」の肺の病はもはや致命的なものになっていた。「いかに果敢なかりける我世の春よ」と「エレン」は嘆く。

かくてエレンは其詩的の快辯を揮ふて、當時の追懐をかた

り、インザロフと共に伊太利の畫堂を訪れた時の光景や、それから劇場に行つて、さる女優がトラビアタのヴイオレツタに扮して、苦しい血を吐くような咳をする處を演ずる、其聲が觀覽席に居るインザロフの眞の咳と相和すといふ悽愴な光景を殆ど畫の如くに語つた。(22)

やがて「エレン」が「インザロフ」の最期を看取り、彼の棺を載せたゴンドラが港を漕ぎ出るさまが描き出される。

只見るベニスの港頭、天暗く、水黒く、一穂の紅燈闇に照り、婆娑として油の如き水に落ちるの時、一艘の小舟は一個の棺を載せてしのびやかに漕ぎ出でた。船には金髪、黒瞳、花の如き佳人と、頑健、鐵の如き革命の志士とが、無限の痛恨無限の悲愁を抱いて、棺蓋に身を横へて居る。(23)

最後に、「自分」はすべてが幻であったことを悟る。

突如として鵯がけたゝましく叫んだ。

自分のレベリーは忽焉として破れた。自分は依然目黒を一里と距てない、南郊のとある古池のほとりに倨して居る。何時の間にか日も傾いて風が出たのか、かの鳶色の靄はとうに消えて、冬の夕日が青く對岸の松林を斜に照して居る。

氷の解ける音はもうやんでしまつた。自分は此時夢の醒めたあとの様な、激しい悪寒に、思はず戰慄を覺えたのである。(24)

武蔵野という装置

ここで白柳秀湖は二葉亭の『あひゞき』を通して「武蔵野」を再発見した国木田独歩の体験と手法を（おそらく意識的に）継承しているように見える。独歩と秀湖に共通しているのは、ロシアの大平原や田園地帯、田舎の自然とわが国の風景を結ぶ媒介項・舞台装置として「武蔵野」を捉える態度ないし手法である。

そこで「武蔵野」は、言ってみれば、文学者たちが自分たちの文学的空想を自由に盛り込むことのできる容れ物として立ち現れている。そこには、武蔵野を一種の比喩としてロシアの自然と文学を語る，あるいは逆に、ロシアの田舎をいわば借景として武蔵野を描き出すというレトリックないし文学的戦略が看て取れるのではないだろうか。霧や靄、それらによって呼び起こされる幻影は、二つの世界をつなぎ、二重性を演出するための仕掛けとなっているのだ。

さらに言えば、そこにはロシア人、それもとりわけ文学作品

に登場する女性主人公たちに対する、ほとんど血縁的なものまで含まれるのではないかと思われるような親近感が表明されており、読者たちとの間で暗黙の内に共有されたそのような親近感を前提に、文学的空想が節度をもって展開されている。

その意味で、芥川龍之介は白柳秀湖から「トウルゲネフの名前」を教えられただけでなく、ロシア文学の女性主人公たちに対する名状しがたい親近感、東京・武蔵野の空の彼方に昔のロシア文学の世界を覗き見るという感覚とレトリックを引き継いだと言えるのではなかろうか。

5. 遠いこだま、あるいは島崎藤村『夜明け前』考

「ルウジンとバザロフ」

田中純の『その前夜』が出た二年後（大正九年＝一九二〇年）、「ルウジンとバザロフ」というエッセイの中で島崎藤村は次のように述懐している。

> ツルゲネエフと言へば、私達が英譯で初めてあの露西亞の小説家を知つた頃の青年時代の記憶と引きはなしては考へられないくらゐだ。若かつた日の友達仲間でツルゲネエフの愛讀者でない者は無かつたくらゐに、私達はあの樺色の表紙のついた二冊の『獵人の手記』なぞに讀み耽つたことを覺えて居る。私は友達と集つて『處女地』や『父と子』に就いて語り合つた青年時代の感激を今も猶あり〳〵と思ひ起すことが出來る。その時の友達の言つた言葉なぞで今だに私の耳に殘つて居るものもある。(25)

懐旧の情に駆られた藤村は、もう一度ツルゲーネフを読むべく、銀座で田中純訳の『ルーヂン』と谷崎精二訳の『父と子』を買い求めて読み返している(26)。このエッセイの中では専らこの二作が取り上げられ、長篇小説では『煙』と『處女地』にもわずかに触れられているが、『貴族の巣』と『その前夜』については全く言及がなく、あまり関心も寄せていなければ評価も低かったのだろうかとも思われる。

遠いこだま

しかし、筆者がひそかに関心を寄せずにいられないのは、昭和になってから発表された藤村の『夜明け前』（昭和四年～一〇年）と『その前夜』の関係である。大変近似したタイトルに象徴されるように、両者には何か大きな変革の「前夜」にとどまっているという意識が通底している(27)。

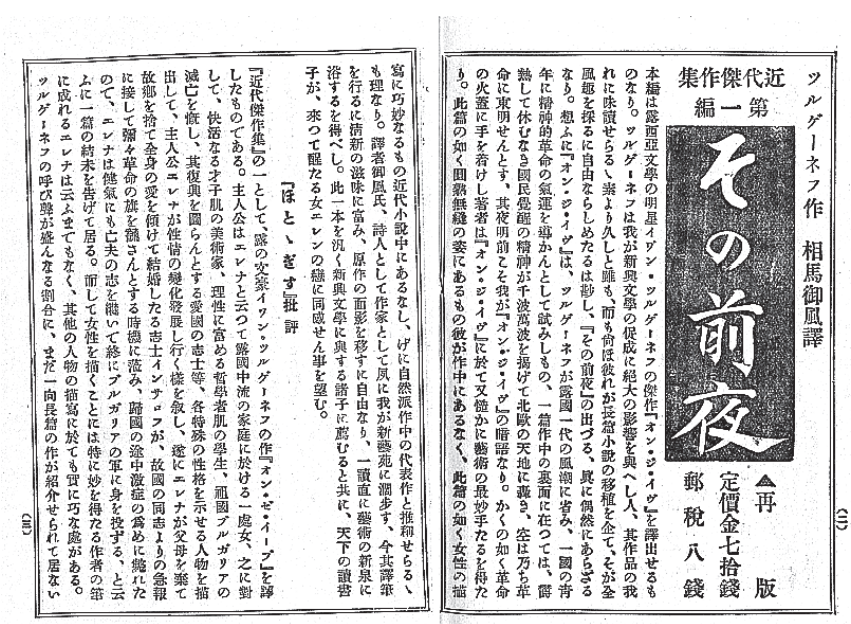
物語の設定や展開にも似通った所がある。驚くべき事に、ふたつの物語は全く同じ年の出来事から始まっているのだ。『そ

の前夜』が「一八五三年の暑い夏の日」に始まり、翌年四月のインサーロフの急死（＋約五年後の後日談）までの物語であるのに対し、『夜明け前』にはペリーの黒船を迎えた一八五三年の夏から、明治憲法発布の三年前に当たる一八八六年に主人公が狂死するまでが描かれており、主人公の病死や狂死によって迎える幕切れはいずれも暗澹としている。

『夜明け前』の語り手が「人々は進歩を孕（はら）んだ昨日の保守に疲れ、保守を孕んだ昨日の進歩にも疲れた。新しい日本を求める心は漸く多くの若者の胸に萌して來たが、しかし封建時代を葬ることばかりを知つて、まだまことの維新の成就する日を望むことも出來ないやうな不幸な薄暗さがあたりを支配してゐた(28)」と言えば、『その前夜』は「ロシアには新しい人間が出て来るだろうか」というシュービンの問いかけにかつて「出て来る」と答えたウヴァール老人が、今回は指を動かして、謎のような眼ざしを遠くに注ぐところで終わっている。ここには、特定のイデオロギーや宗教をファナティックなまでに信奉することができず、未来に楽天的になれない作者たちの姿があるように感じられる。

『その前夜』広告

ここで、吉江孤雁の『ツルゲーネフ短篇集』（明治四一年＝一九〇八年）の巻末に置かれた、御風訳『その前夜』の広告文



ツルゲーネフ作　相馬御風譯

近代傑作集　第一編

その前夜

▲再版　定價金七拾錢　郵税八錢

本編は露西亞文學の明星イヴン・ツルゲーネフの傑作『オン・ジ・イヴ』を譯出せるものなり。ツルゲーネフは我が新興文學の促成に絶大の影響を與へし人、其作品の我れに味讀せらるゝ素より久しと雖も、而も尚ほ彼れが長篇小說の移植を企て、そが全風趣を採るに自由ならしめたるは尠し、『その前夜』の出づる、眞に偶然にあらざるなり。想ふに『オン・ジ・イヴ』は、ツルゲーネフが露國一代の風潮に省み、一國の青年に精神的革命の氣運を導かんとして試みしもの、一篇作中の裏面に在つては、霹靂して休むなき國民覺醒の精神が千波萬波を揭げて北歐の天地に轟き、空は乃ち革命に東明せんとす、其夜明前こそ我が『オン・ジ・イヴ』の暗語なり。かくの如く革命の火蓋に手を着けし著者は『オン・ジ・イヴ』に於て又慥かに藝術の最妙手たるを得たり。此篇の如く圓熟無縫の姿にあるもの彼が作中にあるなく、此篇の如く女性の描寫に巧妙なるもの近代小說中にあるなし、げに自然派作中の代表作と推稱せらるゝも理なり。譯者御風氏、詩人として作家として夙に我が新藝苑に濶歩す、今其譯筆を行るに清新の滋味に富み、原作の面影を移すに自由なり、一讀直に藝術の新泉に浴するを得べし。此一本を汎く新興文學に與する諸子に薦むると共に、天下の讀書子が、來つて醒たる女エレンの戀に同感せん事を望む。

『ほとゝぎす』批評

『近代傑作集』の一として、露の文豪イヴン・ツルゲーネフの作『オン・ゼ・イーブ』を譯したものである。主人公はエレナと云つて露國中流の家庭に於ける一處女、之に對して、快活なる才子肌の美術家、理性に富める哲學者肌の學生、祖國ブルガリアの滅亡を慨し、其復興を圖らんとする愛國の志士等、各特殊の性格を示せる人物を描出して、主人公エレナが性情の變化發展し行く樣を叙し、遂にエレナが父母を棄て故郷を捨て全身の愛を傾けて結婚したる志士インサロフが、故國の同志よりの急報に接して彌々革命の旗を飜さんとする時機に蒞み、歸國の途中激症の爲めに斃れたので、エレナは健氣にも亡夫の志を繼いで終にブルガリアの軍に身を投ずる、と云ふに一篇の結末を告げて居る。而して女性を描くことには特に妙を得たる作者の筆に成れるエレナは云ふまでもなく、其他の人物の描寫に於ても實に巧な處がある。ツルゲーネフの呼び聲が盛んなる割合に、まだ一向長篇の作が紹介せられて居ない

図２：相馬御風訳『その前夜』の広告（吉江孤雁『ツルゲーネフ短篇集』より）

（執筆者未詳）に興味深い一節を見つけたので紹介したい。

想ふに『オン・ジ・イヴ』は、ツルゲーネフが露國一代の風潮に省み、一國の青年に精神的革命の氣運を導かんとして試みしもの、一篇作中の裏面に在つては、鬱熱して休むなき國民覺醒の精神が千波萬波を掲げて北歐の天地に轟き、空は乃ち革命に東明せんとす、其夜明前こそ我が『オン・ジ・イヴ』の暗語なり。(29)［傍点引用者］

藤村がそれなりに話題になった御風訳の『その前夜』を知らなかったとは考えられない。また、この節の冒頭で示したように、彼は田中純訳の『ルーヂン』を銀座で見つけて読んでおり、同じ訳者の『その前夜』にも目を通していた可能性は低くない(30)。いずれにしても、藤村は『その前夜』という日本語のタイトルにも親しんでいたはずである。

『千曲川のスケッチ』にはタイトルからして『猟人日記』の、『春』には『処女地』からの影響の可能性があると言えるのならば(31)、『夜明け前』と『その前夜』の関係についても議論を深める余地は十分にあるように思える。

6．残照――『その前夜』翻訳略史

「心の花」

明治四一年（一九〇八）二月から六月（ちょうど相馬御風訳の『その前夜』が出た時期の前後に重なる）にかけて、雑誌「心の花」の第一二巻第二号・第四号・第五号・第六号に、「さすらへびと」なる筆名の訳者による『その夕べ』という翻訳が載ったことがあった(32)。ここにはツルゲーネフの長篇小説の第一章から第四章に相当する箇所が訳出されている。

「その一」と題された、原作の第一章に相当する箇所の冒頭を以下に示してみよう。

一千八百五十三年の夏のいと暑き日のことなりき。クウントソホより程遠からぬモスクォ川の岸なる、丈高き菩提樹の蔭に、二人の若人草敷きて横はれり。一人は年の頃二十三歳餘りと覺しく、丈高く肥えたり。劣りてかつ稍曲れるその鼻、高きその額、廣く結べるその口には笑をつゝめり。彼はあふむけに打臥し、その小さき灰色の眼を半ば閉ぢて、物思はしげに遠きあなたを眺めたり。他の一人はうつむけになり、双の手もて、その攀れたる髪の毛美しき頭を支へぬ。彼もまた遠方を眺めいれり。この人はその友

よりは稍年たけたれど、はるか若やぎて見ゆ。彼の頬には僅かに髭生ひそめ、その顎には薄き柔らき毛見ゆ。彼が爽かなる丸顔の小作なるがうちに、柔和なる鳩色の眼のうちに、愛らしく結べる唇のうちに又小さき手のうちに、何となう幼げなる美しさと人を惹付くるやうな優しさとあり。彼の身のまはりなるものはなべて、健やかなる若人の幸福なる氣軽さ——無頓着や、自負や、不遠慮や、はた若人の愛嬌など、を示せり。彼は子らが人々に賞められ見らる、時に爲すが如き、見まはし打笑みて頭を傾けぬ。彼は寛衣の如く作られたる寛やかなる白き上衣を着、その細き首には青色の布を纏へり。古びたる麥藁帽子は、彼のかたへに草の上に投け出されたり。

彼が友は、打見たるところ寧ろ彼とはふけたり。その痩せぎすなるを見ては、何人も彼もまたその友の如く、しかく、幸福にかつ自ら樂めりとはえ想はざるべし。彼の打臥したる様は醜し、その鉢ひらけたる大なる頭は、彼の長き首の上に無細工に載れり。彼の手、短かき黒の上衣をもて究屈に装へるそのからだ、及び蟋蟀の後足の如くもたけたる長き兩脚など、彼の姿は凡て醜し。しかも猶、彼が善良なる教育うけたる人なることは、何人も認めうべし。彼が氣のきかざる様子のうちにも、良き教育の痕あり。その平凡なる、否寧ろや滑稽なる面も、その性のあたゝかさと、平生の思慮深さとを示せり。この人の名はアンドライ、ペトロウイツチ、ベルシ子ツフと言ひ、彼の友なる髪の毛美しき若人は、パウル、ヤコブリツチ、シユウビンとぞ言ふなる。

『何故に君はうつむきて臥せざるにか、わが如くに。』シ（マ）ウビン口を開きぬ。(33)

「クウントソホ」、「モスクォ川」、「アンドライ」などの表記が見られることから、ロシア語原文からではなく、ドイツ語訳などからの重訳と思われるが、「さすらへびと」が誰なのかは謎のままである。

田中純以後の翻訳

次に、田中純の後に出た翻訳（単行本）について見てみよう。

大正一〇年（一九二一）に冬夏社から出た『ツルゲーニエフ全集二巻』の中に、牧一也訳の『その前夜』が収められている。昭和三年（一九二八）には中央出版社の「袖珍世界文学叢書一一」として、品川準訳の『その前夜』（イヴン・ツルゲネーフ作）が出た。

米川正夫は『その前夜』の訳を何度も出しているが、昭和五年（一九三〇）に隆章閣から出た『ツルゲーネフ全集五巻』の中にあるのが、おそらく最初のものだろう。

昭和一二年（一九三七）には三笠書房から原久一郎が『初恋』と『その前夜』を抱き合わせた翻訳（トゥルゲーニェフ作）を出している。昭和一八年には石井秀平訳『その前夜』が高山書院から出た。

戦後の昭和二六年（一九五一）には、湯浅芳子訳の『その前夜』が岩波文庫から出た。そして、昭和三七年（一九六二）に筑摩書房から出た「世界文学大系三一（ツルゲーネフ）」に収められた、金子幸彦訳の『その前夜』が、おそらく活字になった最後のものということになろう。それから半世紀あまりが過ぎようとしている(34)。

結びにかえて――近代日本の白楽天

『その前夜』はツルゲーネフの長篇小説のなかで最初に完訳されて発表されたもので、かつ明治時代に二度完訳された作品（一度目はロシア語原典から、二度目は英訳からの重訳）であるが、その後この作品は、わが国におけるツルゲーネフ受容の主流にはならなかったし、ツルゲーネフもロシア文学受容の中心から外れて行った。これは、明治から大正にかけてのある時点で特異な方向に舵を切った、わが国の文学史の流れとも無縁ではなさそうだ。

自然主義後期の代表作家とされる國木田独歩、田山花袋、島崎藤村は、いずれも詩人として出発し、やがて小説家に転じた。そして、彼らはいずれも若い頃ツルゲーネフに傾倒したことが知られている。わが国における「自然主義」の誕生と伸張にツルゲーネフが寄与しているのだとすれば、その後ツルゲーネフはその自然主義によって切り捨てられた、とさえ言えるのかも知れない。ツルゲーネフは「余計者」から始めて行動的人物を描こうとしたが、日本の自然主義は逆に、「非凡人」を求めてその挫折から「余計者」の世界に引き籠もってしまったかのように見える。

それでも、作家たちは「小説家の小説家」（ヘンリー・ジェームズ）と呼ばれたロシアの文豪から小説技法は大いに学び、パトスは秘かに受け継いだのかも知れないし、「自然主義」の時代を過ぎるあいだにツルゲーネフが完全に葬り去られた訳ではなかった。

詩人から出発して散文作家になったもう一人の男、佐藤春夫が昭和二四年（一九四九）に発表した「近代文学の展望」（第四章「外国文学の影響」）の中から次の一節を引用して、小論の筆を擱くことにしたい。

> ゾラは多くの問題の種を蒔き模倣や換骨奪胎も尠くないのに、その収穫は決して豊富とは云へなかつた。ゾラ以前に渡来して早く歓迎されたツルゲニェフも自然主義時代に

はあつさりもうふるいで危うく葬られさうなところを「その前夜」や「処女地」「父と子」などの新訳によつて、社会小説家、風俗小説家としてでもいふ新しい角度からのツルゲニェフの新展望が生じて、その反権威、反習俗が見直され命脈を保つたといふのも、やはり民族の好尚に適合するところが多いためであつたらう。ツルゲニェフは今日でもまだ新訳或は覆刻版が出て最近まで読者を失つてゐないらしい。渡来以降既に半世紀以上を経てこの状態を保つてゐるのは新陳代謝の劇しい日本の読書界にあつては希有な一例で、ツルゲニェフはそれ近代日本の白楽天とも云ふべきか。(35)

註

(1) 主なものを挙げると——
木村毅「ツルゲェネフと日本文壇」(『砂濱散策』信正社、一九三六年、四三〜六二頁)。
安田保雄「日本におけるツルゲーネフ」(『比較文学論考　続篇』学友社、一九七四年、二四〜五三頁)。
佐藤清郎「あとがきにかえて——ツルゲーネフ受容の歩み——」(『ツルゲーネフの生涯』筑摩書房、一九七七年、二六〇〜二六八頁)。
柳富子「明治ジャーナリズムのなかのツルゲーネフ」(川戸道昭・榊原貴教編『ツルゲーネフ集Ⅰ』(『明治翻訳文学全集『新聞雑誌編』四十』)大空社、一九九六年、三七五〜三八三頁)。

(2) あまり知られていないが、日本の読書界に衝撃を与えた『あひゞき』発表に先立つこと二年、二葉亭四迷を名乗る前の長谷川辰之助は『父と子』の翻訳を試み、坪内逍遙の仲介で出版される手はずだったが、なぜか上梓に至らず、原稿も失われた。この幻の翻訳作品は「春廼家朧助訳・冷々亭杏雨訳」『虚無黨形氣』といい、原作の四分の一くらいの抄訳であったと見られるが、逍遙によれば「其譯は私の知る限りの最初の口語體の小説譯文であった」とされ、実現していればわが国の文学史が書き換えられたかも知れない。

(3) 『ルーヂン』(一八五六)、『貴族の巣』(一八五九)、『その前夜』(一八六〇)、『父と子』(一八六二)、『煙』(一八六七)、『処女地』(一八七七)

(4) この翻訳ははじめ「日本之時事」第二三・二四号に『憂國憐才 美人草』という題で第三回(原作の第三章に相当)まで掲載されたところで連載を打ち切られ、その後間もなく同じく博文館が出していた文芸雑誌「やまと錦」の第七号から第一三号までに『あらしの花 美さほ草紙』という題で改めて掲載されている。

(5) この長篇小説の明治期の三種の翻訳について委細は別稿参照。相沢直樹「三つの『その前夜』——明治期におけるツ

ルゲーネフの翻訳と受容をめぐって――」、『図説翻訳文学総合事典（全五巻）』第五巻：日本における翻訳文学（研究編）、川戸道昭・榊原貴教（編）、大空社、二〇〇九年、一七二～一九一頁。

（6）委細は拙著『甦る『ゴンドラの唄』――「いのち短し、恋せよ、少女」の誕生と変容』新曜社、二〇一二年、一四二～一四九頁参照。

（7）名倉生「須磨子の三役」（「東京朝日新聞」一九一五年四月二十九日、第七面）。

（8）ツルゲーネフの小説『その前夜』と芸術座の『その前夜』劇および『ゴンドラの唄』との関係については、前掲拙著『甦る『ゴンドラの唄』』で詳しく論じた。

（9）筆者の調べたかぎりでは、刊行年は『獵人日記』から『ルーヂン』、『初戀』、『その前夜』までが大正七年（一九一八）、（6）の『父と子』が大正八年（一九一九）、（5）の大貫晶川訳『煙』のみが大正二年（一九一三）である。

（10）国会図書館の書誌情報にも「ツルゲーネフ全集」という記載は見あたらない。

（11）ツルゲエネフ作、田中純譯『その前夜』新潮社、一九二〇年、一～二頁（初版は一九一八年）。原作の発表年についての誤り（正しくは一八六〇年）は相馬御風訳の『その前夜』や楠山正雄の『その前夜』劇脚本の前書きと同じで、おそらく英訳者ガーネットの誤りをそのまま引き継いだものであろう。

（12）『芥川龍之介全集』第九巻、岩波書店、一九七八年、四七二頁。

（13）同、四七三頁。

（14）この「序」の発表時期等について『芥川龍之介全集』の「後記」（五三八～五三九頁）には次のように記されている：「單行本未詳。本全集は普及版全集第八巻所収本文に據り、その文末日付「（昭和二年一月）」に従いここに配した。／昭和二年（一九二七）一月二十一日の野村治輔宛書簡に「飜譯の件は勿論よろしい。序文も同封してお送りします。どうかよろしく」とある。」

（15）同、三七三～三七四頁。

（16）同書、第八巻、一四三～一四四頁。

（17）白柳秀湖『離愁』隆文館、一九〇七年、一六二頁。

（18）なお、木村毅は白柳秀湖の『黄昏』（明治四十二年発表）に「ツルゲェネフの投影があつて、一読に値する」と述べているが、具体的に『黄昏』のどういう所のことなのか、筆者には探り当てられなかった。cf. 木村毅、前掲書、六二頁。

（19）白柳秀湖『離愁』二〇二頁。

（20）同、一〇頁。

（21）同、一四頁。

（22）同、一八頁。

（23）同、一九頁。
（24）同、一九～二〇頁。
（25）『藤村全集』第九巻、筑摩書房、一九七八年、一九頁。なお、雑誌「雄辯」に発表時の原題は「飯倉だより」。
（26）いずれも新潮社が「ツルゲーネフ全集」の名の下に刊行したもので、『ルーヂン』は大正七年に、『父と子』は大正八年にそれぞれ初版が出たばかりであった。
（27）明治維新（一八六八年）、農奴改革（一八六一年）
（28）『藤村全集』第一二巻、筑摩書房、一九七八年、五三五頁。
（29）吉江孤雁『ツルゲーネフ短篇集』内外出版協會、一九〇八年（初版は一九〇七年）。
（30）田中純訳の『その前夜』は新潮社の「ツルゲエネフ全集」第四篇に位置づけられているが、その巻末の広告によれば、同全集第五篇には大貫晶川訳『煙』が入っている。一方、大正二年に同社の「近代名著文庫」第四篇として出た大貫晶川訳『煙』は、「遺友」木村荘太郎の前書きによると、その出版について「洋行前御多忙な中で島崎藤村先生の多大な斡旋を蒙つた」ものであり、藤村がこの間の出版事情に疎かったとは到底考えられない。
（31）前者は安田保雄「『猟人日記』と近代日本文学（一）——田山花袋と島崎藤村」（『比較文学論考　続篇』学友社、一九七四年）六八～七一頁、後者は同「詩人から小説家へ——独歩・花袋・藤村とツルゲーネフ——」（『比較文学論考　第三篇』学友社、一九八一年）二九～三〇頁。
（32）タイトルは初回のみ「その夕」。巻号によっては、また同じ巻号でも本文と目次で「さすらへひと」や「さすらへ人」などと、訳者名の表記が異なることがある。
（33）さすらへびと「その夕（ツルゲ子フ）」、『心の花』第一二巻第二、竹柏會、一九〇八年、二一～二二頁。なお、同巻の目次には「さすらへ人」、「その夕（ツルゲネーフ）」、『こゝろの華』という表記で記されている。
（34）筆者が調べ上げた『その前夜』翻訳のリストを巻末の別表に掲げた。
（35）『定本佐藤春夫全集』第二三巻、臨川書店、一九九九年、二五八頁。「もうふるい」は「もう古い」（という一言で片づけられてしまう）意と推察される。

別表：『その前夜』翻訳のあゆみ

タイトル	訳者	刊行年	雑誌／出版社	備考	作者名
憂国憐才 美人草	五七居士 （佐波武雄）	明22（1889）	「日本之時事」 博文館	「日本之時事」 4月1日, 4月11日	露國都爾給呆 （ツルケ子ーフ）氏著
あらしの花 美さほ艸紙	五七居士 （佐波武雄）	明22（1889）	「やまと錦」 博文館	「やまと錦」第7号～第13号	露國ツルゲー子フ原著／原稿
戀と戀	相馬御風	明40（1907）	「文庫」	『オン・ジ・イブ』 第5章	ツルゲニエフ
二人の友	相馬御風	明40（1907）	「文庫」	『オン・ジ・イブ』 第1章	ツルゲニエフ
エレンの日記	相馬御風	明41（1908）	「文庫」	『オン・ジ・イブ』 第16章	ツルゲニエフ
その夕	さすらへ人	明41（1908）	「心の花」	原作第1章に相当	ツルゲ子フ／ツルゲネーフ
ヴエニスの春	相馬御風	明41（1908）	「ハガキ文學」	『オン・ジ・イブ』 第33章	ツルゲニエフ
その夕べ	さすらへ人	明41（1908）	「心の花」	原作第2章に相当	作者名なし
その夕べ	さすらへ人	明41（1908）	「心の花」	原作第3章に相当	ツルゲネーフ
その夕べ	さすらへ人	明41（1908）	「心の花」	原作第4章に相当	ツルゲ子フ
その前夜	相馬御風	明41（1908）	内外出版協會	近代傑作集第1編	ツルゲネーフ
その前夜	楠山正雄	大4（1915）	新潮社	（脚本）	ツルゲエニェフ
その前夜	田中純	大7（1918）	新潮社	ツルゲエネフ全集 4編	ツルゲエネフ
その前夜	牧一也	大10（1921）	冬夏社	ツルゲーニエフ全集2巻	ツルゲーニエフ
その前夜	品川準	昭3（1928）	中央出版社	袖珍世界文学叢書 11 ツルゲネーフ集	イヴン・ツルゲネーフ
その前夜	米川正夫	昭5（1930）	隆章閣	ツルゲーネフ全集 5巻	ツルゲーネフ
その前夜	米川正夫	昭7（1932）	春陽堂	世界名作文庫	ツルゲーネフ
その前夜	品川準	昭10（1935）	文新社	世界文学名著文庫	ツルゲーネフ
その前夜	米川正夫	昭11（1936）	六芸社	新修普及版　ツルゲーネフ全集3巻	ツルゲーネフ
その前夜	原久一郎	昭12（1937）	三笠書房	初恋：その前夜	トゥルゲーニェフ
その前夜	米川正夫	昭12（1937）	金星堂	真実の書	ツルゲーネフ
その前夜	米川正夫	昭13（1938）	新潮社	新潮文庫	ツルゲーネフ
その前夜	石井秀平	昭18（1943）	高山書院		ツルゲーネフ
その前夜	石井秀平	昭22（1947）	高山書院		ツルゲーネフ
その前夜	米川正夫	昭22（1947）	共和出版社	ツルゲーネフ名作選集3	ツルゲーネフ
その前夜	米川正夫	昭24（1949）	共和出版社	ツルゲーネフ全集7	ツルゲーネフ
その前夜	米川正夫	昭25（1950）	世界書房		ツルゲーネフ
その前夜	湯浅芳子	昭26（1951）	岩波書店	岩波文庫	ツルゲーネフ
その前夜	米川正夫	昭26（1951）	角川書店	角川文庫	ツルゲーネフ
その前夜	米川正夫	昭28（1953）	創元社	ツルゲーネフ作品 4巻ノ内	ツルゲーネフ
その前夜	金子幸彦	昭37（1962）	筑摩書房	「世界文学大系」 31（ツルゲーネフ）	ツルゲーネフ

Beyond the dark-brown hazy sky over Tokyo
― An essay on the history of Japanese translations and the reception of Turgenev's *On the Eve*

Naoki AIZAWA

In this paper I trace the history of the Japanese translations of Turgenev's less famous novel *On the Eve* (1860) and investigate how it was received in Japan.

While Meiji-era Japan saw two full Japanese translations of the novel, the Taishō era saw both a seemingly secondhand translation by Jun Tanaka (1918), and also a dramatization by Masao Kusuyama (1915) for performance by the Art Theater (*Geijutsu-za*) in Tokyo.

I consider some features of the reception in Japan of *On the Eve*, by introducing Shuko Shiroyanagi's fantastic 1907 essay on the novel to which Ryūnosuke Akutagwa made a meaningful allusion, as well as some anonymous translations in the journal *Flower of the Heart* (1908).

Finally, I point out some likenesses between the titles of Tōson Shimazaki's novel *Before the Dawn* and Turgenev's *On the Eve*, and discuss the possibility of Tōson's having borrowed from Turgenev.

編集委員

鈴　木　明　宏　　（法経政策学科）
中　村　篤　志　　（人間文化学科）
西　岡　正　樹　　（法経政策学科）
ライアン スティーブ（人間文化学科）

編　集　者
発　行　者　山形大学人文学部
〒990-8560
山形市小白川町一丁目4－12
責　任　者　北川　忠明
印　刷　所　田宮印刷株式会社
発行年月日　平成27年３月１日

Faculty of Literature & Social Sciences, Yamagata University Annual Research Report

Vol. 12

CONTENTS

Articles

Ubiquity of indirect strategies in interpersonal conflict management
..... Mitsuteru FUKUNO・Miyuki DOBASI..... 1

Swindler Dentist and Pole-Climbing for Rooster: An Analysis of Han Sebald Beham's *Large Kermis* Woodcut ..... Koichi MOTOKI..... 21

An Analysis of Inventory Management Models Using Control Theory
—a case when the lead time is varied ..... Naofumi NISHIHIRA..... 43

Das sich unendlich vergrößernde Volkstum
—Diskurse der zwei Diktatoren, Hitler und Phibun ..... Masanao WATANABE..... 53

Beyond the dark-brown hazy sky over Tokyo
—An essay on the history of Japanese translations and the reception of Turgenev's *On the Eve*
..... Naoki AIZAWA... 1 (170)

Investigation Report

An Investigation Report on Regional Public Transportation System of Tamaki Town in Mie Prefecture — An Investigation Report on Genki Bus — .....Hiroshi SUNADA... 67

2013 Academic Year Report on Reseach and Education 83

Requirements for Contributors 148

MARCH 2015

Faculty of Literature & Social Sciences

Yamagata University